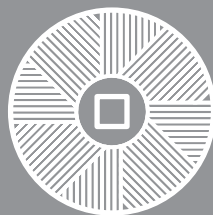


ISSN0913-8838

# 製粉 振興

2022  
No.618  
5



一般財団法人

製粉振興会

---

★目次

---

『食から日本を考える。NIPPON FOOD SHIFT』の  
取組について…………… 5

農林水産省大臣官房政策課  
食料安全保障室 企画専門職 小嶋直樹

---

令和4年度「麦の需給に関する見通し」について…………… 11

農林水産省農産局農産政策部  
貿易業務課 麦類需給第二係長 齋藤雄

---

令和4年4月期の輸入小麦の  
政府売渡価格の改定について…………… 18

農林水産省農産局農産政策部  
貿易業務課 麦類需給第一係長 大塚将史

---

気候変動と食糧危機への処方箋…………… 24

日東富士製粉株式会社 非常勤顧問  
小泉武嗣

---

製粉と小麦粉のお国ぶり:その後 —1—  
アメリカ…………… 32

一般財団法人製粉振興会 参与 農学博士 長尾精一

---

小麦粉のある風景  
「カヌレ」という名のお菓子…………… 34

食文家 ひらのあさか

---

世界の粉界展望…………… 44

---

業務日誌…………… 36  
業界ニュース…………… 38  
国内資料…………… 58  
振興会からのたより…………… 66  
編集後記…………… 67

---

# ウクライナ情勢に伴う国内外の小麦への影響を考える

本年2月24日にロシアはウクライナへの侵攻を始め、毎日のニュースでは建物や車などが破壊されている凄惨な光景が報道されている。そして穀物インフラや輸送設備も被害を受け、黒海の輸出港の閉鎖のため“欧州のパンかご”とも言われていたウクライナからの穀物輸出がほぼ停止し、新聞等でも「食料危機」という言葉をよく見るようになるほど、小麦は世間の注目を浴びるようになっている。世界の小麦輸出量シェアの約30%を占めている両国が戦争状態に入ったわけで、両国からの供給停滞が長引けば、穀物の国際価格がさらに高騰する可能性は高く、各方面への影響は避けられそうにないと言える。

さらに、小麦を始めとする穀物は1年ごとに作付け、収穫され、流通することを考えると、現在出回る小麦の供給量を心配するだけでは足りず、これから収穫される小麦の収穫量や、来年に向けての作付面積がどの程度確保されるのかについて不透明であることも不安を煽る要因になっている。現時点では、ウクライナからの輸出量減少をEUなどの他国が担い、直ちに世界的な供給量が不足することにはなっていないようだが、翌年産に向けては、ウクライナの小麦収穫量は前年を下回ると見込まれ、他の主要生産国における作柄状況によっては、長期間にわたって小麦の国際的需給がタイトな状況となる可能性もあるわけである。

我が国は、小麦については8割以上を輸入に頼っているが、ウクライナ、ロシアからの食糧用輸入は無く、今のところは北米、豪州からの輸入調達が滞る状況とはなっていない。しかし、価格高騰の影響は大きく、買負けをしないなど今後の輸入量確保については予断を許さない状況と言えるであろう。これまで世界各国間における様々な経済活動は国境を越えたグローバル化が進展し、自由貿易協定のネットワーク構築が加速したように、各国のそれぞれが産出する貿易財をシェアすることが、最も効率的であるとされてきた。しかしながらロシアのウクライナ侵攻のような有事の際には、これまでの国際的な貿易志向から自国優先の考え方が強まり、過去には輸出国における禁輸政策などが採られる事態もあったことを踏まえると、食料安全保障に対する備えはますます重要になってきている。

そのような情勢を受けて、政府は4月26日に「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」を決定し、小麦関連では「輸入小麦等食品原材料価格高騰緊急対策事業」として輸入小麦から国産小麦、米粉への切替え等に対して、臨時的に支援する対策が盛り込まれた。政府としても食料安全保障上、国内産麦等の生産振興及び流通支援により、食料自給率の向上を図るとともに、安定的に食料原料を確保する

動きをサポートする方針である。我々製粉業界としても、原料小麦の安定的確保のためにも、国産小麦の生産振興にはこれまで以上に生産者と連携を図り、また二次加工メーカーと共に消費拡大に着実に取り組んでいかねばならない。但し、このような生産支援策は国内産小麦への作付誘導に一定の効果はあると考えられるが、食料安全保障の取組は中長期的な視点から考えていくことが重要である。国内産小麦の長年の課題である、数量・品質面での安定的な生産・供給が行われる下地がきちんと形成され、関係者で取り決めている民間流通の仕組にも沿った形で、混乱が無いように流通することを期待したい。今後、世界の小麦需給がかつてのような安定的な状況に戻ることも考えられるが、気候変動や人口増、政治的リスクを考えると、気を緩めることなく必要な対策を積み重ねていくことが必要である。

一方、輸入小麦については、消費者及び二次加工メーカーのニーズに確実に応えられるよう、量的にも品質的にも安定的に確保していく必要がある。そのために、一つ目には、国家貿易である小麦においては、アメリカ、カナダ、オーストラリア等の主要輸出国との政府間レベルでの良好な関係性維持や両国の団体間等での的確な情報交換が続けられるべきである。二つ目には、特定の国からの輸入が滞る、もしくは不作となり供給量が減少した際に備えて、官民で輸入国・輸入小麦の多元化を進め、代替できる小麦の輸入先を広げていく必要がある。これまでの調査結果では、日本の求める品質を満たしてそのまま置き換えできる三カ国以外的小麦は少ないようであるが、今後は幅広い目線で新たな供給元を開拓してゆくことも考えねばならない。

ロシアのウクライナ侵攻による国際穀物相場の混乱の影響は、2022年10月期の輸入小麦の政府売渡価格に大きく反映されることが見込まれ、直近のシカゴ小麦相場の状況等を見る限り、更に大幅な引上げとなってもおかしくない環境にある。過去に小麦価格が高騰した2008年には、一人当たりの小麦粉消費量が減少した経緯もあり、今後の国内の小麦粉に対する需要動向に気を配る必要がある。また新型コロナウイルスの感染は未だ収束しておらず、需要回復には至っていない状況にあることを踏まえると、今後の需要変動に対しては、二次加工メーカー等とも連携し、新製品の提案や新しい食べ方の提案など新たな需要を開拓していく必要があるであろう。加えて、製粉業界が行うべきは、小麦の輸入状況や需給状況、価格の動向などをしっかりと把握したうえで、二次加工メーカーや流通、そして消費者へ正しい情報を提供し、必要以上の不安を煽ることなく、しっかりと小麦粉製品をお届けすることである。

今まで以上に、食料安全保障・安定生産が求められる中で、品質、数量ともにニーズに合った小麦粉の安定供給という責務を全うするべく、改めてそのための備えについて考えなければならない時期にある。

# 『食から日本を考える。NIPPON FOOD SHIFT』の取組について

小嶋直樹

## 1 持続可能な農業・農村を次世代へ

農林水産省では、令和2年3月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」に基づき、令和3年度より、新たな国民運動「食から日本を考える。NIPPON FOOD SHIFT」をスローガンに、①輸出拡大戦略、②みどりの食料システム戦略、③食と農のつながりの深化、この3つを重点事項とした広報活動を官民協働で展開しています。

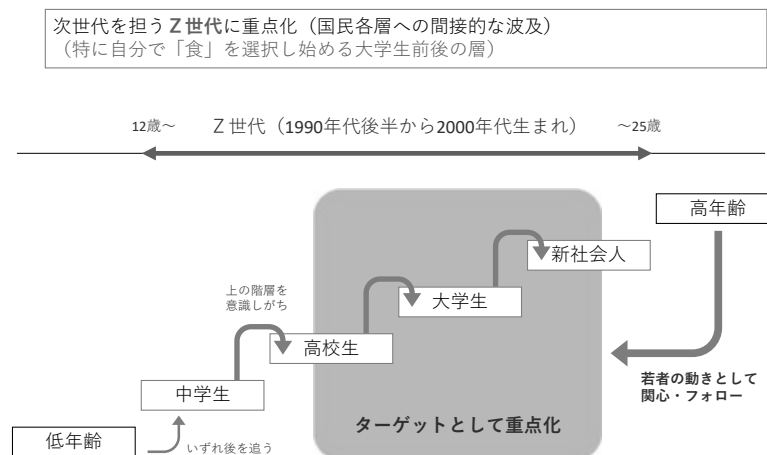
本運動の目的は、持続可能な農業・農村を次世代に継承していくために、「食」と「農」に対する国民の意識・行動変容を促すことにあり、より多くの方に本運動を知っていただくべく、この場をお借りして、取組の経緯や内容、今後の展開等について、ご紹介させていただきます。

## 2 主たるターゲットはZ世代

本運動のメインターゲットは、1990年代後半から2000年代生まれ（12歳～25歳）の、いわゆる「Z世代」です。近年、食の安全・安心への意識や健康志向が高まっていますが、一方では農村人口の減少や農産物の加工・流通の高度化などを背景に、特に若者たちにとって農業や農村はますます馴染みの薄いものとなり、農産物がどこで誰によってつくられ、どうやって運ばれて店頭に並んだり、飲食店や家庭で調理されたりするのか、といったことが見えにくくなっています。

事実、令和3年11月に実施したオンライン調査で、若い回答者ほど「食」や「農」への関心が低い傾向にあることが確認されました。

### 参考1 ニッポンフードシフトの重点ターゲットの考え方



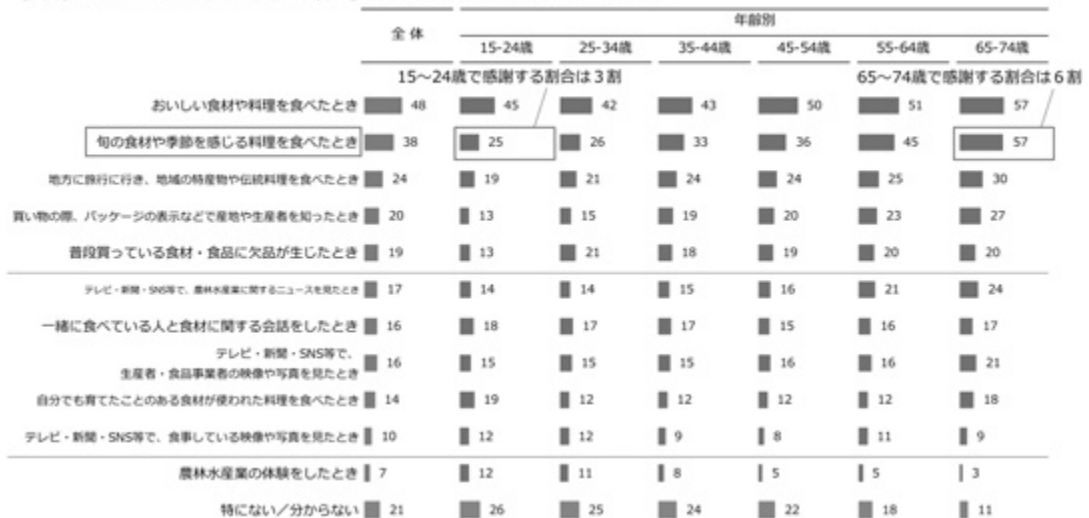
参考2 「食生活・ライフスタイル調査」①～日本の農業課題として知っているもの～

【質問】現在の日本の農業の課題として、あなたが知っているものを以下からすべてお答えください。



参考3 「食生活・ライフスタイル調査」②～食に対して感謝の気持ちを感じるとき～

【質問】あなたが「食に対して感謝の気持ち」を感じるのは、どのようなときですか。



例えば、「現在の日本の農業課題として知っているもの」を選択する質問では、「食品ロスの削減」、「農業従事者の減少・高齢化」、「食料自給率の低下」が上位3位の回答となりました

が、『65～74歳』は6割以上がこれらの問題を知っていると回答したのに対し、『15～24歳』について、これらの問題を知っている割合は4割に留まりました。また、「食に対して感謝の気

持ちを感じる時」を選択する質問では、「旬の食材や季節を感じる料理を食べた時」を選んだ『65～74歳』は6割であったのに対し、『15～24歳』ではわずか3割に留まる結果となりました。

農業者や農村人口の著しい高齢化・減少、都市化に伴う地域コミュニティの衰退等の様々な課題がありますが、将来を担う若者たちのこうした意識が変化すれば、日本の農業・農村の未来は決して暗いものではありません。

そのために、Z世代に向けて、「農業は保護が必要な衰退産業ではなく、世界で勝負できる成長産業だ」、「最新テクノロジーを活用することで可能性が大きく広がる生業であり、その働き方も半農半Xなど多様化している」といった新しい農業・農村の姿を発信していくことが喫緊の課題となっています。

さらに、メインターゲットのZ世代の中でも、進学や就職等で生活スタイルが大きく変化し、自分で「食」を選択する機会が増える、大学生前後の世代を重点ターゲットと位置付けています。大学生前後の取組が活発になれば、中学生・高校生は上の世代の動きとして取組をフォローし、中高年齢層は若者の動きとして取組をフォローすることで、結果的に、国民各層に本運動が間接的に波及していくと考えています。

### 3 Z世代の「食」と「農」への意識をいかに高めるか

Z世代はネットリテラシーが極めて高く、SNS等を活用したオープンなコミュニケーションを好む傾向にあるため、より多くのZ世代を巻き込むためには、SNSを活用する仕組みが不可欠です。

また、Z世代は平等性、合理性、プライバシー

への意識が高いほか、個々の多様性を重んじる傾向にあり、「自分らしさやユニークさを表現したい」、「色々な体験をすることで人間性を高めたい」、といったニーズがあるほか、一方的に価値観を押し付けるような情報発信を嫌う傾向にあります。

そこで、ニッポンフードシフトでは、Z世代が自ら農業に携わったり、地域の生産者・食品関連事業者と意見を交わしたりした体験をイベント等で発表し、その内容をSNS等で広く拡散する仕組み作りに取り組んでいます。

SNSについては、ニッポンフードシフトの公式noteを運営しています。noteは、一般の方が文章や画像、音声、動画を投稿して、誰もがそのコンテンツを楽しんで応援できるメディアプラットフォームです。農林水産省が投稿する記事もありますが、掲載記事の多くは、Z世代が自分の体験や考え方を自由に発信している記事、一般の方の食や農に関する記事などで構成されており、食や農に対する多様な意見や知り、それぞれが考えるきっかけになるような内容を目指しています。

イベントについては、令和3年度に全国11箇所でシンポジウム・フェア等を実施しており、特に大学生が主となった取組を各地で展開しました。例えば、起業やイノベーション手法を学ぶ学生たちのコミュニティ「チームdot」のメンバーは、農業や食にまつわる課題をテーマとした研究を行い、その課題解決に向けたフィールドワークのために実際に農村に泊まり込んで農業を体験し、地元の生産者・食品関連事業者と議論を交わしました。そして令和3年10月29・30日の2日間、初の大規模イベントとなった「ニッポンフードシフトフェス・東京」のステージで、自分たちの体験談や議論の成果を発表しま

#### 参考4 「ニッポンフードシフトフェス・東京」における学生発表の様子



した。

その発表のなかでも最も印象的だったエピソードとして、「食事は生きるためのノルマだと思っていた」という、ある学生の話があります。彼は、「わざわざ旬の味を楽しんだり、その生産現場や生産に携わった人たちのことを思い浮かべることがもなかった」そうですが、長野県辰野町における生産現場での経験を経てガラリと考え方が変わったと言います。地元産品を多数取り入れている飲食店や有機農家、加工品開発を手掛ける人などにインタビューし、農作業を体験し、そこで採れた食材を味わい、農業・農村の課題解決に向けて地元の人たちと議論を交わすなかで、農業のおもしろさや食の奥深さに目覚め、食品をつくることの難しさや苦労を実感したというのです。このエピソードを通じて、年齢を問わず、知るきっかけ、触れるきっかけさえあれば、農業・農村に対する意識は大きく変わる可能性があるかと確信し、それはZ世代も例外ではないことが確認できました。

また、実際にZ世代と対話することを通じて、彼らのリサーチ力やプレゼンテーションスキルの高さ、チームで課題解決へと突き進む推進力を知ることができました。未来をよりよいもの

にしたいという強い熱意もあります。

体験を通じて価値観が大きく変わった彼らのような学生が、イベントやSNSなどを通じて自らの体験を広く発信することで、影響を受けて、農業・農村に興味を持ち、地域の課題解決も「自分事」として考える若者が増えていくことが期待されます。さらに、都市と農村との交流も活発になる効果も見込まれ、事実、「チームdot」のメンバーは、辰野町をはじめ複数の地域と現在も交流・意見交換などを継続しています。

#### 4 企業やメディアとのタイアップ

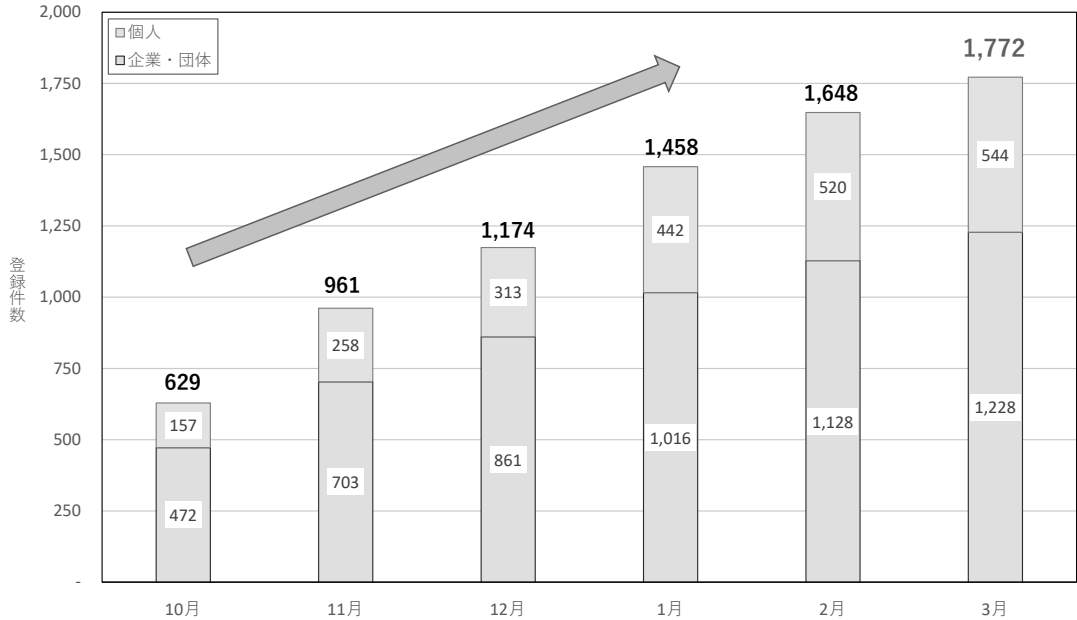
ニッポンフードシフトでは、こうした学生と連携した取組だけでなく、本運動に賛同する企業・団体・個人を「推進パートナー」として募集しており、様々な企業やメディアとのタイアップにも取り組んでいます。(令和4年3月31日時点の推進パートナー登録数:企業・団体1,228社、個人544人)

吉本興業とのタイアップでは、令和3年12月1日に、金子農林水産大臣から、食にちなんだ芸名をもつ「食」芸人に対して、本運動の推進活動の委嘱状を伝達しています。より多くの方に、農業・農村に広く興味・関心を持っていただくきっかけとなるよう、「食」芸人や、47都道府県で活動する「よしもと住みます芸人」が、全国各地の生産者・食品関連事業者等の取組を紹介する動画を発信しています。

テレビ東京とのタイアップでは、令和3年12月26日に、日本の食の未来を担う高校生たちが、「食」をテーマにチャレンジしたいこと・できること・やってみたいことのアイディアをプレゼンしあう大会「CHANGE MAKER U-18 未来を変える高校生 日本一決定戦」を開催し放映しました。本取組の目的は、これまでの常識や



参考5 推進パートナー登録数の推移（令和4年3月31日時点）



※ 推進パートナー登録を開始した令和3年10月18日から、令和4年3月31日までの合計

参考6 吉本興業とのキックオフイベントの様子



価値観に縛られない新しいアイデアや情熱を発掘し、育てていくことにありましたが、実際には、我々の想像を超えるような素晴らしいアイデアがたくさん発表されました。

また、全国各地で奮闘する若手農業者の取組を取材した内容に基づき、令和4年1月10日に全国47都道府県の地方紙や郷土紙、日本農業新聞、日本食糧新聞の計54紙に記事広告を掲載し、日本経済新聞で各都道府県の記事広告を一覧で掲

載しました。掲載記事については、ニッポンフードシフトの公式ウェブサイトで紹介しているほか、東急渋谷駅（東京都）と阪急梅田駅（大阪府）における屋外広告や、デジタル広告を通じて発信しました。

アパレルブランドのBEAMSとのタイアップでは、Z世代に新たな角度から農業を提案するべく、令和4年1月26日から2月末にかけて、オリジナル農業ウェアの販売や、BEAMS

## 参考7 ニッポンフードシフトのロゴマーク、ステートメント



持続的な食料の確保が世界的な共通課題となる中で、我が国では食の外部化・簡便化が進む一方、食と農との距離が遠くなり、農業や農村に対する国民の意識・関心は薄れています。

食についても新たな生活様式を模索する今、これからの日本の、自分たちの食を確かなものとしていくためには、消費者と生産者が一体となって自分たちの課題と捉え、行動変容に繋げていくことが必要です。

これまで時代の変化に対応し、日本各地の食を支えてきたすべての農林漁業者・食品事業者の努力や創意工夫について消費者の理解を深め、良いところは伸ばし、変えるべきことを変え、新しいことにもチャレンジする。そういった取組を応援していく新しい国民運動「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」をスタートします。

JAPAN実店舗における野菜の販売、オンライントークイベントの開催等を実施しました。

ほかにも、蔦屋書店と連携した、食卓と農業を「本」でつなぐプロジェクトの展開、各地域の個性を全国へ発信しているD & DEPARTMENTとタイアップしたトークイベント・マルシェの開催、アジア最大級の食の総合展示会FOODEX JAPANと連携した展示やセミナー開催等、過去に例がないような企画を打ち出してきました。

### 5 今後の展開

令和4年度は、ニッポンフードシフトの2年目の年として、令和3年度に構築した仕組みを生かしつつ、引き続き、Z世代を重点ターゲットとした広報活動を展開してまいります。また、ファッションやライフスタイル等、ユニークな視点の取組にも挑戦することで、「食」と「農」

に関心を持つ国民を着実に増やしていくことに注力してまいります。

一方で、本運動を大きく展開していくためには、国だけではなく、民間の企業・団体、個人の皆様の理解・協力が不可欠となります。

本運動の趣旨に共感いただける方であれば、企業・団体・個人を問わず、公式ウェブサイトを通じて、簡単に推進パートナーの登録を行うことができます。ロゴマークを商品や広告等に無償で利用できるほか、公式ウェブサイトでの企業・団体名の紹介、公式noteでの取組事例の掲載等、多くのメリットがありますので、是非、推進パートナーにご登録いただき、本運動を一緒に盛り上げていただければ幸いです。

（ 農林水産省大臣官房政策課  
食料安全保障室 企画専門職 ）

# 令和4年度「麦の需給に関する見通し」について

齋藤 雄

「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）」第41条に基づき、農林水産大臣は、麦の需給及び価格の安定を図るため、毎年3月31日までに、麦の需要量、生産量、輸入量等に関する事項を内容とする「麦の需給に関する見通し」を定めることとなっています。

令和4年3月2日に開催された「食料・農業・農村政策審議会 食糧部会」の審議を経て、令和4年度の「麦の需給に関する見通し」を策定しました。

## 麦の需給に関する見通しの策定の考え方

麦の需給については、国内産麦では量的又は質的に満たせない需要分について、国家貿易により外国産麦を計画的に輸入することとしてい

ます。

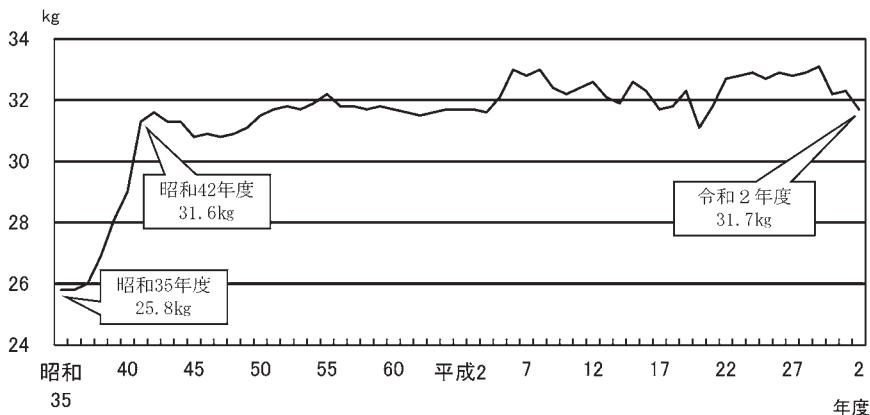
令和4年度の麦の需給に関する見通しについては、近年の総需要量や国内産麦の流通量の実績等を踏まえ、以下のとおりとします。

## 1-1 食糧用小麦の総需要量

昭和49年以降、食糧用小麦の1人当たりの年間消費量は、おおむね31～33kgで安定的に推移しており（図1）、総人口についても近年やや減少に転じているものの、ここ数年では大きな変動は見られません。

他方、食糧用小麦の総需要量（注）は、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響による外食産業等の需要減が2年連続してみられることから、令和4年度の食糧用小麦の総需要量については、直近3か年（令和元年度から令

図1 食糧用小麦の消費量の推移（1人1年当たり）



資料：農林水産省「食料需給表」

注：令和2年度の数値は概算値である。

表1 食糧用小麦の総需要量の推移

(単位：万トン)

| 年度     | 総需要量 | 対前年度比 |
|--------|------|-------|
| 平成27   | 582  | 101%  |
| 平成28   | 583  | 100%  |
| 平成29   | 582  | 100%  |
| 平成30   | 573  | 98%   |
| 令和元    | 570  | 99%   |
| 令和2    | 554  | 97%   |
| 令和3見込み | 560  | 101%  |
| 令和4見通し | 561  | 100%  |

(直近3か年平均)

和3年度まで)の平均総需要量である561万トンと見通します(表1)。

(注)食糧用小麦の総需要量は、国内産食糧用小麦の流通量、米粉用国内産米供給量及び政府からの外国産食糧用小麦の販売数量の合計から実需者(製粉企業等)の在庫数量の増減分を勘案して算出(以下同じ)。

## 1-2 国内産食糧用小麦の流通量

### (1) 国内産食糧用小麦の生産量(当年産の小麦のうち、生産者から実需者に引き渡される数量)

令和4年度産の国内産食糧用小麦の生産量(注1)については、令和3年8月の民間流通連絡協議会において報告された令和4年度産の作付予定面積(211千ha)(注2)に、直近3か年(令和元年度産から令和3年度産まで)の10a当たりの収量の平均値(476kg)を乗じた上で基本計画目標に対する取組を加味し、さらに、食糧用供給割合(97.4%)(注3)を乗じて、101万トンと見通します(表2)。

(注1)は種前契約に基づき、生産者から実需者に引き渡される見込み数量である。

(注2)は種前契約に基づき、生産者から販売委託された全農・全集連等が集計した見込み面積であり、農林水産省大臣官房統計部の公表する面積とは異なる。

(注3)当年産のうち、食糧用として生産者から実需者に引き渡される割合(それ以外は、種子用、規格外等)。令和4年度産については、過去5か年のうち、最高及び最低を除いた3か年の平均値である。

### (2) 国内産食糧用小麦の流通量(前年度と当年産の食糧用小麦のうち、当年度内に市場に流通する量)

令和4年度の国内産食糧用小麦の流通量については、令和4年度産の国内産食糧用小麦の生産量に、年度内供給比率(注4)を乗じ、さらに、令和3年度産国内産食糧用小麦の在庫量を加えて、100万トンと見通します(表2)。

(注4)当年産のうち当年度に生産者から実需者に引き渡される数量の割合。令和3年度産については、実需者から提出された令和3年度産麦の購入計画から算出し、令和4年度産については、前年度と同率としている。

## 1-3 米粉用国内産米の流通量

需要者からの聞き取りによれば、米粉用国内産米の令和3年度需要量は、前年より大幅に増加し、4.1万トンと見込まれます(表3)。

需要量が増加した要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響により家庭用小袋の需要が増加したことに加え、前年度に落ち込んだ業務用の需要が回復したことが挙げられます。

表2 国内産食糧用小麦の流通量の推移

(単位：万トン)

| 年産        | 食糧用小麦の生産量<br>① | 年度内供給比率<br>② | うち年度内供給量<br>③=①×② | 次年度繰越(在庫)<br>①-③ |
|-----------|----------------|--------------|-------------------|------------------|
| 平成29      | 85             | 35.9%        | 30                | 54               |
| 平成30      | 70             | 24.9%        | 18                | 53               |
| 令和元       | 97             | 30.9%        | 30                | 67               |
| 令和2       | 87             | 22.7%        | 20                | 67               |
| 令和3見込み    | 100            | 29.5%        | 30                | 71               |
| 令和4見通し    | 101            | 29.5%        | 30                | ↓                |
| 4年度流通量見通し |                |              |                   | 100              |

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

一方、令和3年産の米粉用国内産米の生産量は、主食用米から需要のある米粉用米等への作付転換が進んだことにより、前年産の3.3万トンから大幅に増加し、4.0万トンとなっています(表4)。

また、令和4年産米粉用国内産米の生産量については、令和4年産米の契約見込数量(需要者からの聞き取り)が4.0万トンであったことから、現時点ではこれと同等と見通すとともに、令和4年度の流通量については、令和2年産以前の4年度繰越(在庫)が2.2万トン、令和3年産の4年度繰越(在庫)が1.1万トン、令和4年産の年度内供給量が1.0万トンの計4.3万トンと見通します(表4)。

#### 1-4 外国産食糧用小麦の需要量

令和4年度の外国産食糧用小麦の需要量については、同年度の食糧用小麦の総需要量561万トンから国内産食糧用小麦流通量100万トン及び米粉用国内産米流通量4万トンを差し引いて457万トンと見通します(表5)。

表3 米粉用国内産米の需要量の推移

(単位：万トン)

| 年度     | 需要量 | 対前年度比 |
|--------|-----|-------|
| 平成29   | 2.5 | 109%  |
| 平成30   | 3.1 | 124%  |
| 令和元    | 3.6 | 116%  |
| 令和2    | 3.6 | 100%  |
| 令和3見込み | 4.1 | 114%  |

#### 1-5 外国産食糧用小麦の備蓄目標数量

現在、不測の事態に備え、国全体として外国産食糧用小麦の需要量の2.3か月分の備蓄を行っています。

このため、令和4年度の備蓄目標は、88万トンとします(表5)。

なお、民間の実需者が2.3か月分を備蓄する場合、そのうち1.8か月分について、国が保管料を助成します。

#### 1-6 外国産食糧用小麦の輸入量(政府からの販売数量)

令和4年度の外国産食糧用小麦の輸入量につ

表4 米粉用国内産米の流通量の推移

(単位：万トン)

| 年産        | 米粉用米の生産量<br>① | 年度内出回り比率<br>② | 米粉用米の年度内供給量<br>①×② | 次年度以降繰越(在庫)               |
|-----------|---------------|---------------|--------------------|---------------------------|
| 令和2年産以前   |               |               |                    | 2.2                       |
| 令和3       | 4.0           | 26%           | 1.0                | 3.0<br>4年度：1.1<br>5年度：1.9 |
| 令和4見通し    | 4.0           | 26%           | 1.0                | 3.0                       |
| 4年度流通量見通し |               |               |                    | 4.3                       |

注：1) 令和3年産米粉用米の生産量は新規需要米取組計画認定数量。

2) 年度内出回り比率及び令和3年産の次年度以降繰越(在庫)から令和4年度への供給量は、需要者聞き取りを踏まえ算出したものである。

表5 令和4年度の食糧用小麦の需給に関する見通し

(単位：万トン)

|                         |              |             |     |
|-------------------------|--------------|-------------|-----|
| 総需要量                    |              | A           | 561 |
| 国内産                     | 国内産食糧用小麦の流通量 | B           | 100 |
|                         | 米粉用国内産米の流通量  | C           | 4   |
| 外国産食糧用小麦の需要量            |              | $D=A-(B+C)$ | 457 |
| 外国産食糧用小麦の備蓄数量           |              |             |     |
|                         | 2年度実績(見込み)   | a           | 93  |
|                         | 3年度(目標)      | b           | 88  |
|                         | 増減           | $E=b-a$     | ▲5  |
| 外国産食糧用小麦の輸入量(政府からの販売数量) |              | $F=D+E$     | 451 |

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

いては、外国産食糧用小麦の需要量に備蓄数量の増減分を加えた451万トンと見通します(表5)。

なお、飼料用小麦の輸入については、別途、農林水産大臣が定める飼料需給計画に基づき行います。

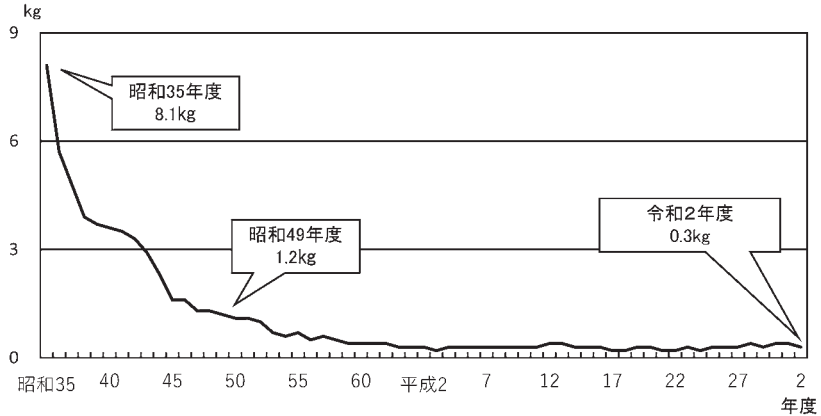
### 2-1 食糧用大麦及びはだか麦の総需要量

昭和59年以降、食糧用大麦及びはだか麦の1

人当たりの年間消費量は、おおむね0.2~0.4kgで安定的に推移しており(図2)、総人口についても近年やや減少に転じているものの、ここ数年では大きな変動は見られません。

このため、食糧用大麦及びはだか麦の総需要量(注)は、短期的な変動はあるものの中期的には安定していることから、令和4年度の食糧用大麦及びはだか麦の総需要量については、過去7か年(平成27年度から令和3年度まで)の平

図2 食糧用大麦及びはだか麦の消費量の推移 (1人1年当たり)



資料：農林水産省「食料需給表」  
注：令和2年度の数値は概算値である。

表6 食糧用大麦及びはだか麦の総需要量の推移

(単位：万トン)

| 年度     | 総需要量 | 対前年度比 |
|--------|------|-------|
| 平成27   | 33   | 100%  |
| 平成28   | 34   | 104%  |
| 平成29   | 34   | 101%  |
| 平成30   | 36   | 105%  |
| 令和元    | 35   | 97%   |
| 令和2    | 35   | 100%  |
| 令和3見込み | 33   | 94%   |
| 令和4見通し | 34   | 103%  |

(過去7か年平均)

均総需要量である34万トンと見通します(表6)。

(注) 食糧用大麦及びはだか麦の総需要量は、国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量並びに政府からの外国産食糧用大麦及びはだか麦の販売数量の合計から、実需者(精麦企業等)の在庫数量の増減分を勘案して算出。ただし、生産者団体とビール会社との契約栽培により供給される国内産ビール大麦は含まない(以下同じ)。

## 2-2 国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量

### (1) 国内産食糧用大麦及びはだか麦の生産量 (当年産の大麦及びはだか麦のうち、生産者から実需者に引き渡される数量)

令和4年産の国内産食糧用大麦及びはだか麦の生産量(注1)については、令和3年8月の民間流通連絡協議会において報告された令和4年産の作付予定面積(二条大麦27千ha、六条大麦18千ha、はだか麦5千ha)(注2)に、直近3か年(令

表7 国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量の推移

(単位：万トン)

| 年産        | 食糧用大麦及びはだか麦の生産量<br>① | 年度内供給比率<br>② | うち年度内供給量<br>③=①×② | 次年度繰越(在庫)<br>①-③ |
|-----------|----------------------|--------------|-------------------|------------------|
| 平成29      | 11                   | 28.3%        | 3                 | 8                |
| 平成30      | 10                   | 21.4%        | 2                 | 8                |
| 令和元       | 14                   | 24.1%        | 3                 | 11               |
| 令和2       | 14                   | 23.8%        | 3                 | 11               |
| 令和3見込み    | 15                   | 34.2%        | 5                 | 10               |
| 令和4見通し    | 14                   | 34.2%        | 5                 | 15               |
| 4年度流通量見通し |                      |              |                   | 15               |

注：1) 国内産食糧用大麦及びはだか麦については、上記の流通量15万トンのほかに生産者団体とビール会社との契約栽培により国内産ビール大麦5万トンが供給される見込みである。

2) 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

和元年産から令和3年産まで)の10a当たりの収量の平均値(二条大麦388kg、六条大麦311kg、はだか麦331kg)を乗じた上で基本計画目標に対する取組を加味し、さらに、食糧用供給割合(二条大麦70.6%、六条大麦89.8%、はだか麦95.6%)(注3)を乗じて、14万トンと見通します(表7)。

(注1)は種前契約に基づき、生産者から実需者に引き渡される見込み数量である。

(注2)は種前契約に基づき、生産者から販売委託された全農・全集連等が集計した見込み面積であり、農林水産省大臣官房統計部の公表する面積とは異なる。

(注3)当年産のうち、食糧用として生産者から実需者に引き渡される割合(それ以外は、ビール用、種子用、規格外等)。令和4年産については、過去5か年のうち、最高及び最低を除いた3か年の平均値である。

## (2) 国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量 (前年産と当年産の食糧用大麦及びはだか麦のうち、当年度内に市場に流通する量)

令和4年度の国内産食糧用大麦及びはだか麦

の流通量については、令和4年産の国内産食糧用大麦及びはだか麦の生産量に、年度内供給比率(注4)を乗じ、さらに、令和3年産国内産食糧用大麦及びはだか麦の在庫量を加えて、15万トンと見通します(表7)。

(注4)当年産のうち当年度に生産者から実需者に引き渡される数量の割合。令和3年産について、実需者から提出された令和3年産麦の購入計画から算出し、令和4年産については、前年産と同率としている。

## 2-3 外国産食糧用大麦及びはだか麦の需要量

令和4年度の外国産食糧用大麦及びはだか麦の需要量については、同年度の食糧用大麦及びはだか麦の総需要量34万トンから国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量15万トンを差し引いて19万トンと見通します(表8)。



表8 令和4年度の食糧用大麦及びはだか麦の需給に関する見通し

(単位：万トン)

|                                   |         |    |
|-----------------------------------|---------|----|
| 総需要量                              | A       | 34 |
| 国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量                | B       | 15 |
| 外国産食糧用大麦及びはだか麦の需要量                | $C=A-B$ | 19 |
| 外国産食糧用大麦及びはだか麦の輸入量<br>(政府からの販売数量) | $D=C$   | 19 |

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

2-4 外国産食糧用大麦及びはだか麦の輸入 (表8)。

令和4年度の外国産食糧用大麦及びはだか麦の輸入量については、外国産食糧用大麦及びはだか麦の需要量と同量の19万トンと見通します

なお、飼料用大麦の輸入については、別途、農林水産大臣が定める飼料需給計画に基づき行います。

国内産はだか麦の状況

国内産はだか麦は、令和元年以降、作付面積の拡大と10a当たりの収量の増加により、供給量が1.5万トン以上に拡大しました。

他方、精麦企業等における加工数量は、おおむね1万トン程度と一定であり、供給量との隔たりが拡大しています。

このため、小麦、大麦等への作付転換や従来の味噌等以外の新たな需要の開拓を含む需要拡大を更に進める必要があります。

国内産はだか麦の供給量、加工数量等の推移

|        | 作付面積<br>(ha) | 10a当たりの<br>収量<br>(kg/10a) | 供給量<br>(千t) | 加工数量<br>(千t) | 供給量と<br>加工量との差<br>(千t) |
|--------|--------------|---------------------------|-------------|--------------|------------------------|
| 平成30年産 | 5,420        | 258                       | 10.4        | 10.0         | 0.4                    |
| 令和元年産  | 5,780        | 351                       | 15.4        | 9.9          | 5.5                    |
| 令和2年産  | 6,330        | 322                       | 15.2        | 10.0         | 5.2                    |
| 令和3年産  | 6,810        | 320                       | 18.1        | 11.9         | 6.2                    |

注：1) 作付面積、10a当たりの収量は農林水産省「作物統計」(令和3年産は概算値)。

2) 供給量は、団体聞き取り(生産者団体と実需者の契約数量)。

3) 加工数量は、農林水産省調べ「製粉及び精麦工場の需給実績報告」の9月から8月までの数量に麦茶の加工数量(推計)を加えて算出。令和3年産の加工数量は令和3年9月から11月までの加工数量と平成30年から令和2年までの同時期の加工数量から推計。

( 農林水産省 農産局 農産政策部  
貿易業務課 麦類需給第二係長 )

# 令和4年4月期の輸入小麦の 政府売渡価格の改定について

大塚 将史

## 1 はじめに

令和4年3月9日に、令和4年4月から適用される輸入小麦の政府売渡価格を決定しました（プレスリリース資料等については農林水産省HPを参照。URL [https://www.maff.go.jp/j/seisan/boueki/mugi\\_zyukyuu/index.html](https://www.maff.go.jp/j/seisan/boueki/mugi_zyukyuu/index.html)）。

令和4年4月期の輸入小麦の政府売渡価格は、直近6カ月間（令和3年9月第2週～令和4年3月第1週）の買付価格が高い水準となったことを受け、5銘柄加重平均（税込価格）で72,530円／トンとなり、前期（令和3年10月期）の61,820円／トンと比べて17.3%の引上げとなりました（図1）。

以下、今回の輸入小麦の政府売渡価格の改定の要因等について説明させていただきます。

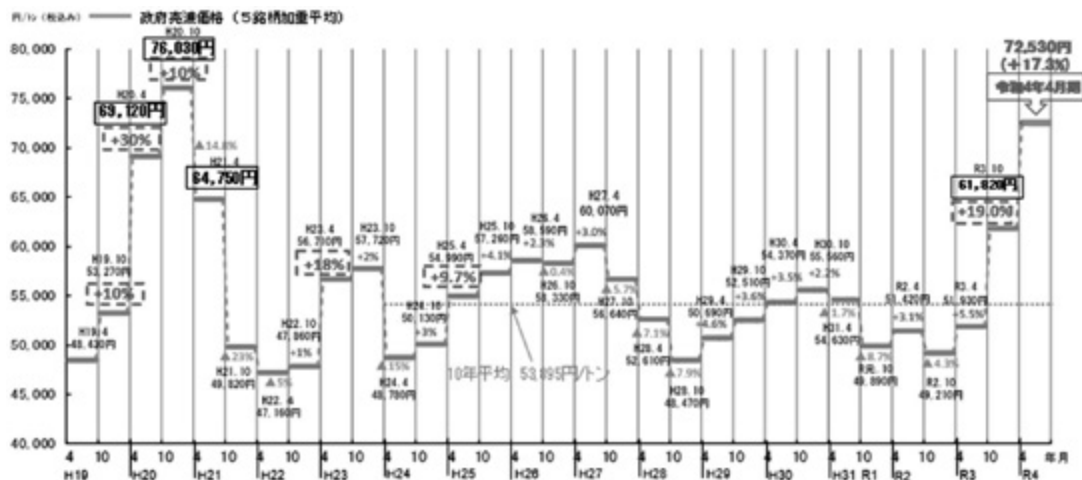
## 2 価格改定の基本的な考え方

輸入小麦の政府売渡価格は、国際相場の変動の影響を緩和するため年2回（4月及び10月）の改定としており、過去6か月間の買付価格の平均値に、マークアップ（政府管理経費及び国内産小麦の生産振興対策費に充当）と港湾諸経費を上乗せして算定しています（図2）。

## 3 価格上昇の要因について

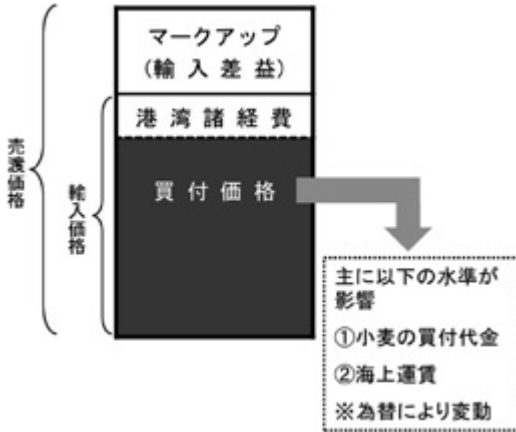
輸入小麦の買付価格は、現地における小麦買付代金に加え、海上運賃や為替等の影響も受けます。今回の算定期間において買付価格が上昇した主な要因は、昨年夏の高湿乾燥による北米産不作の影響により国際価格が高い水準で推移したこと等によるものと考えています。詳細に

図1 輸入小麦の政府売渡価格の推移



注：平成25年10月期以前は、消費税5%込みの価格であり、平成26年4月期以降は、消費税8%込みの価格である。

図2 政府売渡価格の構成



については以下のとおりです。

今回(4月期)は日米貿易協定及びCPTPP協定に基づき、米国・カナダ・豪州産小麦については、マークアップの引下げが適用されています。

なお、今回の政府売渡価格の算定対象期間が昨年9月第2週から本年3月第1週までであったため、本年2月末からのロシアのウクライナ侵略

による影響を受けた期間はごく一部でした。

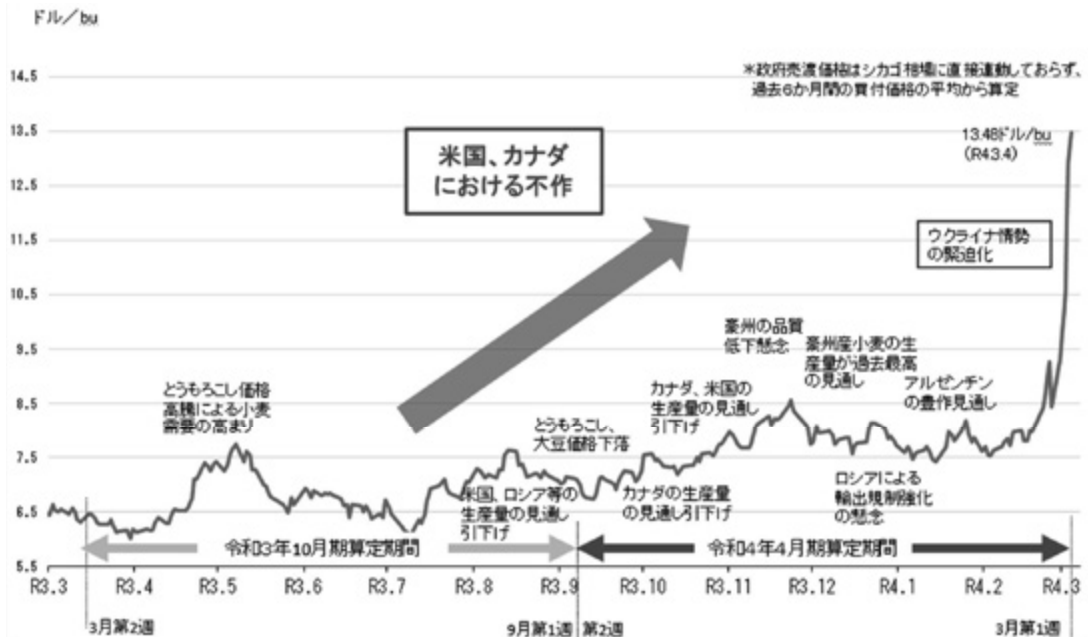
(1) 北米の高温・乾燥による不作の影響

まず、小麦の買付価格の上昇の要因として、昨年夏の高温・乾燥により世界の主要輸出国である米国及びカナダ産の小麦の作柄が急速に悪化し生産量の見通しが大きく引き下げられた後も、段階的に生産量の引き下げられたことに加え、豪州産小麦の品質低下やロシアによる輸出規制強化への懸念など、価格を下支えする状況が継続したことによって、小麦の国際価格が高水準で推移したことが挙げられます(図3)。

(2) 米国、カナダ、豪州の日本向け産地における品質低下等による価格の上昇

買付価格上昇のもう一つの要因として、日本の主な輸入先国である米国、カナダ、豪州における小麦の品質低下等により、日本が求める高品質小麦の調達価格帯が上昇したことが挙げられます。

図3 小麦の国際価格(シカゴ相場)の推移



主に製菓用向けとして輸入している米国産ウェスタン・ホワイト(WW)は、タンパク値が低い方がソフトできめ細かい製品が仕上がるとされ、タンパク値を抑えた(10.5%以下)買付規格を設定しています。しかし、昨年夏以降の米国北西部の高温・乾燥により品質が悪化し、収穫された小麦の平均タンパク値が大幅に上昇した結果、日本の買付規格に適合するものが減少し、買付価格が上昇しました。

また、主に日本麺用向けとして輸入しているオーストラリア産スタンダード・ホワイト(ASW)については、比較的高いタンパク値のものが求められており、タンパク値の下限(10.0%)を設けた買付規格を設定しています。しかし、豪州の主産地は豊作となったものの、単収増に伴い平均タンパク値が下落し、日本の買付規格に適合するものが減少したことによって、買付価格が上昇しました。さらに、北米において小麦及び菜種が不作となった結果、豪州産の小麦及び菜種に対して代替需要が発生し、豪州

の輸出港の施設使用枠が埋まりやすくなり、限られた施設使用枠を確保した輸出業者にオーダーが集中したことも価格に影響を与えたと考えられます。

### (3) ロシアによる小麦の輸出規制の強化等

先述のロシアによる輸出規制の強化やウクライナ情勢の悪化等に伴う供給懸念も、小麦の国際価格の上昇に影響を与えました。なお、ロシアによる輸出規制は、ロシア国内の小麦価格の上昇を抑制することを目的として、輸出枠の設定及び可変輸出関税の強化が行われたものです。

### (4) 為替や海上運賃の動向

また、為替レートは、今回算定期間の6か月の平均は約115円/ドルとなり、前回算定期間の平均111円/ドルよりも円安傾向で推移したことで、今回の政府売渡価格の引上げに影響しました(図4)。一方、海上運賃については、

図4 為替の動向



注：対米ドル 直物為替TTS(Telegraphic Transfer Selling Rate：対顧客電信売)

図5 海上運賃の動向



注：2万トン級のフレート（WORLD MARITIME ANALYSISより）

新型コロナウイルスの影響による荷役効率の低下等によって、輸送需要に対して船舶の供給が厳しい状況が継続しているため、引き続き高い水準となっていますが、前回算定期間と比較するとほぼ横ばいであり、今回の価格の引上げには寄与していません（図5）。

#### 4 今回の政府売渡価格の改定が物価・家計へ及ぼす影響

次に、今回の政府売渡価格の改定によって、パンや麺等の小麦粉関連製品の小売価格にどのような影響が生じ得るかについて説明させていただきます。

パンや麺などの小麦粉関連製品の小売価格は、小麦粉以外に使用される様々な原料代金のほか、製品の製造、販売、輸送等の経費など様々な要素から成り立っています。また、政府売渡価格は、政府が製粉企業等に売り渡す玄麦（粒）の価格ですので、今回の政府売渡価格の改定による小麦粉関連製品の小売価格への影響を見る際は、小麦粉関連製品の小売価格に占める小麦粉代金ではなく、玄麦（粒）代金の変動を見る

必要があります。

このため、まず小麦粉関連製品の小売価格に占める原料小麦代金の割合について、事業者の協力も頂きながら当省で試算した結果、最低1%から、小麦粉でも29%程度となりました。この割合を用いて、今回の政府売渡価格の改定がこれら小麦粉関連製品の小売価格に与える影響を試算したところ、食パンは1.5%（1斤当たり3円程度）増、中華そば（外食）は0.2%（1杯当たり1円程度）増、小麦粉は4.4%（1kg当たり12円程度）増となりました（表）。

また、小麦粉製品に占める小麦価格のみに着目し、当該価格がすべて今回の政府売渡価格の改定を反映していることを前提に試算した結果、今回の改定が消費者物価指数に与える影響は+0.016%程度となりました。

これらはいくまで農林水産省における試算であり、実際の小麦粉関連製品の小売価格は、各製造事業者や製品によって、また流通事業者等の判断によっても異なりますので、御留意ください。

表 小麦製品への影響額 (試算)

|               | 小売価格に占める原料小麦代金の割合 | 価格改定の影響試算<br>(小売価格)          |
|---------------|-------------------|------------------------------|
| ①食パン          | 8%                | +2.6円/1斤 (+1.5%)<br>(178円)   |
| ②うどん (外食)     | 1%                | +1.0円/1杯 (+0.1%)<br>(695円)   |
| ③中華そば (外食)    | 1%                | +1.0円/1杯 (+0.2%)<br>(539円)   |
| ④小麦粉 (家庭用薄力粉) | 29%               | +12.1円/1kg (+4.4%)<br>(278円) |

※1：小売価格は、総務省「小売物価統計調査」(東京都区部、令和4年1月)による。

※2：小麦粉製品ごとの原料小麦代金の割合、原料小麦の価格改定率により試算。

※3：食パン1斤は400gとして試算。

※4：小麦粉製品に占める小麦の価格のみに着目し、当該価格が全て今回の政府売渡価格の改定を反映していることを前提として試算。

## 5 小麦の政府買付価格上昇に対する取組について

小麦の買付規格を緩和することで買付価格の上昇を抑制するため、タンパク値が上昇していたWWは、昨年10月の入札以降、買付規格のタ

ンパク値の上限を10.5%から11.0%に引き上げることとしました。また、タンパク値が低下していたASWは、本年1月の入札以降、買付規格のタンパク値の下限を10.0%から9.7%に引き下げることにしました。

図6 政府買付価格上昇に対する取組

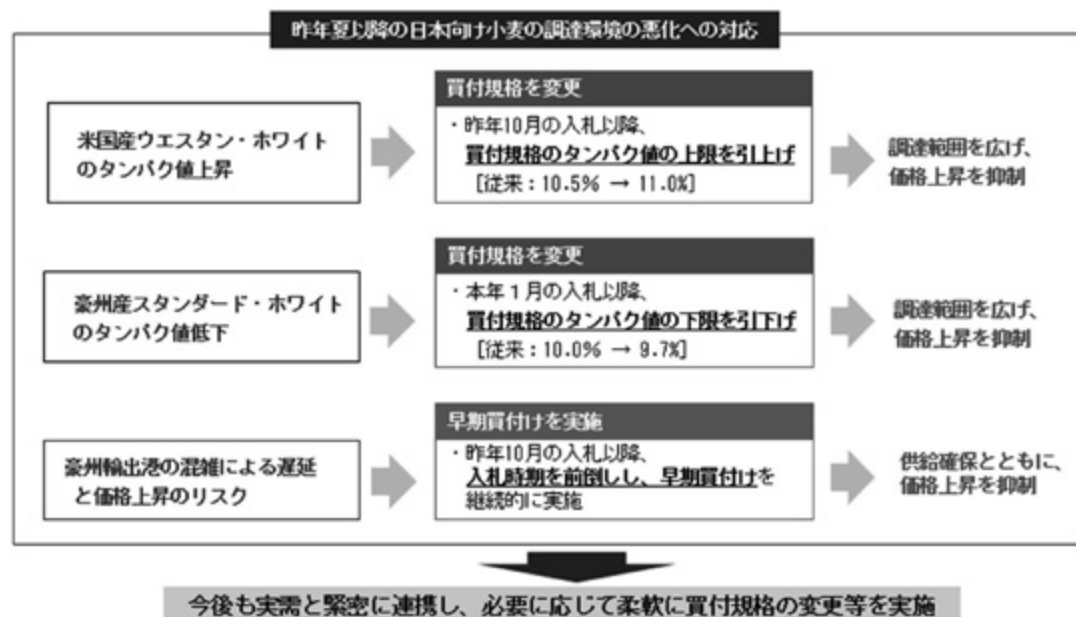


図7 価格転嫁に対する政府の取組について

**パートナーシップによる価値創造のための転嫁円滑化施策パッケージ** (令和3年12月27日内閣官房・消費者庁・厚生労働省・経済産業省・国土交通省・公正取引委員会)

現在、原油価格がおよそ7年ぶりの水準まで値上がりしており、最近の円安の進展も相まって、原油をはじめとするエネルギーコストや原材料価格の上昇が懸念される。

中小企業等が値上げの原資を確保できるよう、生産性向上に取り組み中小企業を事業再構築補助金等により支援していくことに併せて、取引事業者全体のパートナーシップにより、労務費、原材料費、エネルギーコストの上昇分を適切に転嫁できることは重要。政府として以下の新たな取組を開始し、フォローアップしていくことを通じて、転嫁対応に全力で取り組んでいく。

- 1 政府主導的な転嫁対策の発想の創設
- 2 価格転嫁円滑化に向けた法執行の強化
- 3 労働基準監督機関における対応
- 4 公共調達における労務費等の上昇への対応
- 5 公共工事品質確保等に基づく対応の強化
- 6 景品表示法上野対応
- 7 大企業とスタートアップとの取引に関する調査の実施と取組の促進
- 8 パートナーシップ構築宣言の拡充・実効性強化
- 9 関係機関の体制強化
- 10 今後の検討課題

**食品製造業者・小売業者間における適正取引推進ガイドライン** (令和3年12月農林水産省)

食品製造業と小売業との適正取引等の推進を目指して食品製造業全体を対象とするガイドラインを策定・公表。独占禁止法や下請法で「問題となり得る事例」とともに、「望ましい取引事例」を13項目にわたり掲載

- ・前提が異なる場合の同一単価による発注
- ・包材（フィルム等）の費用負担
- ・合理的な根拠のない価格決定
- ・原材料価格、労務費、物流費等の上昇時の取引価格改定
- ・短納期での発注、発注のキャンセル
- ・2日商品をめぐる不利な取引条件の設定 等

**輸入小麦の政府売渡価格改定の浸透に向けた情報発信**

令和4年4月期の輸入小麦の政府売渡価格改定に関し、消費者向けの情報発信に加え、小麦粉ユーザーである食品事業者等向けの説明会を実施（予定）。制度や買付価格高騰の要因等の背景も含めた丁寧な説明を実施

改定後の小麦製品の小麦価格の動向を注視

さらに、豪州の輸出港の混雑による価格上昇リスクを低減するため、昨年10月の入札以降、入札時期を通常よりも前倒し、早期に買い付けることで、豪州産小麦の供給確保に加えて、買付価格上昇の抑制も図りました。

## 6 価格転嫁に対する政府の取組について

昨年12月に「パートナーシップによる価値創造のための転嫁円滑化施策パッケージ」を策定し、政府全体で転嫁対策を推進するとともに、農林水産省としても「食品製造業者・小売業者間における適正取引推進ガイドライン」を策定し、適正取引を推進しているところです。

さらに今回の価格改定に関し、消費者向けの情報発信に加え、小麦粉ユーザーである食品事業者等向けの説明会を実施し、制度や買付価格高騰の要因等を背景も含めて丁寧に説明を実施しているところです。

## 7 終わりに

以上、令和4年4月期の輸入小麦の政府売渡価

格の改定の要因等について説明させていただきました。

今回の政府売渡価格の引上げは、新型コロナウイルスの影響も収まらない中、外食等の事業者や国民の方々に、価格転嫁等を通じて御負担をおかけすることとなります。農林水産省としましては、今回の売渡価格引上げの主な要因である世界的な穀物主産国での不作傾向や、海上運賃の高騰等について、あらゆる機会をとらえて製粉企業や関係する食品企業、国民の皆様へ情報提供や御説明をしていきたいと考えております。また、今後とも、小麦の国際価格の動向を踏まえ、実需である製粉各社とも連携を密にし、需要に応じた小麦の確保に取り組んでまいります。

引き続き、関係者の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

（農林水産省農産局農産政策部貿易業務課）  
 麦類需給第一係長

# 気候変動と食糧危機への処方箋

小泉武嗣

## 1. 総論

昨年10月31日、英国グラスゴーで開かれた国連気候変動枠組み条約第26回締結国会議(COP26)は11月3日まで期間を延長の末、ようやく成果文書を採択し閉幕した。

これにより現在地球的規模で起きている気候変動に対して「人類の総力を挙げての取組」を大きく加速することとはなったが、主要排出国の取組は十分とは言えず、このままでは地球環境を元に戻せる復元力は得られそうもない。

そればかりか、本年2月末ロシアによるウクライナへの侵攻という暴挙が行われたことにより、今後10年間は更に地球全体に悪影響を与え続けてゆく懸念が深まっており、農業への深刻な影響が避けられそうにない。COP27は本年11月7日から18日までエジプトのシャルム・エル・シェイクでの開催を予定しているが、この深刻な状況に抗うためには国家間の協力はもとより、国と共に業界を跨った各国の民間企業同士の連携により、一段と強力な対策を実行してゆく必要もあろう。拙稿では、気候変動による穀物業界(特に小麦)への影響と、これに関する幾つかの対策を考察してみたいと思う。

## 2. 気候変動の原因と取組

### (1) COP26の取組からCOP27へ

国連気候変動枠組み条約の正式な英文名称は、United Nations Framework Convention

on Climate Change(略称:UNFCCC)である。今から丁度30年前の1992年6月3-14日、伯国リオデジャネイロにおいて開催された国連会議に於いて国際的枠組みを設定した初めての環境条約であり、2年後の1994年3月21日に発効された。この条約の目的は、大気中の温室効果ガス(CO<sub>2</sub>、メタン、一酸化窒素、フロンガスHFCs、PFCs、SF<sub>6</sub>)の増加が地球に温暖化をもたらし、自然の生態系に悪影響を及ぼす恐れがあることを、「人類の共通の関心事」であると認識し、大気中のこれらの「ガスの濃度を安定化させ」、「現在及び、将来の気候を保護すること」とされており、気候変動がもたらす様々な悪影響を防止する為の取組の原則・措置を定めたもので、まさに30年前の慧眼ではあった。

特徴的な点は、条約国を先進国、経済移行国、発展途上国に分類し(重複する国も多々あるが)、共通目的を目指す、それぞれ「差異」のある責任、「国別」の事情の勘案を認めつつ、迅速かつ有効な予防措置をとるものとしていることである。

この締結国会議の「最高意思決定機関」が、冒頭に記載した気候変動枠組み条約締結国会議(COP:Conference of Parties)であり、その26回目が昨年のCOP26であった。

因みに、第一回(COP1)は、1995年3月に独逸ベルリンで開催され2000年以降の排出量の目標が設定された。第三回会議(COP3)には日



本の京都で開催され、当時総合商社で生活産業グループ全体の企画・業務を担当していた小職も参加させて頂いた。この会議では温室効果ガスの「削減目標」を定める有名な「京都議定書」が採択された。各企業のISO14001（環境マネジメントシステム）の監査等で、監査委員から「京都議定書」について聞かれた経験のある方も少なからずおられるだろう。この頃から気候問題は、我々のビジネスの身近に迫ってきていたのである。昨年11月21日付けの日経新聞記事によれば、世界30か国・地域の金融機関が「気候変動に伴う金融リスクの把握」に乗りだしているとして融資先である企業各社にもこのリスクの開示が求められてきている。これに関連して日本では2017年に既に「民間主導の気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」が発足しており、製粉業界のトップ企業を含む395社（非金融業）がこれに対応し始めており、今後の気候変動リスク開示の業界標準になってゆくことが明白で、ビジネス上の気象リスクが、益々身近で、重要なものになってくる。

## (2) 気象変動の原因

さて、今や半ば「常識」となりつつある気候変動リスク（＝常態化しつつある異常気象）を語る上で、その変化の発端は何だったのか。我々はどこで異常に気が付いたのかを知ることは今後の展開を考える上でも重要であろう。

一般的には「気候」とは、短時間（今日の天気等）の「気象」とは異なり、より中・長期の視点で語られる。別言すれば、これは「ゆでがえる」と一緒に、日々の小さな変化には気が付き難く、ある日突然に、生命維持の限界を超えてしまう恐ろしさがある。中国の諺の如く「雨の猛きをみて、龍の大なるを知る（目にみえる

ものから、目にみえないものを知ってゆく）」べきであり、我々にとって気候変動を知る上では、目に見える異常気象による大災害は勿論のこと、ビジネスの上で日々追いかけている相場チャートの上に現れる「穀物価格の変動」が一番センシティブな動きを見せるヒントなのである。つまり、我々こそ、この気候変動の「変化が起きる渚」にいることを最も意識すべきなのである。何故ならば、農業こそ「太陽と水」のバランスによって成り立っているビジネスなのだから。

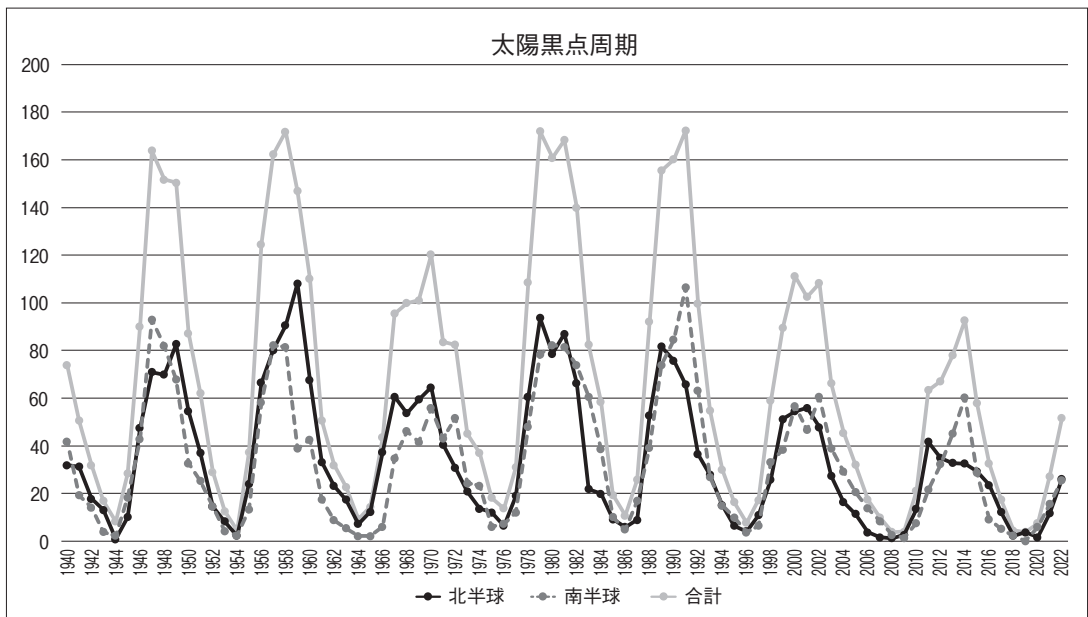
今でこそ、天気予報やニュース番組で、「エル・ニーニョ」や「ラ・ニーニャ」という言葉が毎日聞かれるようになっている。この言葉は一体どこから来たのかご存知であろうか。実は元々は油脂業界の、それも魚油業界の専門用語だったのである。小職が1981年に入社し配属されたのが、この油脂部であり、魚油も扱っていた動物油脂チームであった。三菱商事では当時、毎週月曜日朝に穀物部（小麦等）・飼料部（コーン等）・油脂部（大豆等）の穀類を扱う3部合同による相場会議が開かれていて、トレーダー達が互いに情報交換をしながら、国際穀物相場の荒波に日々立ち向かっていた。会議は全て日本語で話されているにも拘わらず、業界の専門用語が飛び交い、入社して半年間は、まさに文字通りチンプン・カンブン（原義は中国語で聽不懂（能）・観不懂（ティンプトン・カンプトン））であった。ある時、この相場会議で、所属チームのK、H両先輩方が、南米ペルー沖で12月のクリスマス頃に突如発生する不可解な不漁（ばったり魚が採れなくなる）が起こる現象を、地元の漁師が「エル・ニーニョ」（神の子供（イエス・キリスト）のいたずら）と呼んでいることを報告。これはペルー沖の海水温の異常な上昇

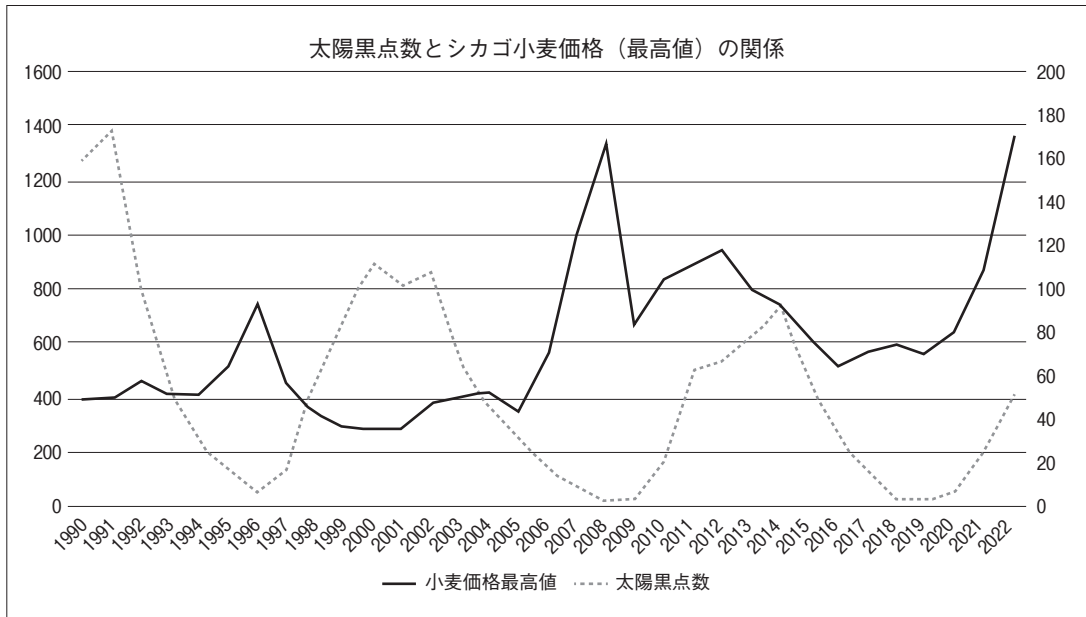
を原因としたイワシ（魚油の原料）の不漁であると分析し、この海水温の変化が、前年からの大干ばつ、相場高騰、この翌年の穀物相場の暴落という波乱に繋がってゆく可能性を初めて指摘したのである。この頃、世界の「異常気象」について毎月取り上げていた三菱商事の情報誌「インフォ・ダイヤ」誌のインタビューでこの「エル・ニーニョ」について両先輩が言及し、これを切っ掛けに、世の中に徐々に知られるようになっていったのである。因みに「ラ・ニーニャ」とは、エル・ニーニョの反対の現象、すなわち海水温の低下を、イエス・キリスト（男の子）に対する反対の「女の子」という意味で、ラ・ニーニャと名付けられた現象のことを言う。

更にこの頃、穀物相場を担当する先輩方から聞かされていた言葉に「ゴキブリ相場」がある。これは台所のゴキブリではなく、約5～6年ごとに相場が暴騰する現象（5期ぶり）について経験則からの相場の見通しで、その変動要因については、未だ誰にも分らなかった。

過去約20年間の相場変動を分析し、将来の変動を予測しようと、小職も当時の最新の計算ソフト（マルチプラン（笑）：エクセル等はずっと後のソフト）で近似値分析し、将来の相場を予想できないか日夜奮闘していた。何故、5～6年周期なのか。思い悩む中で、ふと農業が「お天道様と水」のビジネスであることに気が付き、太陽の黒点周期活動に着目した。太陽の黒点周期は、太陽の活動の活発さを表すもので、この周期は約11年である。この周期の半分が、丁度5.5年、ゴキブリ相場との関連性の高い数値が弾き出された。

早速、社内で報告するも、入社2～3年目の若造の声を聴いてくれる相場師は誰もおらず、失意の日々。しかし、そんな話を取引先のR社の購買部ですと、同社の購買部と研究所が面白がってくれ、小生のデータがほしいという。どうせ社内で無視されたもの故、使って頂けるなら喜んで提供させて頂いた。その後、R社の研究者の手に寄って、世界パーム油学会で研究





発表され、多くの耳目を集めることとなり、業界への貢献を心ひそかに喜んだ。添付資料（2つのグラフ）を参照すれば今も、太陽黒点活動の極小期に至る前後に、穀物相場の高騰が見られる傾向が確認できる。

この周期律も石油を巡る戦争や、経済変動等の「人的要因」によって大きく揺さぶられているが、長期的には「コンドラチエフの波」と言われる景気循環説や、中国の「還暦」の概念＝いずれも50-60年周期のサイクルの重要な要因の一つに思える。中には、疾病の流行と太陽黒点周期との関連を研究し続けている研究者もいる。いずれにせよ、太陽（日照・温度）と水（降水量）が、穀物生産に影響するのは間違いのない事実であり、これからも穀物の相場動向に大きな影響を与え続けてゆくことに違いはない。この変動要因自体をコントロールすることは到底できないが、AIの技術と量子コンピュータの活用で、少なくとも超長期の降雨・温度予報やこれに基づいた収穫量予想ができるようになる

と、これらの要因への有効な対策の一つにはなるであろう。一見、解決が不可能に見えるような難問であっても、国連の持続可能な目標達成のひとつとしてジェフリー・サックス博士が「貧困の撲滅」に大きな成果を上げた実例が示すように、この地上から「飢餓」をなくすることができるようになるかもしれない。是非、全世界の小麦粉業界で知恵を出し合って研究を続けてほしい。

エル・ニーニョや、ラ・ニーニャと言った海水（潮流）の変化が、世界の天候、とりわけ世界各地の降水量や温度の変化に大きな影響を与えることが、理解されるようになってきたが、人類が海洋について知っているのは、せいぜいダイビング可能な水深57m程度の海水表面の薄皮のみで、深海で起きていることについては未だ未知の領域である。

海水の表面温度の変化は、パソコンが発達した現代では、人工衛星の力も借りて、貴重なデータが簡単に、しかもタダで手に入る。小生は



エコノミストオンラインより

勤務していた製粉会社で、地上数千メートルのジェット気流の動きと、海水表面温度の変化を、相場関連情報として、毎週常務会で報告し、大きな変動リスクの事前回避に備えていた。(カラー画像解析なので誌上での画像は省略)

ここ数年間、特に懸念していたのが、北極海の氷の面積の減少と南極の氷床の融解である。北極海の氷は、元々海水が凍ったものであり、溶けても世界の海面上昇には繋がらない。一方、南極の氷は、南極大陸の上に降り積もった雪や氷であり、淡水なので飲料にも利用できるが、溶解した分、確実に世界の海水量が増加し、水没する町や国が出てきてしまい、由々しき事態となる。日本では、宮地秀作氏@miyajiman0621が、国土地理院の関東地方地図に、海拔10m以下の関東平野の貝塚の名前をプロットしたところ、関東平野の大部分が渚となり、海面が僅か10m上昇しただけで塩分によって農業も壊滅的な打撃を受けることが予想されている。COP27開催国のエジプトでもナイルデルタ地域の10%

超が海水に浸食され農地へのダメージが大いに心配されている。

このように海水面の10mの上昇は、農業・経済・国家そのものにも深刻な影響を与える可能性が高い。南太平洋のツバルは、国の平均海拔が僅か2m、モルディブは、1.5m。まさに今この時が、国家存亡の危機である。イタリアの水の都・ベネチアでも毎年秋から冬にかけて低気圧と高潮が重なって、水位が100cm以上上昇し、サンマルコ広場が水浸しになった映像をご覧になった方も多いと思う。水位の異常上昇は、1923年、1966年(+194cm)、2018年、2019年(+187cm)、そして2021年にも起こり、その発生頻度は南太平洋以外でも、確実に増加している。

繰り返しとなるが、南極の氷の融解は、世界の水面上昇をもたらす、世界各国で深刻な被害を発生させる可能性が高い。しかし、その一方の北極海の氷の融解は、海水面上昇には影響しないが、より深刻な気候問題を発生させることが懸念されている。

上図は気象庁作成の深層流の世界循環図である。全世界の海を巡るこの深海の遠大な水流のエネルギー源こそが北極海なのである。北極の海水が凍る時、「水分子」同士でくっつく性質があり、比較的塩分 (NaCl) の薄い氷をつくる。その分、濃くなった塩分を含む海水が発生し、これが塩分の重力の影響で沈降を始める。これが深層流を起こすエンジンである。北極海で氷が凍る面積が少なくなることは、必然的にこの深層流の勢いを弱め、これが世界各地での潮流の変化を引き起こす。この潮流の変化は、海水表面温度の変化となり、更に太陽光で温められた海水からの熱による低気圧の発生を増大させ、巨大な台風・サイクロンの発生を引き起こす。今まで降水量が少なかった地域にも雨をもたらし、一方で早魃の被害を広げる。近年では豪州東部での大洪水、米国・カナダでの早魃、中東の降雨による蝗・砂漠とびバッタの大量発生など、農業に直接・間接に甚大な影響を与えはじめている。一巡期間が3千年ともいわれている深層流の変化が発生したらどうなるか、我々の想像の域を遥かに超えてしまう。

冒頭に述べた地球温暖化をもたらすのがCO<sub>2</sub>をはじめとする温暖化ガスが主因であるが、一方で、地球を一つの生命体とみなし(地球ガイア論)、地球自らがこの温暖化に対して対抗するかも…と考える学者もいる。地球にとって手っ取り早く温度を低下させるのは、火山噴火による太陽光の遮断である。小生がフィリピン共和国に赴任する丁度1週間前の1991年6月15日には、突如ピナツボ火山が大爆発を起こした。その火山灰は地球全体を覆い、その後約3年間、火山灰は大気中に滞留し、地球の平均気温を0.5℃下げた。フィリピンでも甚大な被害が起きたが、日本でも92年、93年にひどい冷夏とな

りコメ不足が発生した。46億年の地球史の中では2度の全球凍結の痕跡がある由だが、そこまで酷くはないものの(全球凍結だと生物のほとんどが死滅する)地球の自然は我々がまだ知らない自然の自己防衛能力を備えているのかもしれない。

### (3) ロシアによるウクライナ侵攻の影響

さて、太陽と水に極めて大きな影響を受ける農業、特に小麦等の主要食糧の安定供給は、全人類にとって生命を維持するための重要な鍵であり、平和の礎でもある。

地球的規模の環境変化や、自然災害のみならず、今回のロシアによるウクライナへの侵攻は、ウクライナの今年の小麦の収穫・作付けに大きなダメージを与えることが確実である。(下記の米国農務省の資料では、これらが未だ十分に反映されていない)ロシアもまた黒海からの輸出ができなければ、陸路で運べる対中国向けを除いて、大きなダメージとなる。世界の小麦粉貿易量203百万トンの内、ロシアの輸出量は32百万トン、ウクライナで20百万トン、世界貿易量の約1/4に相当する52百万トンに影響がでる可能性が残る。当然、この輸出を米国・豪州・カナダ等から補うこととなり国際価格は高止まりとならざるを得ない状況が続く。直接的影響としては、北アフリカ・中東の食糧事情の悪化がより深刻な状況になってきている。

更に、ウクライナを中心とした黒土(チェルノーゼム)地帯からは、小麦だけでなくコーンや蕎麦も栽培されており、特に中国は巨大な胃袋を支える為に、養豚の飼料としてウクライナから大量のコーンを輸入しており、ロシアとウクライナの狭間に立たされている。ロシアのウクライナ侵攻による穀物へのダメージは、直接

## 世界の小麦 国別生産量と輸出量 (2021/2022予想)

(単位：百万トン)

| 生産量 | 生産地域  | 3月予想   | %      | 2月予想   | 増減率    | 輸出量 | 輸出国    | 輸出量    | %      | 2月予想   | 増減率    |
|-----|-------|--------|--------|--------|--------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1   | 欧州    | 139.00 | 17.9%  | 138.90 | 0.10   | 1   | 欧州     | 37.50  | 18.5%  | 32.00  | 5.50   |
| 2   | 中国    | 136.95 | 17.6%  | 136.95 | 0.00   | 2   | ロシア    | 32.00  | 15.8%  | 35.00  | ▲ 3.00 |
| 3   | インド   | 109.59 | 14.1%  | 109.52 | 0.07   | 3   | 豪州     | 27.50  | 13.5%  | 25.50  | 2.00   |
| 4   | ロシア   | 75.16  | 9.7%   | 75.50  | ▲ 0.34 | 4   | 米国     | 21.77  | 10.7%  | 22.05  | ▲ 0.28 |
| 5   | 米国    | 44.79  | 5.8%   | 44.79  | 0.00   | 5   | ウクライナ  | 20.00  | 9.8%   | 24.00  | ▲ 4.00 |
| 6   | 豪州    | 36.30  | 4.7%   | 34.00  | 2.30   | 6   | カナダ    | 15.50  | 7.6%   | 15.20  | 0.30   |
| 7   | ウクライナ | 33.00  | 4.2%   | 33.00  | 0.00   | 7   | アルゼンチン | 14.00  | 6.9%   | 14.00  | 0.00   |
| 8   | カナダ   | 21.65  | 2.8%   | 21.65  | 0.00   | 8   | インド    | 8.50   | 4.2%   | 7.00   | 1.50   |
| 9   | 北アフリカ | 21.59  | 2.8%   | 21.59  | 0.00   | 9   | カザフスタン | 7.40   | 3.6%   | 7.30   | 0.10   |
| 10  | 中東8カ国 | 16.49  | 2.1%   | 16.49  | 0.00   | 10  | ブラジル   | 1.70   | 0.8%   | 1.50   | 0.20   |
|     | その他   | 144.00 | 18.5%  | 144.00 | 0.00   |     | その他    | 17.24  | 8.5%   | 23.14  | ▲ 5.90 |
|     | 全世界   | 778.52 | 100.0% | 776.42 | 2.10   |     | 全世界    | 203.11 | 100.0% | 206.69 | ▲ 3.58 |

(データ出典：USDA WASDE 2022.Mar データ)

的影響は北アフリカ・中東の食糧事情の悪化を引き起こし、この地域の政権への変革のエネルギーになることが容易に予想され、世界は更に不穏な状態に陥ることも懸念され、この地域のみならず、世界各国、全世界の食糧需給全体への影響は、我々の想像を遥かに超えた被害を生じさせる可能性がある。

### 3. 世界的食糧危機への対策

こうした穀物生産量の増減を起こす変動に対して、更なる人々の不幸を未然に防ぐために、全世界の人々の食糧の安定供給を図るためにはどうしたらよいのだろうか。

これはSDGsの17の目標の2番目「飢餓をなくそう」への挑戦でもある。既に、現在の地球を40人のクラスに例えたら、その内の4人は明日の食事にも事欠く状況に陥っているとされて久しい。

食糧危機を引き起こす原因が、人類の愚行の故であるかどうかを問わず、**大事なことは**、地球的規模での異常気象（地震、旱魃、洪水、熱波、

森林火災等）や人的災害による食糧生産量の大幅な減少に対抗できうる**国際的なシステム創り**である。ここには、国境を跨ぎ、宇宙船「地球号」の乗組員を守るという新たな概念・視座の導入が不可欠となる。その一案を以下に提示してみたい。

#### (1) 脆弱性、ショック・ストレス緩和、耐性力アップ、強靭性の構築

##### ①国連「世界食糧バンク」の創設

・穀物種子の国際公的保管

世界的穀物種子会社に独占させることなく、種子を人類の資産として保管する。

・穀物等の在庫・保管（各国・農業体等で分散保管：災害へのリスクヘッジも兼ねる）ショック・ストレス緩和の為、各国での半年程度の備蓄・ローリングストックの奨励、品質保持の為、日本のCAS(Cell Allive System) 保管技術等も導入し活かす。

・穀物相場への投機的資金の流入規制

・世界全体への需給調整・監視機能をもつ組織

体に。

## (2) 食糧安全保障の強化

### ②国連での国際条約の検討・採択・実施

- ・穀物貿易を外交の手段としない決議
- ・各国での備蓄の奨励（半年程度）
- ・穀物共同輸送ルートの確保・監視・防護（国連穀物護送船団）
- ・国連備蓄の活用（豊作の際の買上げ、集荷・保管・不作時の放出）

## (3) 食糧生産・消費の持続可能性の向上

### ③世界各国での食育支援

- ・食育（教育）の支援（資金・人材）
- ・健康増進活動支援（減塩、減糖質、高蛋白、嚥下障害軽減食品開発等）
- ・食品ロス削減・教育（Doggy bagの活用、フードバンクや、子供食堂への支援、賞味期限直前商品の活用等）
- ・地産地消の促進
- ・DX等の活用で、農業収入を増加、魅力ある職業に。

更に

## (4) WTF (Weapon to Flour) 武器をケーキに！活動

貧困（飢餓）の為に戦闘に加わる子供たちを防ぐために、また現在、世界中に蔓延しつつあ

る殺傷能力のある「小火器（拳銃・自動小銃・ランチャー等）類」を集め現代の刀狩）、これらを小麦粉と交換する Weapon to Flour（仮称）活動等の展開も是非提案したい。

勿論、これには、集めた武器類をきちんと保管・輸送し、その後、完全に溶かして、地上からなくす、物流業界、鉄鋼業界（溶鉱炉）の協力も不可欠である。

米国・カナダ・豪州・欧州・アジア、そして日本の小麦・製粉業界団体が協力し、この世界で「武器」を「ケーキ」に変えていけたならば、世界はどんなにか平和で明るい未来になるだろう。

「食」は命を繋ぎとめ、健康的生活の要となり、更に豊かな人生を人々にもたらす。「ぬちどうたから」—生命は宝。この言葉を、全世界に広めてゆくのは、日本の使命でもある。製粉業界の皆様方こそ、間違いなくこの暗黒の時代に世界に灯る灯台となろう。願わくは、国家機関をはじめとして、全世界の製粉業界・企業が一体となり、この人類の難問に挑戦し、大いなる転換点を成し遂げられますように。

最後になりましたが拙稿を書く機会を与えて下さった製粉振興会の皆様に心より感謝申し上げます。大変に有難うございました。

（日東富士製粉株式会社 非常勤顧問）

## 製粉と小麦粉のお国ぶり：その後

— 1 —

# アメリカ

### ★2014年の大型合併で業界構造が大きく変わった

2014年5月、最大手製粉会社のHorizon製粉（Cargill社とCHSの合弁会社）と業界3位のConAgra製粉が統合して、大型のArdent製粉が誕生した。当局の指導もあり、合併直前に旧両社は合わせて4工場を売却して、工場数42、日産能力22,703t（変化がなかった2位のADM製粉の1.7倍）の体制で新会社がスタートした。「穀物ベース食品への人々の考え方を変えさせるための組織」と位置づけ、「信用、奉仕、簡素、安全」の4つを重視することにした。中でも、「製品と従業員の安全」を優先以上の絶対的価値とし、製品とプロセス両面でイノベーションを志向して業界での卓越をめざし、特に、通常的小麦粉については他社以上のことをすると公言した。

同じ年に、Milner製粉（10位）とその共同経営体のPendleton製粉（15位）が業界4位のCereal Food Processors社を買収して、新会社Grain Craft社を設立し、16工場、日産能力7,396tとなって、業界3位に躍り出た。また、Ardent製粉の誕生直前に、Miller製粉がConAgra製粉とHorizon製粉から合わせて4工場（合計日産能力2,658t）を取得して、6工場、日産能力4,291tに拡大し、4位になった。

その後も、Bay State製粉が日産能力を3,718tから4,174tに拡張し、1工場を閉鎖して日産能力3,928tになったMiller製粉を抜いて4位になった。6位のGeneral Mills社が自社製品用の需要

増に対応するため日産能力を3,651tから3,824tに、7位のMennel製粉が2工場を買収して1,855tから3,084tに、8位の州営North Dakota Mill & Elevatorも1,497tから2,245tに、9位のSiemer製粉が1,656tから1,882tにというように中型の製粉会社の能力拡張が続いた。

### ★大手3社は能力拡張をしないで、工場の集約、リフレッシュ

しかし、小麦粉消費量は、人口増にもかかわらず、大型合併があった2014年の1949.8万tから6年後の2020年になっても微増の1977.9万tで、1人当たり消費量は61.1kgから59.8kgに減少した。このような消費状況を反映して、小麦粉生産量は1927.6万tから1931.3万tへと微増に留まっている。合計の製粉能力シェアが全米の54.8%を占める大手3社は、今後の消費予測も考慮して、新工場建設や能力増ではなく、工場の戦略的立地を再検討し、工場の集約や古い機械設備のリフレッシュを行って、生産の効率化を志向している。

具体的には、Ardent製粉が工場を42から34に減らし、日産能力も22,703tから21,707tに縮小した。2022年初めにフロリダ州Tampa郊外のPort Redwingに建設中だった最新鋭の新工場（2ライン、794t）が稼働したことで、市内の旧工場を売却するのもこの戦略の一環である。ADM製粉も21工場（2014年には23工場）、日産能力12,272t（同13,082t）に減らし、3位のGrain



Craft社も同様に、16工場から13工場に、7,396tから6,940tに縮小した。

2014年当時と2021年末の工場規模別分布を比較すると、日産能力454t以上の工場は数が71から70へと1減したが、総日産能力は51,887t(全工場の74.4%)から54,975t(同79.2%)へと増え、工場規模の大型化が進んでいることがわかる。

### ★粉歩留りが長期的に上昇。小麦全粒粉の需要は伸びない

平均粉歩留りは1955年(71.9%)頃から上昇が始まり、2000年に73.4%、2012年に76.0%、2020年に77.3%と上昇した。その理由として、識者たちは、小麦品種の改良と生産農家による優良品種選択に加え、耕作技術や貯蔵設備の改良などの生産、流通両面での進歩による小麦品質の向上と、製粉機械装置と製粉技術の格段の進歩、向上を挙げている。

ケーキ用には軟質小麦のショートパテント粉が多く使われるが、消費量の大部分を占めるパン用粉のかなりの部分がロングパテント粉(灰分は0.5%台後半)で、ショートパテント粉は多くない。長期的な粉歩留り上昇によって小麦粉灰分も徐々に上昇しているようだが、「製パン性に影響がなければ少々の灰分上昇は問題にしくなくてもよいのでは……」という論調が主流のようである。

合衆国農務省と保健福祉省から5年ごとに改訂版が出されている「アメリカ人のための食事ガイドライン」の2015年版と2020年版では、「穀物が健康の維持、増進に必須の食品」だとし、「その半分以上を全粒穀物で食べるよう」推奨している。製粉業界では小麦全粒粉の製造設備を増設し、需要増に応じた生産ができる態勢を整えてきたが、生産量の実態は2015年に109.4万t(小麦粉全体の5.7%)でピークになった後、微減傾向が続き、2021年には90.6万t(同4.7%)になっ

た。健康に良いことはわかっているが、全粒粉をパンのような食品にしておいしく食べることの難しさが浮き彫りにされたように思われる。1人当たりの小麦粉消費量が増えない今、食物繊維含量が多い野菜などを活用することも含め、国民をどう誘導していくか、政府の力量が問われるように思われる。

有機小麦の生産量はまだ少ないが、徐々に増えており、製粉会社の中には有機小麦粉も視野に入れているところがある。小麦以外の穀物に関心を持つ消費者もおり、Ardent製粉やBay State製粉がそういう人たちの要望に応じているが、二次加工法の難しさと食感・食味の問題があり、今後のテーマである。

### ★小麦粉加工品は多様化が進むが、消費は低迷

食生活の多様化や移民の増加を反映して小麦粉加工品の種類はかなり増えたが、その割には消費量が増えない。小麦粉の最大の消費先である製パン業界の2021年7月までの1年間のフレッシュパンの状況を見ると、売上高は前年同期比0.2%増だが、販売個数は4.2%減である。製パン業界は寡占化が進み、上記期間における1位のBimbo USA社と2位のFlowers Foods社の合計売上高は業界全体の51.7%で、中型も健闘している。大手や中型はプレミアム製品や差別化した製品が売れているので比較的楽観的だが、プライベートラベルは苦しい状況が続いている。

製菓業界も製パン業界と同様の状況で、小麦粉の消費量は増えていないが、最大のMondelez International社は積極的経営でシェア拡大を続けている。コロナ禍でパスタ類の2021年2月までの1年間の総売上高は前年同期比26%増、販売個数も19%増を記録した。この業界もシェア34.5%のBarilla America社を含む上位4社の伸びが大きい。

(一般財団法人製粉振興会 参与、農学博士 長尾 精一)

# 「カヌレ」という名のお菓子

ひらの あさか

### フランスの伝統的な菓子

「カヌレ」は、フランス南西部のボルドー地域の伝統的な焼き菓子で、正式名は「カヌレ・ド・ボルドー(Canelé de Bordeaux)」といいます。フランス語でカヌレとは「溝のついた」という意味で、溝のついた専用の焼き型を用いて焼くので、その名があるようです。

### ボルドーといえば

ボルドーといって、誰もが思い出すのがワインです。澄んだ赤ワインに仕上げるための伝統的な作業「コラージュ(collage)」は、カヌレがつくられはじめた時代から、現在に至るまで行われています。

この作業で使われるのが、卵の白身。卵白には、アルブミンというたんぱく質が含まれていて、これが渋味の成分タンニンと結びつきやすいという性質を持っているので、この特性をうまく利用して、かき混ぜた卵白をワインの樽の中に入れ、樽の中で熟成中のワインの中で少しずつオリ(沈殿物)として、静かに樽底に沈んでいきます。数カ月置いて、ワインの底に沈ん

だオリを取り除く「オリ引き」という作業をすることによって、ワインの上澄みの部分だけを取り出し、別の容器に移し替えることにより、卵白は完全に取り除かれ、澄んだ赤ワインをつくり出すことができるのです。

さて、この作業で大量に残るのが、卵の黄身です。この残った黄身を使うために生まれたのがカヌレだといわれています。

### はじまりは修道院？

カヌレの発祥は、16世紀ボルドーにある修道院の修道女たちがつくった棒状のお菓子がそのはじまりだといわれています。

ただし、その後フランス革命で、聖職者たちが迫害を受け、その影響もあって、カヌレのつくり方についての資料も失われてしまったようです。

現在のカヌレに近いものは、ワインの「オリ引き」で残った卵の黄身と、交易が盛んだったボルドーの港に停泊する船の積み荷や倉庫の袋からこぼれ落ちた小麦(小麦粉)を使って焼かれたという説があります。

17世紀頃「新大陸」と呼ばれていたアメリカ大陸、西アフリカよりもたらされたバニラやラム酒が生地に加えられました。これを12の溝がある銅製の型に蜜ろうをぬり、小麦粉生地を流して焼くというものです。蜜ろうをぬることにより、生地が型から外れやすくなるだけでなく、表面はカリカリとした食感なのに中はしっとりとして、弾力のある独特のお菓子に仕上がります。

ちなみに蜜ろうとは、ミツバチが巣をつくる時の材料として分泌するもので、巣の水溶性部分を熱湯で溶かし、残ったろうの成分を集めて精製したものです。

### カヌレの人気再燃

1990年代、それ以前から日本でもカヌレは食べられていましたが、当時は菓子店ではなく、パン屋さんの片隅にはほかのパンとともに置いてありました。思い出すのはドンクのカヌレです。

そして2021年あたりから現在まで、カヌレの人気は上がっているようで、カヌレだけの専門店も登場しています。抹茶、ほうじ茶、コーヒー、アールグレイティー、ココナッツなどで味と香りをつけたもの、季節の果物いちご、ぶどう、ラズベリーが入ったものなど、プレーンのカヌレだけが主流だった90年代より種類もかなり豊かになりました。

### おうちでカヌレ

カヌレの基本的な材料は、強力粉、薄力粉、グラニュー糖、牛乳、無塩バター、卵、ラム酒、バニラ（スティック）です。バニラスティックは縦半分に切って、中のピーンズを取り出す。牛乳を鍋に入れ、バニラスティックとピーンズ、バターともに牛乳に入れて火をつけて沸騰前に火を止め、冷ます。その後バニラスティックは取り除く。ボウルにグラニュー糖、卵を加えて泡立て器で混ぜる。合わせてふるった強力粉、薄力粉を加えてダマにならないようにかき混ぜ、バニラの入った先ほどの冷ました牛乳を少しずつ加えて混ぜ、加え終わったら、ざるなどでこす。生地は蓋をして冷蔵庫で一晩休ませる。型に常温にもどしたバターをぬり、一晩休ませた生地にラム酒を加え静かにかき混ぜ、型の8分目くらいに生地を注ぐ。天板に型をのせて220℃に温めたオーブンで20分焼き、170℃に下げて30～40分くらい焼く。オーブンから取出してそのまま置いて、型から取り出す。お家でつくる場合は、蜜ろうの代わりにバター、はちみつなどを型にぬります。

### 参考文献

愛すべき地味菓子 yuka\*cm 大和書房  
カヌレ 熊谷真由美 日東書院  
カヌレ・ド・ボルドー

一般社団法人 日本洋菓子協会連合会

(食文家)

## 令和3年度製粉講習会を開催

- (一財)製粉振興会は、3月22日、フクラシア丸の内オアゾにおいて令和3(第56事業)年度製粉講習会を開催しました。

本年度は、昨年度に引き続き、コロナ禍の状況を踏まえて会場参加とオンライン参加を可能とし製粉企業等の役職員の聴講を募ったところ、約400人の聴講予定をいただき、過去最高となった昨年度をさらに大きく上回る数の皆さまに参加いただきました。

講師は、(一財)製粉振興会参与 長尾精一氏、及び東京農業大学特命教授(農生命科学研究所)末松広行氏にお務めいただきました。



- 長尾講師からは、「コロナ禍後を見据えた海外の製粉及び関連業界の動向と戦略」と題して、
  - i コロナ禍による影響と今後の展望
  - ii 気候変動と小麦の状況
  - iii 小麦供給量確保に向けた輸入及び自給自足国の努力
  - iv 小麦生産国の状況
  - v 小麦粉加工品の消費動向と二次加工業界の対応
  - vi 途上国を中心に製粉工場の新・増設が盛んに
  - vii 製粉会社の努力(工場新・増設以外)
 について、最新の海外情報、データを踏まえた講演をいただきました。



- 末松講師からは、「SDGs時代の食料・食品産業」と題して、
  - i 食料安全保障
  - ii 食に関する産業の発展方向
  - iii これからの農業経営の発展方向
  - iv 地球環境問題と再生可能エネルギー
 について、講演をいただきました。



### (講演概要)

- ・ 気候変動や紛争など食料安全保障上のリスクは益々増大しており、国内農業生産に関わる農地や人の確保、輸出の取組が重要。
- ・ 食品産業は、農林漁業と消費者の間に位置し、食品の品質、安全性を保ちつつ安定的かつ効率的に供給するとともに消費者ニーズを生産者に伝達する役割を担う。我が国では100兆円超の規模を有する重要産業。
- ・ コロナ禍において、居酒屋等を中心に厳しい事業環境にさらされている一方、フードデリバリーが新たに伸びている。
- ・ 農業経営においては人手不足を補い、技術を平準化するスマート農業の普及が将来への鍵。我が国で確立された技術はアジアを始め世界で通用するものとなる。
- ・ 地球温暖化への対応について、国は2030年度までに温室効果ガスを△46% (2013年度比)という意欲的目標を掲げて取り組みを開始。
- ・ 農地・森林、海洋によるCO<sub>2</sub>吸収、農畜産業からのメタン・N<sub>2</sub>O排出削減、再エネの活用&スマート農林水産業の推進等に向けて農林水産省は「みどりの食料システム戦略」を策定。加工・流通におけるムリ・ムダのない持続可能なシステムの確立や、消費における環境に優しい持続可能な消費の拡大や食育の推進などとともに、企業個別にも施設の脱炭素化とレジリエンス(復活力、環境適応力)強化などが今後重要となる。

※概要の文責は事務局

## 「小麦粉の魅力」再改訂版を刊行

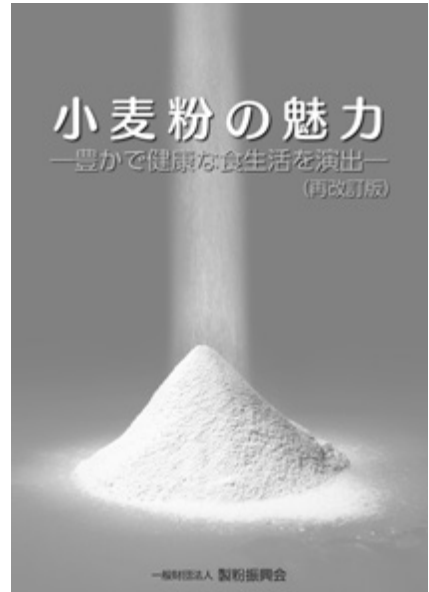
(一財)製粉振興会では、この程、「小麦の魅力」一豊かで健康な食生活を演出—再改訂版を刊行しました。本書は平成15年発刊後、小麦粉に関する知識を広くまとめた資料として幸い関係者の好評をいただいて参りましたが、今回14年ぶりに再改訂版の刊行に至ったものです。

小麦粉をめぐる環境の変化等を反映して記述や統計資料を見直し、充実させるとともに、函版のカラー化を行い、日本人の食生活の中でますます重要性を増す小麦粉の魅力と知識を平易に理解いただける書としました。

関係者の皆さまには、小麦粉に関する知識の普及のため、是非本書をご活用いただければ幸いです。全国の製粉企業・工場、関係団体には5月中旬以降配布を予定しており、公立図書館や高校・短大・大学図書館、国県農業試験研究機関などにも広く寄贈を予定しています。

また、全文を弊社ホームページでも閲覧可能です。

なお、余部がありますので、ご希望の方は弊社ホームページ(<https://www.seifun.or.jp/>)「機関誌・刊行物」コーナー内の申込みフォームから申込みをお願いします(送料自己負担)。



(体裁及び構成)

○体裁

B5版アジロ綴じ 表紙PP貼り 本文カラー101ページ

○構成

- I. 小麦は魅力的な食材
  - II. 小麦粉の種類と特性
  - III. 栄養源としての小麦粉
  - IV. 家庭で小麦粉を上手に使うには
  - V. 安全な小麦粉を安心して食べていただくために
  - VI. 小麦粉の需給と流通
  - VII. 原料小麦の種類と小麦粒の構造
  - VIII. 小麦の需給と流通
  - IX. 日本で小麦粉製造に使用している小麦
  - X. 製粉で小麦粉ができるまで
  - XI. 小麦粉の加工
- 資料

# 業界ニュース

## ★吉原良一氏藍綬褒章を受賞

吉原良一氏（吉原食糧株式会社代表取締役）は、吉原食糧株式会社に入社以来、新技術導入による商品開発など会社発展に務める一方で、協同組合全国製粉協議会の副会長、香川県製粉製麺協同組合の理事長等として、小麦粉の安定生産・供給、製粉業界の組織強化に寄与するとともに、香川県の食文化に立脚する企業として、伝統と現代技術を活かし、麦から新しい価値を持つ食の創造に貢献されてきた功績により、春の褒章において、栄えある藍綬褒章を受章されました。



【協同組合全国製粉協議会・青木】

## ★麦・大豆利用拡大推進事業（令和3年度補正予算）に係る事業実施者の公募の受付開始

一般社団法人全国米麦改良協会は、農林水産省の麦・大豆利用拡大推進事業（令和3年度補正予算）の事業実施主体として、麦・大豆の利用拡大に向け、産地と連携して食品関連企業等が行う新商品の開発等に必要な機器の導入等の取組を支援する事業の事業実施者の公募を4月4日（月）に開始しました。

なお、本事業の対象となる事業実施者の主な要件は以下のとおりです。

①産地と連携して麦・大豆の利用を積極的に行い、原料を切り換えた既存商品の製造、新規性のある商品の開発、製造及び販売を行う事業者であること。

②本事業により産地と連携して麦・大豆を原料

として開発した商品について、麦・大豆を原料として使用する旨を商品の包装等に表示すること（食品表示法等の関係法令及びガイドライン等の規定を遵守し、加工食品の原料原産地表示に取り組むことを含む。）。

本事業では、事業実施者が取り扱う麦・大豆の使用量を5年後に10%以上増加させるか、麦の使用量を100トン以上又は大豆の使用量を10トン以上増加させることを成果目標とし、補助金の交付決定額の範囲内で①産地と連携した新商品の開発・試作、②新商品の製造等に必要な機械の開発・改良等、③試作品のプロモーション等の経費を助成します。

公募の受付期間は6月30日（木）までとなっています。

【（一社）全国米麦改良協会・月村】

# 業界ニュース

## ★「2021／22年産 オーストラリア小麦作柄 報告会」開催される

3月2日（水）、「2021／22年産豪州小麦の作柄報告会」がオンラインで開催され、製粉企業の関係者など30名以上が視聴した。

報告会では、生育状況、市場動向、持続可能な穀物生産、新穀の品質状況について、豪州シー・ビー・エイチ・グレイン本社の担当者から説明が行われた。

生育状況は、春先に適量の降雨に恵まれ順調であった。9月にクイナナ地区で霜害が発生したものの、生育期間を通じて平年以上の降雨量があったため、豪州全体では、豊作であった前年を上回る3,800万トンとなり、記録的な小麦生産量となった。

このうち、西豪州の生産量は前年より約400万トン多い1,250万トンと過去最高を記録した。そのうち、ヌードル小麦（ANW）の生産量は130万トンとなった。

大豊作となった半面、原麦の蛋白質含量はANW1が9.8%、ANW2が8.5%、APWNが10.2%といずれも前年より低下した。

ANWの作付品種は、昨年と同様にNinja（生産量割合44.1%）、Zen（40%）が主要な品種で、新品種のKinseiが6.7%となった。かつての主要

品種であったCalingiriは生産量が減少し（7.8%）、来シーズンはANW品種から除外される。APWNでは、Chief（29.7%）が最も多く、Devil、Havoc、Vixenの生産量も増加している。一方、2019／20年では65.9%を占めていたMaceは生産量が減少し19.3%となった。

日本向けの最大の供給元であるクイナナ地区の原麦の品質は、

①ANW1は、容積重81.9kg/hl、千粒重42.2g、水分10.1%、蛋白値9.6%（11% m.b.）、アミログラム最高粘度値543BU、

②ANW2は、容積重82.1kg/hl、千粒重41.1g、水分9.9%、蛋白値9.6%（11% m.b.）、アミログラム最高粘度値589BU、

③APWNは、容積重82.0kg/hl、千粒重42.9g、水分10.1%、蛋白値10.3%（11% m.b.）、アミログラム最高粘度値545BUとなっている。

前年に比べ、ANW及びAPWNともに、容積重、千粒重が高くなり、蛋白質含量が低下した。

また、同地区のANW80%／APWN20%の日本向けブレンドの原麦の品質については、容積重82.0kg/hl、千粒重40.6g、水分9.9%、蛋白値10.0%（11% m.b.）、アミログラム最高粘度値614BUと報告された。

【製粉研究所・明石】

# 業界ニュース

## ★パン食普及協議会 令和4年度事業計画等を決定

パン食普及協議会（会長：細貝理榮（一社）日本パン工業会副会長）は、令和3年3月23日、臨時総会を開催し、以下の令和4年度事業計画を決定しました。この事業計画は、パン関係者のみならず製粉はじめ関連業界関係者から構成されるPR委員会での企画案の検討等を踏まえた内容となっています。今後の事業実施に当たっても、より効果的な取組を行うため、同委員会メンバーから助言等をいただくこととしています。

また、同総会では、（一社）日本パン技術研究所・井上所長より、令和3年度にパン食協議会が支援した「リテイルベーカリー製パン技術WEB教育コース」実施要領の紹介をしていただきました。

パン食を巡っては、コロナ禍の下での市場環境の変化、原材料やエネルギー価格の高騰、少子高齢化の進展等様々な厳しい環境の中にありますが、関連業界からのご支援をいただきながら、パン業界挙げてPR・普及活動等を継続的に実施してまいります。

### 1 継続事業

#### (1) 地域広報活動助成事業

地域の創意を活かして実施される「パン食普及講習会」や各種イベント、都道府県をまたがって実施される広域的な広報活動等のために必要な経費の一部を助成（所要経費13,000千円）

#### (2) パンのインターネットホームページ「パンのはなし」、「おいしいパン.net」の運営・維持及び統合・充実（おいしいパン関連のYouTube動画コンテンツの作成支援等も含む）（同4,000千円）

#### (3) 学校パン給食推進協議会の運営に対する支援

パン食の普及という製パン関連業界全体の観点から、関連業界の企業・団体の参加を得て学校給食パン促進活動の推進母体として設立された「学校パン給食推進協議会」の運営に要する経費を助成（同3,000千円）



### 2 新規企画PR事業

- (1) 第5回ベーカリージャパンカップ及びベストオブモジュール共同開催（令和5年2月28日～、幕張）（同10,000千円）
- (2) かべテレくんの作成・配布等（モデル地域の小学校への配布、HP用データの作成、小学校関係者へのPR）（同5,000千円）
- (3) パンのインターネットホームページ「パンのはなし」、「おいしいパン.net」の運営・維持及び統合・充実（再掲）
- (4) その他

製パンに関する情報を消費者に適切に提供等するための「パン・プロフェッショナル」制度の検討及びパン消費に係る諸調査の把握・実施等に対して、必要に応じて助成

### 3 パン製品等における国産小豆利用促進事業等

- (1) 令和4年度豆類振興事業（日本豆類協会）の助成を受けて、国産小豆を使用したパン製品の特別販売やPRを積極的に展開する「パン製品等における国産小豆利用促進事業」を実施（同25,085千円）
- (2) その他、牛乳等関連品目団体からの要請等に応じ、当該団体と連携したパン食等のPR活動を実施

【パン食普及協議会事務局（日本パン工業会）・阿部】



# 業界ニュース

## ★全国小麦粉実需者団体協議会 農林水産省幹部との懇談会を開催

全国小麦粉実需者団体協議会（会長：飯島延浩（一社）日本パン工業会会長）は、令和4年4月8日、農林水産省幹部（水野大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）、松本農産局農産政策部長、萩原農産局貿易業務課長、吉松企画グループ長）等との懇談会を開催しました。

この懇談会は、「輸入小麦政府売渡価格を巡る事情」や「取引適正化に向けた取組」等について、農林水産省から詳細にご説明いただいた上、会員から業界の状況、要望等を述べた後、意見交換するという形で行われました。

会員からは、

- ・昨年来、懇談の機会を密に設けていただき有り難い、自らの努力だけでは如何ともし難い面も多々あるので一層の支援をお願いしたい、
- ・政府の後押しにより、小麦粉等の原材料・エネルギーの価格高騰に伴う価格転嫁は、小売りでは概ね順調に進んでいるが、業務用では厳しいまた改定時期が先延ばしされている、小麦粉等一部の原材料価格アップのみしか価格の引上げを認めてもらえない等といったケースもある、
- ・製品価格に転嫁せざるを得ない事情や転嫁交渉の適切な実施等について、消費者、流通業者等に一層周知してほしい、
- ・学校給食でも、給食費の引き上げが難しい中、供給事業者は原材料価格高騰に苦しんでいる、
- ・輸入製品との競争条件確保のため、小麦等の内外価格差是正をお願いしたい、
- ・今後の麦価の更なる高騰、国産小麦価格への連動が懸念され、何らかの緩和措置を講じてほしい、
- ・小麦価格改定に伴う製品価格への影響額の示し方等について、流通業者や消費者に誤解を招きやすいので、今後、関係業界とよく協議してほしい、
- ・国際情勢を踏まえると、原材料を今後安定的に調達できるかどうか不安である等の発言がありました。



- これらに対して、農林水産省から
- ・今回のような業界の事情等をお聞かせいただく場は大変重要、今後とも継続的にやりたい、
  - ・適正な価格転嫁に向けた環境整備や広報については、政府としても、関係省庁が連携してさらに前向きに進めていきたい、
  - ・学校給食の問題は、厳しさを認識している、
  - ・現時点では、原油価格・物価高騰等に対する具体的な対策について話をできる状況にはなく、また、他の原材料価格も同様に上昇している中で難しい面も多々あるが、何ができるかしっかりと検討していきたい、
  - ・価格改定に伴う諸データやその示し方については、業界の方々ともさらに情報・意見交換等を進めていきたい、
  - ・原材料の安定調達については、安全保障の確保という観点からも最優先で取り組む等のご回答をいただきました。

全国小麦粉実需者団体協議会は、会員間での諸情報の交換等を行いつつ、農林水産省との懇談会を定期的に開催させていただいていますが、今後においても、小麦粉関連業界の状況や課題、要望等を伝えていくこととしています。

### 【全国小麦粉実需者団体協議会会員】

（一社）日本パン工業会、全国製麺協同組合連合会、（一社）全国ビスケット協会、（一社）日本即席食品工業協会、全日本パン協同組合連合会、全国乾麺協同組合連合会、（一社）日本パスタ協会、（一社）日本麺類業団体連合会、日本プレミックス協会、全国パン粉工業組合連合会、全国小麦粉分離加工協会、全国小麦粉卸商組合連合会<賛助会員>、全日本菓子協会<賛助会員>

【全国小麦粉実需者団体協議会事務局（日本パン工業会）・阿部】

# 業界ニュース

## ★小麦粉を中心とした料理講習会の取組み

九州製粉協同組合(理事長鶴池直之)は以前から消費者PR事業として、「小麦粉を中心とした料理講習会」を、福岡県内の食生活改善推進連絡協議会に事務委託して取り組んできました。しかし、その実態は必要経費の一部を補助する関わりしがなく、九州の製粉会社の知名度向上に全く役立っていませんでした。

このため講習会事業を担当する組合内の「情報教育委員会」で、事業目的に沿った在り方を議論した結果、平成27年度事業からは、毎年、開催地域ごとに担当する製粉会社を決めて、積極的に関わるようにしました。

改善されたことは、

(1)料理講習会の冒頭に、担当製粉会社による「小麦と小麦粉の知識」の講義時間を設けること。

講義の資料の一つとして、(一財)製粉振興会が「毎日小学生新聞」に掲載する「みんなの小麦粉教室」欄を活用すること。

(2)開催地の栄養士の方々と、数回の打合わせを行い、メニューに最適な小麦粉(九州産小麦)を選択し、提供(無料)することで、自社の小麦粉の品質の良さをアピールし、国内産小麦の需要拡大に資すること。

(3)当日のメニューを家庭で作れるよう、参加者全員に、同じ小麦粉1kgを無料配付すること。

(4)参加者からの「この小麦はどこで売っているの?」という問い合わせに対応できるよう、開催地エリアで担当会社の小麦粉商品(小麦粉だけではなく、乾麺等も含めて)が購入できる店やネット購入のための情報を

提供すること。

(5)開催地の「消費や購入形態」「消費者の考え方や要望」を知るため、アンケート調査に協力して頂くこと。

これらのことを必ず、実施することを決めて再スタートし、既に7年間が過ぎました。

参加された皆さんからは、「某会社の名前しか知らなかったが、九州にも製粉会社が沢山あることを初めて知りました。」「小麦から小麦粉になるまでの流れを勉強できました。」「九州各社の小麦粉は美味しいですね。」等、講習会で講義をした製粉会社に対する好意的な声が沢山寄せられ、担当する皆さんの励みになっています。

また全ての開催地で「小麦の賞味期限」「保存方法」等の質問や、「家庭用小麦粉の少量化」の要望等が必ず寄せられています。

各社も前述の「必須事項」の他にも、①外国産小麦とその小麦粉のサンプルを展示し、参加者が手に取り粒の色や形の違いを知ってもらう。②パンとめん用途で原料小麦が異なる説明をし、「強力粉」や「薄力粉」の触感の違いを体感してもらう。③体験による驚きを感じられるよう、小麦粉からグルテンを取り出す実験をしてもらう。(これは好評です。)

このように、参加された子供から年配者までが驚きによって小麦粉への関心が高まるように、各社の担当者自らが工夫を凝らして行うようになっています。

これらの工夫もあってか、講義にも興味津々の様子で耳を傾けてられています。

再スタート時には、消費人口の多い福岡県内での開催でしたが、各地で好評だったことから、

## 業界ニュース

現在は佐賀県や熊本県でも開催しています。

以前は一つの会場で参加者が50名になる程の盛況ぶりでしたが、ここ数年は、コロナ感染防止対策として、密を避けるため少人数の開催としています。

女性の社会進出や子育て世代の忙しさもあるためか、参加者はリタイア世代が多いのが現状ですが将来を担う世代に少しでも多く参加してもらい、家庭での小麦粉料理メニューが多彩になることで、需要拡大につなげるのが課題と

なっています。

このため、小学校の夏休み期間を利用した講習会、土曜日や日曜日の講習会にも取り組むことで、子育て世代の父兄の参加が増えることを期待しています。

地道な事業ですが、これからも当協同組合各社の知名度向上と小麦粉の需要拡大につながるよう、今後もこの事業を継続することとしています。

【九州製粉協同組合・重松】





世界 (1) 2022/23年度の小麦は生産量(7.80億t)が過去4年で初めて前年度を僅か下回ると予想。

消費量(7.85億t)は過去最高、貿易量(1.93億t)は前年度並み。主要輸出国の期末在庫量は少し増の6,560万t。中国は2%増の1.35億t。

収穫面積は南北アメリカで増えるが、ウクライナ、中国、インドで減り、全体では1%減。天候不順と肥料使用量減で、収量は長期的傾向より少し低い。EUの生産量は収量減で2%減。ロシアは良好。ウクライナは悪条件が重なり、生産量は41%減の1,940万tか。アメリカ(12%増の4,990万t)とカナダ(46%増の3,160万t)は回復する。インドは2%増で、これまでの最高の1.113億tか。パキスタンは政府の増産努力にもかかわらず、肥料の価格高騰と不足で4%減の2,650万t。中国は天候不順で2%減の1.354億t。モロッコは干ばつで15年来の低水準の230万tと予想。消費量は1%増と予想したが、黒海沿岸紛争の終結時期の影響を受ける。食用消費量は人口増を反映して1%増の5,486万tと予想したが、価格に影響される[表1~3]。

(IGC-GMR・531/22)

(2) 2021/22年度の穀物工業用消費量は前年度比2.7%増の3.704億tか。

エタノール用は前年度比5.0%増の1.905億t、うちバイオ燃料用は5.6%増の1.706億t。澱粉用は1.2%増の1.43億t、ビール醸造用は3.0%減の

3,620万t。国別では、アメリカが4.0%増の1.680億t、中国が0.3%減の9,330万t。穀物別では、トウモロコシが3.2%増の3.076億t、小麦は4.8%増の2,470万t[表4]。

(IGC-GMR・529/22)

(3) 2021/22年度の小麦粉貿易量(小麦換算)は前年度比微増の1,390万t、2022/23年度は6%増と予想。

イラクは小麦減産で輸入量が220万tに増え、前年度最大の輸入国のアフガニスタンは79万t減の170万tと予想。最大輸出国のトルコは9万t減の444万トン、2位のカザフスタンは28万t減の206万tの輸出に留まる。2022/23年度の貿易量は1,480万tか[表5]。

(IGC-GMR・531/22)

(4) USDAはロシアとウクライナからの小麦輸出量が合計で12%減と予想。

両国は小麦輸出市場で約30%を供給している。3月の世界農業供給・需要推定(WASDE)による予想輸出量は、ウクライナが400万t減の2,000万t、ロシアが300万t減の3,200万t。EU、トルコ、エジプト、アフガニスタン、アルジェリア、ケニア、パキスタン、タンザニア、イエメンが大きな影響を受ける。豊作だったオーストラリアとインドが不足分の一部を補填すると見られる。

(World-Grain.com・3/11/22)

(5) 2022年3月のFAO食料価格指数は大幅高。

黒海沿岸地区の戦争で、全食料価格指数は前月比13%高、前年同月比34%高の159.3に上昇し、小麦は前月比約20%高。世界銀行の報告“War in the Region”によると、戦争によって物価上昇、インフレ、食料不安が起こり、小麦価格は2月の戦争開始以来40%上昇。

(World-Grain.com・4/11, 12/22)

**(6) ウクライナの長期間にわたる穀物損失は北アフリカ諸国に甚大な影響を与える。**

Kiel世界経済研究所（ドイツ）の貿易政策評価モデルによると、ウクライナはアフリカ諸国へ小麦を多く供給していたが、ロシアによる侵攻で、長期間にわたり輸出量が減少する。その結果、長期的に見た各国の小麦輸入減少量は、チュニジアが15%以上、エジプトが17%、南アフリカが7%、エチオピアが9.6%、ケニアが7.9%、ウガンダが7.1%、モロッコが6.2%、モザンビークが6%と予想され、それによる小麦輸入コストの上昇は、ケニアで9%、ウガンダで約8%、チュニジアで5%、モザンビークで4%、エジプトで3%超になるという。

(World-Grain.com・3/11/22)

**(7) ロシアのウクライナ侵攻は世界のベーカリーやその製品に深刻な影響を与える。**

情報会社GlobalData社（イギリス）によると、穀物価格の上昇は中東と北アフリカ諸国に最も大きな影響を与えるが、オーストラリアが豊作なので、中東に供給できる可能性はある。価格上昇は朝食用食品、パンとロール、ピザやペストリーなどへの影響が大きい。運悪くコロナ禍と重なり、輸送にも影響が出ており、各国は長期的に自国での生産増に投資し、代替小麦の供給先と貿易協定を結ぶ動きもあるが、当面の問題の解決には程遠い。

(World-Grain.com・3/15/22)

**(8) ヨーロッパの人々は食べ物の産地、製法、環境との関連、持続性などに関心が高い。**

一部の国ではコロナ禍から通常の状態に戻りつつあるが、過去2年間の影響は今後も続き、購買動向、需要、ベーカリーの生産に影響を与える。Puratos社の「嗜好調査2021」によると、ヨーロッパ人の66%は自分たちの食べ物はどこ

から来て、どう作られているかを知りたがっており、58%は環境に配慮して作られた食べ物を求めている（アメリカでは42%）。約60%が有機を買い、61%が地元産食材で出来た食品を求める。75%が持続性包材で売られている食品を買いたいと思い、60%は廃棄がない食品に関心があり、37%が持続可能な食材で出来ている製品に関心がある。有機や地元産食材及び持続性製品への関心は、環境への配慮からだけでなく、健康利点も考慮している。57%が植物中心の食事が環境にプラスの影響を与え、健康に良いと考えている。植物ベース食品は最大のトレンドであり、製パン業者に挑戦と機会を提供する。植物に力をもらうライフスタイルと共に、供給チェーン全体を通しての透明性が今まで以上に求められる。インスタグラムなどのソーシャルメディアが日常生活に浸透しており、53%がベーカリー製品を外観で判断するようになったという（2018年には45%）。ソーシャルメディアは食味食感にも影響を与え、59%がいつもと違う食味食感を求め、60%が他国の珍しいものを求めている。オンラインによる週単位の買い物が増えたが、55%がパンをオンラインで買いたいとは思わないという。

(EBB・29-6/21)

**(9) Grupo Bimbo社（メキシコ）とCereal Partners Worldwide社（アメリカ）がロシアでの操業を停止。**

ロシアのウクライナ侵攻を受けての措置。前社はモスクワにパン工場を1つ（従業員362人）持ち、売上高は全社の0.5%未満、後社（General Mills社とNestle社の合弁）はシリアルを販売し、General Mills社の総売上高の1%未満。

(MBN・101-2/22)



アメリカ (1) 小麦粉価格 (t当たりバラ貨車渡し) は2021年から上昇傾向で、2022年になってから小麦価格高騰を反映して上昇ペースが加速。

6年前に比べて2倍以上に。ロサンゼルスとニューヨークが高い [表6]。

(MBN, FBN・複数号/16~22)

#### (2) Ardent製粉フロリダ州Tampa工場が稼働。

本誌2019年1月号で、「Tampaの現工場を売却し、臨海地区に新工場を建設」と報じたが、その新工場が完成し、稼働した。場所はTampaに隣接するPort Redwingで、2ライン、日産能力794tのBühler社製機械装置による最新鋭工場。近赤外線分析を採用したりリアルタイムデータ解析や自動高速包装ラインを備え、故障にも短時間で対応可能。1ライン増設可能になっている。旧工場 (658t) は閉鎖し、売却する。

(World-Grain.com・3/22/22)

#### (3) Mennel製粉が持続性努力に傾注。

同社3月3日公表の報告書によると、自然資源の保護、環境破壊の阻止、有意義な社会的活動の促進に焦点を当てるといふ。

(World-Grain.com・3/4/22)

#### (4) ダラスでパン配達サービスを開始。

テキサス州ダラス・フォートワース大都市圏の予約専門の小規模ベーカリーが、焼きたての手作りパン類を配達するビジネスを始めた。女性が社長の少人数の会社で、社名はBreadEx。注文は週単位で受ける。

(MBN・100-26/22)



アルジェリア (1) 小麦製品の輸出を禁止。

3月13日、政府発表。パスタ、セモリナを含む小麦製品が対象。

(IGC-GMR・530/22)

(2) 製粉工場は多いが稼働率は低い。小麦は政府による割当制で、輸入削減の方向。

製粉工場数は政府によると432だが、地元専門家によると、稼働中の工場は390~400だといふ。年間小麦挽砕量は約1,300万tだが、製粉能力はその倍くらいらしい。国の穀物局OAICが各製粉会社の能力に応じて小麦を割り当て、小麦粉価格も管理している。OAICは普通小麦の輸入量を減らす方針で、消費者に廃棄量を減らすよう仕向けながら、パン消費量の低減を誘導しており、今後、消費に影響が出てくると思われる。2021/22年度の小麦生産量は300万t(前年度は380万t)、輸入量は710万t(同770万t)で、輸入への依存度が高い。

(WG・40-3/22)



イタリア 製粉協会が有機の普通及びデュラム小麦の粉とセモリナのアメリカとカナダへの輸出促進に向けたキャンペーンを実施。

3月22~24日にアメリカ・ネバダ州ラスベガスで開催された国際展示会「Bakery @ SIAL America」で、イタリア製粉協会は「ヨーロッパからのきれいな粉——あなたの有機と持続性選択」と銘打ったキャンペーンを実施。欧州委員会も基金の一部を拠出した。製粉協会の会員会社は80社以上だが、当日の展示にはGrassi製粉、Casillo製粉、de Vita製粉の大手3社が代表として参加。今後、このキャンペーンは各種の手法を駆使して、3年間行われる。

(World-Grain.com・3/25/22)



インド ロシアのウクライナ侵攻による状況を考慮して、今年800万tの小麦を輸出か。

黒海沿岸から輸出される小麦の代替品への需要が高まっているので、とりあえず約50万t輸出する。価格はf.o.bで340~350米ドルか。

(World-Grain.com・3/9/22)



ウクライナ (1) 小麦輸出を許可制に。

3月8日、政府発表。トウモロコシとひまわり油も。

(IGC-GMR・530/22)

(2) 国営製粉会社Agrarian Fundが2022年産小麦を50~70%現金前払いで購入契約。

同社は市場シェア13%の最大の製粉会社。製粉用小麦を品質に応じて181~187米ドル/tで購入予定だが、今年度の総購入量は明示していない。穀物業者は本年産小麦の収穫量を前年比45%減の1,820万tと見ている。

(World-Grain.com・4/12/22)



エジプト (1) インドを小麦輸入先として承認。

4月14日、政府発表。ロシアとウクライナからの輸入量減に対応するため。

(IGC-GMR・531/22)

(2) 輸入小麦の水分規格を緩和。

3月1日、政府発表。2023年4月までの期間、水分規格上限を13.0%から13.5%に引上げ。輸入しやすくしたと思われる。

(IGC-GMR・530/22)

(3) 小麦、粉、パスタの輸出を3か月間停止。

主に野菜、パン、穀物の値上がりが影響して、

2022年2月のインフレ率は1年前の4.9%から10%に上昇。小麦は在庫が4か月分あるので、今年中は大丈夫だが、インフレ抑制のための措置だという。

(World-Grain.com・3/11/22)

(4) 補助金付きでないパンを固定価格に。

3月22日、首相発言。当面の3か月間、11.50エジプトポンド/kg(660米ドル/t)に。しかし、価格は月ごとに変更される可能性がある。

(IGC-GMR・531/22)



オーストラリア 2021/22年度産小麦の生産量をさらに上方修正。全国は3,634.7万t、ウエスタン・オーストラリア州も1,280万tに。

農業・水・環境省(ABARES)の2022年3月1日時点の小麦生産情報が公表され、2021年12月時点の予測より大幅に上方修正された。全生産量は前年度比301万t増、12月時点予測値比192.5万t増。特に、ウエスタン・オーストラリア州が史上最高に。一方、東部では豪雨で収穫が遅れ、一部に品質への影響があった[表7]。

(ABARES)



カザフスタン 小麦と小麦粉に一時的な輸出割当を導入。

小麦は100万t、小麦粉は30万tで、6月15日まで。

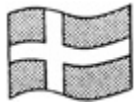
(IGC-GMR・531/22)



サウジアラビア 小麦買上価格を10%引上げ。

3月9日発表。1,700サウジアール(453.14米ドル)/tに。

(IGC-GMR・530/22)



スウェーデン Abdon Food社  
が新製粉工場を建設。

同社は北欧最大の製粉会社だが、Vasterasの新敷地に日産能力が小麦粉275t、ライ麦粉25tの工場を建設する。地元産原料を活用し、製品は国内に供給して、輸送による環境への負荷減を指向する。高レベルの自動化を目指すという。機械設備及び施工はAlapala社。

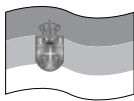
(World-Grain.com・3/29/22)



スーダン Morouj Commodities社  
が工場を建設して製粉業に参入。

同社は2005年創業の総合食品会社だが、日産能力600tの製粉工場を建設して、製粉業に参入する。パスタ及びパン用の小麦粉を製造の予定。建設はOcrim社。

(World-Grain.com・3/10/22)



セルビア 小麦、小麦粉、トウモロコシの輸出量を一時的に制限。

月ごとに、小麦は15万t、小麦粉は2万t、トウモロコシは15万tに制限。

(IGC-GMR・531/22)



セントビンセント・グレナディーン諸島 East Caribbean Group社  
が新製粉工場を建設。

同社は1977年にカナダのMaple Leaf食品とセントビンセント・グレナディーン諸島政府が共同で設立した会社。約3,700万米ドルを投じて、セントビンセント島のCampden Parkに新製粉工場を建設する。新工場が完成すると製粉能力が2倍になる予定で、輸出も視野に入れている。2023年半ばまでに完成見込み。

(World-Grain.com・3/9/22)



中国 (1) 2022年産小麦の生産状況は史上最悪か。

3月5日の政府高官発言によると、昨秋の降雨によって畑の1/3で播種できず、生産量は20%減の見込みだという。

(World-Grain.com・3/7/22)

(2) 製粉工場数は5,000以上。

世界最大のWudeli Flour Groupを筆頭に5,000以上あるというが、統計が発表されていないので詳細は不明。同様に消費量についても統計はなく、小麦粉の用途別の比率は、伝統的に言われているめん用とまんとう用がそれぞれ30~35%、パン、ケーキ、クラッカーなどが20%という数字が今でも通用している。

(WG・40-01/22)



チュニジア 2022/23年度の小麦買上価格を大幅引上げ。

4月6日、政府発表。普通小麦は前年度比49%増の100チュニジアディナール/100kg(337米ドル/t)に、デュラム小麦も同率の130チュニジアディナール/100kg(436米ドル/t)に。

(IGC-GMR・531/22)



ドイツ 2020/21年度に製粉工場は2減、穀物挽砕量も2.6%減。

穀物挽砕量は845万t(普通小麦734万t、ライ麦67万t、デュラム小麦44万tで、うち、輸出粉製造用が29万t)。工場数は年々減って、185に。年間製粉能力20万t以上の工場数は13のままだが、挽砕比率は45.4%から44.6%に低下。製粉能力10~20万tの工場も1減で、挽砕比率が27.5%から27.1%に低下。5~10万tの



工場は2増で、7.5%から9.5%に上昇し、工場大型化の傾向は見られない。普通小麦製品生産量は前年度比2.1%減の596万t。粉タイプ別生産比率はタイプ405が13.0%から13.4%に増え、550/630が66.3%から66.2%に微減した。輸出粉は減少傾向。デュラム小麦製品は長期的に増加傾向で、1.8%増の34.5万t。ライ麦製品は減少傾向が続き、3.8%減の58.8万t[表8~13]。

(bmel, MM・158-22/21)



**トルコ** 第三国から輸入した穀物などの再輸出を一時的に禁止。

USDA情報。第三国から輸入して港の倉庫などに保管されている穀物、油糧種子などが対象。国内市場の安定化と価格上昇抑制のため。

(World-Grain.com・3/17/22)



**ナイジェリア** Nigeria製粉の買収劇による業界構造変化の詳細。

本誌3月号に速報したが、詳細が判明。同社は最大の製粉会社で12州に17工場を持ち、総日産能力9,310t、市場シェア32%。業界5位でシェア10%のHoneywell製粉の株の76.75%を買収して実質的経営権を取得する。他の大手のシェアは2位のOlam社が24%、3位のDangote製粉が19%、4位のCharghoury社が11%で、上位3社が75%、上位5社が96%を占める寡占状態。今回の買収でNigeria製粉が42%に拡大して寡占化がさらに進む。

(WG・39-12/21)



**ハンガリー** (1) 全穀物の輸出を禁止。

3月4日、政府発表。即日実施。

(IGC-GMR・530/22)

(2) 外国資本の支配率が高い製粉業界。

製粉工場数は50、1日の総製粉能力は6,949t、平均稼働率は60%。2018年に普通小麦を117万t、ライ麦を4,877t、デュラム小麦を5.5万t挽砕。原料はほぼ全てが国内産。1人当たり平均消費量は穀粉が82kg、パンは45kg。最大の製粉会社GoodMills Malomipari社(オーストリアが本社のGoodMillsグループの子会社)は4工場で32万t挽砕。国内資本のSzatmári Malom社は4工場、1日の製粉能力が900t、Júlia Malom社(ドイツの会社との合併)は3工場、1日の製粉能力が570万t。パスタ市場リーダーのGyermelyi社の年間製粉能力は70万tを超える。その他に中型の会社が数社あり、製パン部門を持つ製粉会社もある。

(WG・40-2/22)



**フランス** アルジェリアが小麦輸入を停止しているため、在庫過多に。

外交問題がこじれた結果で、中国やモロッコへの輸出で急場をしのいでいる。

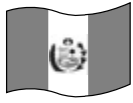
(World-Grain.com・1/24/22)



**ベトナム** 小麦粉の消費量が伸びており、外国資本の大手製粉会社が能力を拡張。

人口1億278万人(2021年7月推定)で米が主食だが、製粉用小麦の消費量が平均年率4.6%(人口増加率を上回る)で増えている。小麦粉加工業界は新しい需要に対応するべく努力しており、製粉業界も品質が良い小麦粉を供給する方向である。29の製粉工場があり、年間総製粉能力は約395万t、稼働率は約53%。最近、外国資本の5工場が合計で年間能力約100万tの設備拡張を行っており、効率が悪い工場には厳しい状況になっている。

(WG・40-04/22)



ペルー (1) デュラム小麦増産へ。

USDAによると、約1.2万tのデュラム小麦を生産し、首都リマの南約1,000kmのArequipaにあるパスタ工場だけに供給されている。パスタの1人当たり消費量は南米で二番目に多い12kgで、リマ首都圏で全体の半分が消費される。小麦粉生産量は小麦換算で年に160万tで、そのうち20%がパスタ製造に使われる。製粉業界は共同で「デュラム小麦生産促進プログラム」を立ち上げた。製粉業界が小麦生産者に種子と技術を提供し、生産されたデュラム小麦の買取を保証するという。

(World-Grain.com・3/24/22)

(2) 製粉業界は4社による寡占状態。

小麦のほとんどをEU、カナダ、アメリカ、及びアルゼンチンからの輸入に依存しており、USDAの推定では、2021/22年度の小麦消費量は前年度比5%増の240万t。小麦粉の年間生産量は160万tと推定され、その63%がパン、20%がパスタ、12%がクッキーとクラッカーの製造に使われる。家庭用は5%で、その70%は伝統的な販路で売られ、スーパーマーケットで売られるのは30%である。最大手製粉会社のAlicorp社のシェアが60%で、大手4社のシェアが約85%。

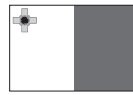
(WG・40-04/22)

(3) Alicorp社が製粉能力を拡張。

多角化経営の同社は製粉7工場を持つが、首都リマ近郊のCallao工場の1日の能力を500t(1ライン、Bühler社製の機械設備による自動化ライン)増設し、1,580tにした。パン、パスタ、及びクッキー用の粉を製造する。同社の総日産

能力は約4,000tになった。

(WG・40-04/22)



マルタ Federated製粉が新工場建設へ。

同社はマルタ共和国(地中海の島国)で唯一の製粉会社。同島のCorradinoに新工場を建設する。2年の建設期間中に現在Marsaにある工場の移転準備をする。

(World-Grain.com・2/21/22)



モルドバ 小麦輸出を禁止。

2月25日、政府発表。3月1日~4月24日の間。

(IGC-GMR・530/22)



ロシア (1) ユーラシア経済連合諸国への穀物の輸出を一時的に禁止したが、16日後に解除。

政府は3月15日から6月30日まで輸出を禁止すると発表した。3月31日に解除した。

(IGC-GMR・531/22)

(2) 友好国にのみ農産物を輸出すると脅迫。

前大統領のMedvedev氏が4月1日、ソーシャルメディアに発言。ロシアのウクライナ侵攻を非難していない中国がロシアからの小麦輸入量を増やすことで合意したという裏事情もある。

(World-Grain.com・4/1/22)

[表1] 世界及び主要小麦輸出国の小麦需給

(百万t)

| 国名<br>( )内は穀物年度  | 期初<br>在庫 | 生産    | 輸入<br>b) | 供給計     | 消費    |      |       |       | 輸出<br>b) | 期末<br>在庫 |
|------------------|----------|-------|----------|---------|-------|------|-------|-------|----------|----------|
|                  |          |       |          |         | 食用    | 工業用  | 飼料用   | 計 a)  |          |          |
| アルゼンチン (12月/11月) |          |       |          |         |       |      |       |       |          |          |
| 2020/21 推定       | 1.7      | 17.6  | 0.0      | 19.3    | 4.9   | 0.1  | 0.1   | 5.7   | 12.2     | 1.5      |
| 2021/22 予測       | 1.5      | 22.1  | 0.0      | 23.6    | 5.2   | 0.1  | 0.3   | 6.3   | 14.5     | 2.7      |
| 2022/23 予想       | 2.7      | 21.2  | 0.0      | 23.9    | 5.3   | 0.1  | 0.3   | 6.5   | 14.5     | 2.9      |
| オーストラリア (10月/9月) |          |       |          |         |       |      |       |       |          |          |
| 2020/21 推定       | 3.0      | 33.3  | 0.4      | 36.7    | 2.4   | 0.5  | 5.1   | 8.7   | 23.8     | 4.2      |
| 2021/22 予測       | 4.2      | 36.3  | 0.3      | 40.9    | 2.4   | 0.5  | 5.7   | 9.5   | 25.0     | 6.4      |
| 2022/23 予想       | 6.4      | 27.8  | 0.4      | 34.6    | 2.4   | 0.5  | 5.0   | 8.7   | 22.5     | 3.4      |
| カナダ (8月/7月)      |          |       |          |         |       |      |       |       |          |          |
| 2020/21 推定       | 5.5      | 35.2  | 0.6      | 41.3    | 2.9   | 1.0  | 4.4   | 9.3   | 26.3     | 5.7      |
| 2021/22 予測       | 5.7      | 21.7  | 0.7      | 28.0    | 2.5   | 1.0  | 4.1   | 8.7   | 15.6     | 3.7      |
| 2022/23 予想       | 3.7      | 31.6  | 0.6      | 35.9    | 2.8   | 1.0  | 4.5   | 9.3   | 21.5     | 5.1      |
| EU(7月/6月) c)     |          |       |          |         |       |      |       |       |          |          |
| 2020/21 推定       | 11.3     | 125.7 | 6.3      | 143.3   | 47.4  | 9.5  | 38.6  | 102.0 | 30.1     | 11.2     |
| 2021/22 予測       | 11.2     | 138.1 | 4.5      | 153.8   | 47.7  | 10.1 | 40.6  | 104.9 | 35.2     | 13.7     |
| 2022/23 予想       | 13.7     | 135.5 | 5.0      | 154.2   | 47.9  | 10.1 | 39.4  | 103.9 | 38.0     | 12.3     |
| カザフスタン (7月/6月)   |          |       |          |         |       |      |       |       |          |          |
| 2020/21 推定       | 0.7      | 14.3  | 0.6      | 15.5    | 2.5   | 0.0  | 1.4   | 6.5   | 8.1      | 1.0      |
| 2021/22 予測       | 1.0      | 11.8  | 1.3      | 14.1    | 2.5   | 0.0  | 1.3   | 6.1   | 7.2      | 0.8      |
| 2022/23 予想       | 0.8      | 13.5  | 0.9      | 15.2    | 2.6   | 0.0  | 1.4   | 6.2   | 8.0      | 0.9      |
| ロシア (7月/6月)      |          |       |          |         |       |      |       |       |          |          |
| 2020/21 推定       | 8.4      | 85.4  | 0.2      | 94.0    | 14.0  | 1.7  | 19.0  | 43.4  | 38.4     | 12.2     |
| 2021/22 予測       | 12.2     | 75.0  | 0.2      | 87.4    | 14.2  | 1.6  | 18.5  | 43.1  | 32.5     | 11.9     |
| 2022/23 予想       | 11.9     | 82.5  | 0.2      | 94.6    | 14.4  | 1.7  | 19.4  | 44.3  | 34.3     | 15.9     |
| ウクライナ (7月/6月)    |          |       |          |         |       |      |       |       |          |          |
| 2020/21 推定       | 1.2      | 25.4  | 0.1      | 26.7    | 5.1   | 0.1  | 1.9   | 8.2   | 16.9     | 1.6      |
| 2021/22 予測       | 1.6      | 33.0  | 0.1      | 34.7    | 5.0   | 0.1  | 2.6   | 8.8   | 19.3     | 6.6      |
| 2022/23 予想       | 6.6      | 19.4  | 0.1      | 26.1    | 5.0   | 0.1  | 2.8   | 8.7   | 11.0     | 6.4      |
| アメリカ (6月/5月)     |          |       |          |         |       |      |       |       |          |          |
| 2020/21 推定       | 28.0     | 49.8  | 2.8      | 80.5    | 26.0  | 0.4  | 2.6   | 30.8  | 26.8     | 23.0     |
| 2021/22 予測       | 23.0     | 44.8  | 3.3      | 71.1    | 26.0  | 0.4  | 2.7   | 30.9  | 21.7     | 18.6     |
| 2022/23 予想       | 18.6     | 49.9  | 3.3      | 71.8    | 26.0  | 0.4  | 2.9   | 31.2  | 22.2     | 18.5     |
| 主要輸出国 計 d)       |          |       |          |         |       |      |       |       |          |          |
| 2020/21 推定       | 59.8     | 386.6 | 10.9     | 457.3   | 105.1 | 13.3 | 73.1  | 214.5 | 182.6    | 60.2     |
| 2021/22 予測       | 60.2     | 382.9 | 10.4     | 453.5   | 105.6 | 13.8 | 75.8  | 218.1 | 171.0    | 64.4     |
| 2022/23 予想       | 64.4     | 381.5 | 10.4     | 456.3   | 106.3 | 13.9 | 75.7  | 218.7 | 172.0    | 65.6     |
| 中国 (7月/6月)       |          |       |          |         |       |      |       |       |          |          |
| 2020/21 推定       | 129.9    | 134.3 | 11.0     | 275.2   | 94.1  | 6.8  | 34.0  | 146.0 | 0.9      | 128.3    |
| 2021/22 予測       | 128.3    | 137.1 | 9.6      | 275.0   | 95.5  | 6.7  | 27.5  | 140.8 | 1.2      | 133.0    |
| 2022/23 予想       | 133.0    | 135.0 | 9.4      | 277.4   | 96.8  | 6.7  | 26.5  | 141.0 | 1.0      | 135.4    |
| インド (4月/3月)      |          |       |          |         |       |      |       |       |          |          |
| 2020/21 推定       | 24.3     | 107.9 | 0.1      | 132.3   | 88.6  | 0.2  | 6.3   | 102.5 | 2.4      | 27.4     |
| 2021/22 予測       | 27.4     | 109.6 | 0.1      | 137.1   | 93.0  | 0.2  | 7.0   | 107.6 | 7.9      | 21.6     |
| 2022/23 予想       | 21.6     | 111.3 | 0.1      | 133.1   | 93.0  | 0.2  | 7.0   | 107.7 | 9.5      | 15.9     |
| 世界計              |          |       |          |         |       |      |       |       |          |          |
| 2020/21 推定       | 275.0    | 774.9 | 190.3    | 1,049.9 | 533.4 | 23.6 | 149.5 | 771.1 | 190.3    | 278.8    |
| 2021/22 予測       | 278.8    | 780.9 | 193.1    | 1,059.7 | 542.2 | 24.3 | 147.4 | 778.1 | 193.1    | 281.6    |
| 2022/23 予想       | 281.6    | 779.9 | 193.1    | 1,061.5 | 548.6 | 24.5 | 146.5 | 784.6 | 193.1    | 276.9    |
| 世界計 (中国を除く)      |          |       |          |         |       |      |       |       |          |          |
| 2020/21 推定       | 145.1    | 640.6 | 179.3    | 786.6   | 439.4 | 16.8 | 115.5 | 625.1 | 189.4    | 150.5    |
| 2021/22 予測       | 150.5    | 643.9 | 183.4    | 795.5   | 446.7 | 17.6 | 119.9 | 637.3 | 191.9    | 148.6    |
| 2022/23 予想       | 148.6    | 644.9 | 183.7    | 794.6   | 451.8 | 17.8 | 120.0 | 643.6 | 192.0    | 141.6    |

a) 種子用および廃棄分を含む、b) 製粉製品の推定輸出入量を含む、c) EUは、2019/20年度が28か国、2020/21年度以降は27か国、d) IGC 7月/6月データ (2022年4月21日現在) (IGC)

[表2] 世界の小麦生産量

(百万t)

| 地区・国名 |         | 19/20   | 20/21 (推定) | 21/22 (予測) | 22/23 (予想) |       |
|-------|---------|---------|------------|------------|------------|-------|
| ヨーロッパ | EU*     | ブルガリア   | 6.1        | 4.7        | 7.1        | 6.3   |
|       |         | チェコ     | 4.8        | 4.9        | 4.9        | 5.1   |
|       |         | デンマーク   | 4.7        | 4.1        | 4.1        | 4.0   |
|       |         | フランス    | 41.1       | 30.4       | 37.0       | 36.0  |
|       |         | ドイツ     | 23.0       | 21.9       | 21.5       | 22.5  |
|       |         | ハンガリー   | 5.3        | 5.1        | 5.3        | 5.3   |
|       |         | ギリシャ    | 1.1        | 1.1        | 0.8        | 1.0   |
|       |         | イタリア    | 6.5        | 6.5        | 6.9        | 6.9   |
|       |         | ポーランド   | 10.8       | 12.6       | 12.0       | 12.0  |
|       |         | ルーマニア   | 9.9        | 6.7        | 11.3       | 9.5   |
|       |         | スロバキア   | 1.9        | 2.1        | 2.0        | 2.1   |
|       |         | スペイン    | 5.8        | 7.8        | 8.2        | 7.3   |
|       |         | スウェーデン  | 3.4        | 3.2        | 3.0        | 3.1   |
|       | その他     | 30.5    | 14.8       | 14.1       | 14.5       |       |
| 計     | 155.0   | 125.7   | 138.1      | 135.5      |            |       |
| セルビア  | 2.5     | 2.9     | 3.3        | 3.0        |            |       |
| イギリス  | 16.3    | 9.7     | 14.0       | 14.6       |            |       |
| その他   | 1.7     | 1.7     | 1.8        | 1.7        |            |       |
| 計     | 159.2   | 139.9   | 157.2      | 154.7      |            |       |
| CIS   | カザフスタン  | 11.5    | 14.3       | 11.8       | 13.5       |       |
|       | ロシア     | 73.6    | 85.4       | 75.0       | 82.5       |       |
|       | ウクライナ   | 29.2    | 25.4       | 33.0       | 19.4       |       |
|       | その他     | 15.6    | 13.9       | 13.6       | 14.2       |       |
| 計     | 129.8   | 138.9   | 133.5      | 129.6      |            |       |
| 北中米   | カナダ     | 32.7    | 35.2       | 21.7       | 31.6       |       |
|       | メキシコ    | 3.2     | 3.0        | 3.3        | 3.0        |       |
|       | アメリカ    | 52.6    | 49.8       | 44.8       | 49.9       |       |
|       | その他     | T       | T          | T          | T          |       |
| 計     | 88.5    | 87.9    | 69.7       | 84.6       |            |       |
| 南米    | アルゼンチン  | 19.8    | 17.6       | 22.1       | 21.2       |       |
|       | ブラジル    | 5.2     | 6.2        | 7.9        | 8.7        |       |
|       | チリ      | 1.3     | 1.4        | 1.4        | 1.5        |       |
|       | ウルグアイ   | 0.8     | 0.9        | 0.9        | 0.8        |       |
|       | その他     | 1.6     | 1.5        | 1.8        | 1.8        |       |
| 計     | 28.6    | 27.6    | 34.0       | 34.0       |            |       |
| 近東アジア | イラン     | 14.5    | 14.5       | 11.5       | 14.5       |       |
|       | イラク     | 4.8     | 5.4        | 3.5        | 3.0        |       |
|       | サウジアラビア | 0.5     | 0.7        | 0.7        | 0.9        |       |
|       | シリア     | 3.1     | 2.8        | 2.8        | 2.4        |       |
|       | トルコ     | 19.0    | 19.5       | 17.6       | 19.3       |       |
|       | その他     | 0.3     | 0.4        | 0.4        | 0.4        |       |
| 計     | 42.3    | 43.3    | 36.5       | 40.4       |            |       |
| 極東アジア | ア太平洋    | 中国      | 133.6      | 134.3      | 137.1      | 135.0 |
|       |         | その他     | 1.7        | 1.6        | 1.5        | 1.6   |
|       |         | 計       | 135.3      | 135.9      | 138.6      | 136.6 |
|       | 南アジア    | アフガニスタン | 4.9        | 5.0        | 4.5        | 4.7   |
|       |         | インド     | 103.6      | 107.9      | 109.6      | 111.3 |
|       |         | パキスタン   | 24.3       | 25.2       | 27.5       | 26.5  |
|       |         | その他     | 3.4        | 3.5        | 3.4        | 3.4   |
| 計     | 136.3   | 141.6   | 145.0      | 145.9      |            |       |
| 計     | 271.5   | 277.5   | 283.6      | 282.5      |            |       |
| アフリカ  | 北アフリカ   | アルジェリア  | 4.0        | 3.8        | 3.0        | 3.6   |
|       |         | エジプト    | 8.8        | 8.9        | 9.0        | 9.8   |
|       |         | リビア     | 0.1        | 0.1        | 0.1        | 0.1   |
|       |         | モロッコ    | 4.0        | 2.9        | 7.5        | 2.3   |
|       |         | チュニジア   | 1.5        | 1.0        | 1.2        | 1.1   |
|       | 計       | 18.3    | 16.8       | 20.9       | 16.9       |       |
|       | 以南      | エチオピア   | 5.3        | 5.1        | 4.8        | 5.1   |
|       |         | 南アフリカ   | 1.5        | 2.1        | 2.3        | 2.0   |
|       |         | その他     | 1.6        | 1.9        | 1.8        | 1.8   |
|       |         | 計       | 8.4        | 9.1        | 8.8        | 8.9   |
| 計     | 26.7    | 25.6    | 29.7       | 25.9       |            |       |
| オセアニア | オーストラリア | 14.5    | 33.3       | 36.3       | 27.8       |       |
|       | 計       | 14.9    | 33.8       | 36.8       | 28.2       |       |
| 世界計   |         | 761.5   | 774.9      | 780.9      | 779.9      |       |

Tは5万t以下、\* EUは、2019/20年度以前が28か国、2020/21年度以降は27か国 (2022年4月21日現在)

(IGC)

[表3] 世界の小麦貿易量

(百万t)

| 輸 入 国 |          | 19/20   | 20/21 (推定) | 21/22 (予測) | 22/23 (予想) |      |
|-------|----------|---------|------------|------------|------------|------|
| ヨーロッパ | アルバニア    | 0.3     | 0.2        | 0.3        | 0.3        |      |
|       | EU*      | 5.0     | 6.0        | 4.2        | 4.6        |      |
|       | ノルウェー    | 0.3     | 0.3        | 0.4        | 0.4        |      |
|       | スイス      | 0.6     | 0.6        | 0.5        | 0.6        |      |
|       | その他      | 1.0     | 2.8        | 2.4        | 2.1        |      |
|       | 計        | 7.1     | 9.9        | 7.7        | 7.9        |      |
| CIS   | アゼルバイジャン | 1.3     | 1.4        | 1.5        | 1.5        |      |
|       | ジョージア    | 0.5     | 0.7        | 0.6        | 0.6        |      |
|       | ロシア      | 0.2     | 0.2        | 0.2        | 0.2        |      |
|       | タジキスタン   | 1.2     | 1.2        | 1.2        | 1.2        |      |
|       | ウズベキスタン  | 2.7     | 3.7        | 3.0        | 3.0        |      |
|       | その他      | 2.3     | 1.4        | 2.6        | 1.7        |      |
|       | 計        | 8.3     | 8.6        | 9.0        | 8.1        |      |
| 北中米   | キューバ     | 0.6     | 0.6        | 0.7        | 0.8        |      |
|       | メキシコ     | 5.2     | 4.7        | 5.2        | 5.2        |      |
|       | アメリカ     | 2.2     | 1.9        | 2.5        | 2.4        |      |
|       | その他      | 3.9     | 3.5        | 3.6        | 3.6        |      |
|       | 計        | 11.9    | 10.8       | 12.0       | 11.9       |      |
| 南 米   | ボリビア     | 0.6     | 0.5        | 0.5        | 0.5        |      |
|       | ブラジル     | 7.3     | 6.3        | 6.8        | 6.5        |      |
|       | チリ       | 1.2     | 1.5        | 1.5        | 1.4        |      |
|       | コロンビア    | 2.1     | 1.9        | 2.0        | 2.1        |      |
|       | エクアドル    | 1.2     | 1.4        | 1.2        | 1.3        |      |
|       | ペルー      | 2.0     | 2.3        | 2.2        | 2.2        |      |
|       | ベネズエラ    | 0.6     | 0.8        | 0.9        | 0.9        |      |
|       | その他      | 0.3     | 0.1        | 0.1        | 0.3        |      |
|       | 計        | 15.3    | 14.8       | 15.2       | 15.2       |      |
| 近東アジア | イラン      | 1.0     | 2.0        | 6.8        | 4.0        |      |
|       | イラク      | 2.0     | 2.0        | 2.5        | 3.8        |      |
|       | イスラエル    | 1.8     | 1.6        | 1.7        | 1.8        |      |
|       | ヨルダン     | 0.9     | 1.2        | 1.2        | 1.3        |      |
|       | クウェート    | 0.5     | 0.4        | 0.5        | 0.5        |      |
|       | レバノン     | 1.0     | 1.2        | 1.0        | 1.2        |      |
|       | サウジアラビア  | 3.6     | 2.8        | 3.5        | 3.1        |      |
|       | シリア      | 0.6     | 0.4        | 0.4        | 0.6        |      |
|       | トルコ      | 12.6    | 8.6        | 9.5        | 9.2        |      |
|       | UAE      | 1.9     | 1.3        | 1.6        | 1.5        |      |
|       | イエメン     | 3.7     | 4.1        | 3.5        | 3.6        |      |
| その他   | 1.3      | 1.1     | 1.2        | 1.2        |            |      |
|       | 計        | 30.9    | 26.6       | 33.3       | 31.7       |      |
| 極東アジア | 太平洋アジア   | 中 国     | 6.6        | 10.8       | 9.5        | 9.2  |
|       |          | インドネシア  | 10.5       | 10.5       | 10.9       | 11.1 |
|       |          | 日 本     | 5.5        | 5.1        | 5.4        | 5.3  |
|       |          | 北朝鮮     | 0.3        | 0.1        | 0.3        | 0.3  |
|       |          | 韓 国     | 3.8        | 3.6        | 4.3        | 4.3  |
|       |          | マレーシア   | 1.6        | 1.6        | 1.7        | 1.8  |
|       |          | フィリピン   | 7.0        | 6.0        | 6.5        | 6.5  |
|       |          | シンガポール  | 0.5        | 0.4        | 0.4        | 0.4  |
|       |          | 台 湾     | 1.2        | 1.4        | 1.4        | 1.4  |
|       |          | タ イ     | 3.6        | 3.1        | 2.9        | 3.1  |
|       | ベトナム     | 3.0     | 3.9        | 3.6        | 3.5        |      |
|       | その他      | 1.0     | 1.0        | 0.8        | 0.9        |      |
|       |          | 計       | 44.7       | 47.6       | 47.6       | 47.6 |
|       | 南アジア     | バングラデシュ | 7.2        | 7.2        | 7.5        | 7.4  |
|       |          | インド     | T          | T          | T          | 0.1  |
| パキスタン |          | T       | 3.5        | 2.5        | 2.1        |      |
| スリランカ |          | 1.1     | 1.5        | 1.5        | 1.4        |      |
| その他   |          | 2.8     | 3.2        | 2.7        | 2.9        |      |
|       | 計        | 11.1    | 15.4       | 14.2       | 13.8       |      |
|       | 計        | 55.8    | 63.0       | 61.7       | 61.4       |      |
| アフリカ  | 北アフリカ    | アルジェリア  | 7.2        | 7.7        | 7.3        | 7.5  |
|       |          | エジプト    | 12.7       | 12.2       | 12.2       | 12.1 |
|       |          | リビア     | 1.2        | 1.4        | 1.3        | 1.3  |
|       |          | モロッコ    | 4.8        | 5.1        | 4.2        | 6.1  |
|       |          | チュニジア   | 1.9        | 1.8        | 1.7        | 2.1  |
|       | 計        | 27.8    | 28.1       | 26.7       | 29.1       |      |

| 輸 入 国                 |                       |          | 19/20 | 20/21 (推定) | 21/22 (予測) | 22/23 (予想) |
|-----------------------|-----------------------|----------|-------|------------|------------|------------|
| ア<br>フ<br>リ<br>カ      | サ<br>ハ<br>ラ<br>以<br>南 | コートジボワール | 0.8   | 0.7        | 0.7        | 0.7        |
|                       |                       | エチオピア    | 1.7   | 1.2        | 1.7        | 1.6        |
|                       |                       | ケニア      | 2.4   | 2.1        | 2.2        | 2.2        |
|                       |                       | ナイジェリア   | 5.3   | 6.6        | 5.7        | 5.9        |
|                       |                       | 南アフリカ    | 2.4   | 2.0        | 1.9        | 2.0        |
|                       |                       | スーダン     | 2.8   | 2.1        | 2.2        | 2.4        |
|                       |                       | その他      | 11.0  | 11.8       | 11.2       | 11.2       |
|                       |                       | 計        | 26.3  | 26.5       | 25.6       | 25.8       |
| 計                     |                       |          | 54.1  | 54.6       | 52.3       | 54.9       |
| オ<br>セ<br>ア<br>ニ<br>ア | ニュージーランド              | 0.5      | 0.5   | 0.5        | 0.5        |            |
|                       | その他                   | 1.4      | 0.8   | 0.7        | 0.9        |            |
|                       | 計                     | 1.9      | 1.2   | 1.2        | 1.4        |            |
| 世 界 計                 |                       |          | 185.5 | 190.3      | 193.1      | 193.1      |

| 輸 出 国   |  | 19/20 | 20/21 (推定) | 21/22 (予測) | 22/23 (予想) |
|---------|--|-------|------------|------------|------------|
| アルゼンチン  |  | 14.8  | 10.1       | 14.6       | 14.5       |
| オーストラリア |  | 10.1  | 19.7       | 24.7       | 23.0       |
| カナダ     |  | 23.0  | 27.6       | 16.0       | 21.5       |
| EU*     |  | 37.1  | 28.1       | 33.4       | 36.0       |
| カザフスタン  |  | 6.7   | 8.1        | 7.2        | 8.0        |
| ロシア     |  | 34.0  | 38.2       | 32.3       | 34.2       |
| ウクライナ   |  | 21.0  | 16.8       | 19.3       | 11.0       |
| アメリカ    |  | 26.2  | 26.5       | 21.5       | 22.0       |
| ブラジル    |  | 0.4   | 0.9        | 3.1        | 2.7        |
| 中 国     |  | 0.4   | 0.1        | 0.3        | 0.2        |
| インド     |  | 0.6   | 3.5        | 8.9        | 9.3        |
| パキスタン   |  | 0.4   | 0.3        | 0.5        | 0.3        |
| メキシコ    |  | 1.2   | 0.6        | 1.1        | 0.7        |
| トルコ     |  | 4.8   | 4.7        | 4.6        | 5.1        |
| その他     |  | 4.8   | 5.0        | 5.7        | 4.7        |
| 世 界 計   |  | 185.5 | 190.3      | 193.1      | 193.1      |

年度は7月～6月、Tは5万t以下、\*EUは、2019/20年度以前が28か国、2020/21年度以降は27か国。数値が[表1]の輸出入値より若干低い場合が多いが、本表では製粉製品を含まないためと考えられるので、そのまま記載した。(2022年4月21日現在)  
(IGC)

[表4] 世界の工業用穀物消費量

(百万t)

|             |                     | 18/19            | 19/20            | 20/21<br>(推定)    | 21/22<br>(予測)    | 21/22年度の<br>前年度比% |
|-------------|---------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-------------------|
| 用<br>途<br>別 | エタノール<br>(うち、バイオ燃料) | 190.3<br>(171.5) | 177.7<br>(158.0) | 181.3<br>(161.5) | 190.5<br>(170.6) | 5.0<br>5.6        |
|             | 澱粉                  | 141.7            | 142.5            | 141.3            | 143.0            | 1.2               |
|             | ビール醸造               | 36.1             | 36.0             | 37.3             | 36.2             | -3.0              |
|             | その他・不詳              | 0.7              | 0.6              | 0.6              | 0.8              | 33.3              |
|             | 世界の工業用穀物消費量 計       |                  | 368.8            | 356.8            | 360.5            | 370.4             |
| 国<br>別      | アメリカ                | 172.3            | 158.4            | 161.6            | 168.0            | 4.0               |
|             | 中 国                 | 93.3             | 95.0             | 93.6             | 93.3             | -0.3              |
|             | EU*                 | 37.3             | 36.5             | 34.2             | 35.4             | 3.7               |
|             | ブラジル                | 9.9              | 11.4             | 12.5             | 13.8             | 10.6              |
|             | カナダ                 | 6.5              | 6.3              | 6.4              | 6.5              | 1.5               |
|             | メキシコ                | 4.9              | 4.9              | 4.8              | 4.8              | -0.8              |
|             | ロシア                 | 4.9              | 4.7              | 5.0              | 4.9              | -1.0              |
|             | 日 本                 | 4.4              | 4.4              | 4.3              | 4.5              | 4.2               |
|             | アルゼンチン              | 3.0              | 3.1              | 3.5              | 3.7              | 5.6               |
| 穀<br>物<br>別 | トウモロコシ              | 304.4            | 293.4            | 298.0            | 307.6            | 3.2               |
|             | 大 麦                 | 30.8             | 30.8             | 31.9             | 30.8             | -3.3              |
|             | 小 麦                 | 24.7             | 24.5             | 23.6             | 24.7             | 4.8               |
|             | モロコシ                | 6.1              | 5.2              | 4.1              | 4.2              | 4.7               |
|             | ライ麦                 | 1.5              | 1.5              | 1.8              | 1.8              | 0.1               |
|             | エン麦                 | 0.1              | 0.1              | 0.1              | 0.1              | 0.0               |
|             | その他・不詳              | 1.2              | 1.3              | 1.1              | 1.1              | 0.0               |

\*EUは2019/20年度迄は28か国、2020/21年度以降は27か国。(2022年2月17日現在)

(IGC)

[表5] 世界の小麦粉貿易量 (デュラム・セモリナを除く)

(小麦換算、千t)

| 地域・国名       |             | 19/20   | 20/21 (推定) | 21/22 (予測) | 22/23 (予想) |       |
|-------------|-------------|---------|------------|------------|------------|-------|
| 輸<br>入<br>国 | ヨーロッパ       | EU*     | 50         | 240        | 200        | 150   |
|             |             | その他     | 306        | 380        | 360        | 360   |
|             |             | 計       | 356        | 620        | 560        | 510   |
|             | CIS         | タジキスタン  | 165        | 118        | 130        | 120   |
|             |             | ウズベキスタン | 504        | 507        | 600        | 600   |
|             |             | その他     | 443        | 305        | 440        | 360   |
|             |             | 計       | 1,112      | 930        | 1,170      | 1,080 |
|             | 北・中<br>アメリカ | カナダ     | 81         | 75         | 80         | 80    |
|             |             | メキシコ    | 292        | 264        | 270        | 250   |
|             |             | アメリカ    | 368        | 370        | 380        | 360   |
|             |             | その他     | 183        | 190        | 150        | 160   |
|             |             | 計       | 924        | 900        | 880        | 850   |
|             | 南アメリカ       | ボリビア    | 480        | 447        | 440        | 450   |
|             |             | ブラジル    | 420        | 355        | 450        | 430   |
|             |             | ベネズエラ   | 267        | 252        | 260        | 250   |
|             |             | その他     | 77         | 66         | 70         | 70    |
|             |             | 計       | 1,245      | 1,120      | 1,220      | 1,200 |
|             | 近東アジア       | イラク     | 1,857      | 1,873      | 2,200      | 2,800 |
|             |             | イスラエル   | 134        | 83         | 100        | 100   |
|             |             | シリア     | 407        | 366        | 300        | 350   |
| イエメン        |             | 693     | 658        | 470        | 650        |       |
| その他         |             | 473     | 380        | 380        | 430        |       |
|             | 計           | 3,565   | 3,360      | 3,450      | 4,330      |       |
| 極東アジア       | アフガニスタン     | 1,683   | 2,490      | 1,700      | 1,800      |       |
|             | 中国          | 331     | 132        | 250        | 300        |       |
|             | 香港          | 263     | 210        | 250        | 250        |       |
|             | インドネシア      | 72      | 71         | 75         | 75         |       |
|             | マレーシア       | 143     | 153        | 120        | 120        |       |
|             | シンガポール      | 252     | 175        | 200        | 200        |       |
|             | タイ          | 232     | 168        | 160        | 170        |       |
|             | その他         | 692     | 351        | 525        | 585        |       |
|             | 計           | 3,667   | 3,750      | 3,280      | 3,500      |       |
| アフリカ        | 北アフリカ       | 47      | 40         | 40         | 50         |       |
|             | サハラ以南       | アンゴラ    | 359        | 250        | 360        | 400   |
|             |             | ベナン     | 135        | 170        | 150        | 143   |
|             |             | ブルキナファソ | 149        | 87         | 85         | 100   |
|             |             | エリトリア   | 276        | 150        | 150        | 200   |
|             |             | ガーナ     | 78         | 107        | 120        | 101   |
|             |             | マダガスカル  | 79         | 150        | 120        | 145   |
|             |             | ソマリア    | 311        | 334        | 320        | 300   |
|             |             | シエラレオネ  | 68         | 84         | 82         | 82    |
|             |             | トーゴ     | 49         | 60         | 60         | 60    |
|             |             | その他     | 975        | 638        | 843        | 689   |
|             | 計           | 2,479   | 2,030      | 2,280      | 2,220      |       |
|             | 計           | 2,527   | 2,070      | 2,310      | 2,270      |       |
| オセアニア       | 141         | 140     | 160        | 130        |            |       |
| その他・不詳      | 1,170       | 810     | 860        | 930        |            |       |
| 世界計         |             | 14,706  | 13,700     | 13,900     | 14,800     |       |
| 輸<br>出<br>国 | アルゼンチン      | 882     | 804        | 870        | 870        |       |
|             | カナダ         | 236     | 240        | 240        | 240        |       |
|             | EU*         | 626     | 603        | 600        | 650        |       |
|             | カザフスタン      | 2,156   | 2,336      | 2,060      | 2,300      |       |
|             | ロシア         | 438     | 285        | 433        | 430        |       |
|             | ウクライナ       | 469     | 178        | 150        | 350        |       |
|             | アメリカ        | 376     | 346        | 330        | 360        |       |
|             | 中国          | 416     | 107        | 150        | 200        |       |
|             | エジプト        | 727     | 615        | 500        | 650        |       |
|             | インド         | 308     | 425        | 750        | 600        |       |
|             | イラン         | 400     | 25         | 50         | 50         |       |
|             | 日本          | 234     | 241        | 230        | 230        |       |
|             | パキスタン       | 200     | 250        | 500        | 300        |       |
|             | スリランカ       | 114     | 96         | 100        | 100        |       |
|             | トルコ         | 4,606   | 4,534      | 4,444      | 4,950      |       |
| アラブ首長国連邦    | 100         | 50      | 50         | 50         |            |       |
| その他         | 2,417       | 2,564   | 2,444      | 2,470      |            |       |

輸入小麦で挽いた粉 (小麦換算) も含む。 \*EUは、2019/20年度以前が28か国、2020/21年度以降は27か国 (2022年4月21日現在)

(IGC)

[表6] アメリカの小麦粉価格

(ばら、f.o.b. car、ドル/t)

| 市場          | 種類                           | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  | 2020  | 2021  | 2022  |       |       |
|-------------|------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|             |                              | 7/15  | 7/14  | 7/13  | 7/19  | 7/17  | 7/16  | 1/14  | 2/11  | 3/18  |
| カンザス<br>シティ | ベーカーズ・ショート・パテント              | 270.1 | 358.2 | 354.9 | 316.4 | 329.6 | 427.7 | 480.6 | 519.2 | 593.0 |
|             | ベーカーズ・スタンダード・パテント            | 267.9 | 356.0 | 352.7 | 314.2 | 327.4 | 425.5 | 478.4 | 517.0 | 590.8 |
|             | セカンド・クリアー                    | 195.1 | 195.1 | 195.1 | 195.1 | 195.1 | 195.1 | 195.1 | 195.1 | 195.1 |
| ミネア<br>ポリス  | スプリング・ショート・パテント              | 285.5 | 444.2 | 340.6 | 310.8 | 299.8 | 503.7 | 514.8 | 550.0 | 568.8 |
|             | スプリング・スタンダード・パテント            | 283.3 | 442.0 | 338.4 | 308.6 | 297.6 | 501.5 | 512.6 | 547.8 | 566.6 |
|             | ハイ・グルテン                      | 349.4 | 508.2 | 404.5 | 330.7 | 319.7 | 523.6 | 534.6 | 569.9 | 588.6 |
|             | ホール・ホイート                     | 283.3 | 442.0 | 338.4 | 308.6 | 297.6 | 501.5 | 512.6 | 547.8 | 566.6 |
|             | スペシャルティ・ホール・ホイート             | 291.0 | 449.7 | 346.1 | 316.4 | 305.3 | 509.3 | 520.3 | 555.6 | 574.3 |
|             | ファンシー・スプリング・クリアー             | 280.0 | 438.7 | 335.1 | 305.3 | 294.3 | 498.2 | 509.3 | 544.5 | 563.3 |
|             | ファースト・スプリング・クリアー<br>ライ(ホワイト) | 277.8 | 436.5 | 332.9 | 303.1 | 292.1 | 496.0 | 507.1 | 542.3 | 561.1 |
| ライ(ホワイト)    | 361.6                        | 320.8 | 318.6 | 480.6 | 437.6 | 371.5 | 379.2 | 381.4 | 528.0 |       |
| シカゴ         | クラッカー                        | 263.4 | 300.9 | 302.0 | 299.8 | 314.2 | 345.0 | 409.0 | 439.8 | 517.0 |
|             | ファンシー・ケーキ                    | 296.5 | 334.0 | 335.1 | 332.9 | 347.2 | 378.1 | 442.0 | 472.9 | 550.0 |
| ニュー<br>ヨーク  | ウインター/スプリング・ブレンド             | 323.0 | 411.2 | 407.8 | 369.3 | 361.6 | 480.6 | 533.5 | 572.1 | 645.9 |
|             | スプリング・スタンダード・パテント            | 330.7 | 496.0 | 392.4 | 360.4 | 353.8 | 560.0 | 558.9 | 590.8 | 612.9 |
|             | ハイ・グルテン                      | 396.8 | 562.2 | 458.6 | 382.5 | 375.9 | 582.0 | 580.9 | 612.9 | 634.9 |
|             | ファンシー・ケーキ                    | 340.6 | 378.1 | 379.2 | 377.0 | 391.3 | 422.2 | 486.1 | 517.0 | 594.1 |
| ロサン<br>ゼルス  | ライ(ホワイト)                     | 416.7 | 375.9 | 373.7 | 535.7 | 492.7 | 426.6 | 434.3 | 436.5 | 585.1 |
|             | ベーカーズ・スタンダード・パテント<br>ベストリー   | 382.5 | 468.5 | 460.8 | 417.8 | 410.1 | 518.1 | 571.0 | 609.6 | 683.4 |
|             |                              | 383.6 | 469.6 | 461.9 | 418.9 | 411.2 | 519.2 | 572.1 | 610.7 | 684.5 |

(MBN, FBN複数号)

[表7] オーストラリア小麦の州別作付面積と生産量

| 州             | 作付面積(千ha) |       |        |        | 生産量(千t) |        |        |        |
|---------------|-----------|-------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|
|               | 18/19     | 19/20 | 20/21  | 21/22  | 18/19   | 19/20  | 20/21  | 21/22  |
| クインズランド       | 420       | 441   | 750    | 829    | 420     | 418    | 1,103  | 1,825  |
| ニューサウス・ウェールズ  | 2,382     | 2,132 | 3,800  | 3,700  | 1,850   | 1,772  | 13,110 | 12,765 |
| ビクトリア         | 1,403     | 1,429 | 1,500  | 1,520  | 2,277   | 3,714  | 4,768  | 4,172  |
| サウス・オーストラリア   | 1,821     | 1,721 | 2,075  | 2,075  | 3,025   | 2,689  | 4,800  | 4,700  |
| ウエスタン・オーストラリア | 4,369     | 4,133 | 4,750  | 4,900  | 9,979   | 5,842  | 9,500  | 12,800 |
| 全オーストラリア      | 10,402    | 9,863 | 12,885 | 13,005 | 17,598  | 14,480 | 33,337 | 36,347 |

2022年3月1日現在。全オーストラリアには、少量だがタスマニアを含む。

(ABARES)

[表8] ドイツの製粉工場数と穀物挽砕量

| 年度          | 90/91   | 95/96 | 00/01 | 06/07 | 10/11 | 15/16 | 17/18 | 18/19 | 19/20 | 20/21 |
|-------------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 工場数*        | 686     | 539   | 361   | 317   | 261   | 212   | 196   | 191   | 187   | 185   |
| 挽砕量<br>(千t) | 普通小麦    | 5,815 | 5,881 | 6,333 |       | 7,144 | 7,644 | 7,545 | 7,550 | 7,340 |
|             | ライ麦     | 1,180 | 1,040 | 936   |       | 857   | 792   | 774   | 694   | 670   |
|             | 計       | 6,995 | 6,921 | 7,268 | 7,561 | 8,000 | 8,437 | 8,530 | 8,280 | 8,244 |
|             | (うち輸出用) |       | 574   | 658   | 582   | 624   | 399   | 419   | 351   | 345   |
| デュラム小麦      | 223     | 293   | 354   | 380   | 444   | 372   | 385   | 389   | 432   | 440   |
| 総穀物         | 7,218   | 7,215 | 7,622 | 7,940 | 8,444 | 8,809 | 8,915 | 8,669 | 8,676 | 8,450 |

\*届け出工場のみ

(Die Struktur der Mühlenwirtschaft 2020/21)

[表9] ドイツの製粉工場の能力別の数と穀物挽砕量

| 年度      | 能力別 (t)  |         |           |           |          |           |       | 合計    |
|---------|----------|---------|-----------|-----------|----------|-----------|-------|-------|
|         | 500~5千未満 | 5千~1万未満 | 1万~2.5万未満 | 2.5万~5万未満 | 5万~10万未満 | 10万~20万未満 | 20万以上 |       |
| 2000/01 | 224      | 37      | 36        | 29        | 12       | 18        | 5     | 361   |
| 2009/10 | 159      | 23      | 26        | 18        | 18       | 15        | 12    | 271   |
| 2011/12 | 140      | 27      | 25        | 16        | 18       | 15        | 11    | 252   |
| 2013/14 | 102      | 28      | 26        | 13        | 16       | 18        | 10    | 213   |
| 2015/16 | 102      | 25      | 25        | 15        | 16       | 17        | 12    | 212   |
| 2017/18 | 88       | 25      | 25        | 14        | 15       | 15        | 14    | 196   |
| 2018/19 | 91       | 20      | 23        | 15        | 13       | 17        | 12    | 191   |
| 2019/20 | 86       | 22      | 21        | 17        | 10       | 17        | 13    | 186   |
| 2020/21 | 87       | 19      | 24        | 14        | 12       | 16        | 13    | 185   |
| 2000/01 | 374      | 255     | 541       | 1,022     | 840      | 2,613     | 1,622 | 7,622 |
| 2009/10 | 302      | 152     | 413       | 573       | 1,202    | 1,996     | 3,278 | 8,315 |
| 2011/12 | 278      | 195     | 389       | 497       | 1,294    | 2,008     | 3,146 | 8,212 |
| 2013/14 | 213      | 203     | 402       | 413       | 1,117    | 2,669     | 3,151 | 8,559 |
| 2015/16 | 218      | 172     | 378       | 531       | 1,137    | 2,424     | 3,576 | 8,809 |
| 2017/18 | 185      | 182     | 390       | 502       | 1,021    | 2,150     | 4,100 | 8,915 |
| 2018/19 | 200      | 152     | 357       | 525       | 857      | 2,507     | 3,682 | 8,669 |
| 2019/20 | 178      | 168     | 335       | 595       | 643      | 2,387     | 3,938 | 8,676 |
| 2020/21 | 180      | 134     | 362       | 467       | 803      | 2,294     | 3,770 | 8,450 |

(穀物とは、普通小麦、ライ麦、デュラム小麦の合計)

(Die Struktur der Mühlenwirtschaft 2020/21)



[表10] ドイツの州別製粉工場数と穀物挽砕量

| 地区    | 州または都市                       | 工場数     |         |         | 穀物挽砕量(千t) |         |         |
|-------|------------------------------|---------|---------|---------|-----------|---------|---------|
|       |                              | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 | 2018/19   | 2019/20 | 2020/21 |
| 旧西ドイツ | バーデン・ヴュルテンベルグ                | 46      | 44      | 45      | 729       | 747     | 716     |
|       | バイエルン                        | 53      | 53      | 52      | 1,329     | 1,322   | 1,330   |
|       | ラインラント・プファルツ                 | 10      | 10      | 10      | 292       | 310     | 300     |
|       | ザールラント                       | 6       | 6       | 6       | 120       | 119     | 106     |
|       | ヘッセン                         | 12      | 11      | 10      | 290       | 251     | 204     |
|       | ノルトライン・ベストファーレン              | 21      | 20      | 20      | 2,060     | 2,093   | 2,031   |
|       | ニーダーザクセン／ブレーメン               | 14      | 18      | 17      | 1,596     | 1,630   | 1,832   |
|       | シュレスビヒ・ホルシュタイン／ハンブルグ         | 4       |         |         | 251       | 246     |         |
|       | 計                            | 166     | 162     | 160     | 6,667     | 6,718   | 6,518   |
| 旧東ドイツ | チューリンゲン／ザクセン・アンハルト           | 11      | 11      | 11      | 1,057     | 1,020   | 1,021   |
|       | ザクセン                         | 11      | 11      | 11      | 277       | 275     | 267     |
|       | メクレンブルグ・ボルホメルン／ブランデンブルグ／ベルリン | 3       | 3       | 3       | 263       | 231     | 204     |
|       | 計                            | 25      | 25      | 25      | 1,597     | 1,526   | 1,492   |
| 合計    |                              | 191     | 187     | 185     | 8,669     | 8,676   | 8,450   |

(穀物とは、普通小麦、ライ麦、デュラム小麦の合計)

(Die Struktur der Mühlenwirtschaft 2020/21)

[表11] ドイツの普通小麦製粉製品のタイプ別生産割合

(%)

| 小麦粉タイプ      | 15/16     | 16/17     | 17/18     | 18/19     | 19/20     | 20/21     |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 405         | 11.1      | 11.4      | 11.0      | 11.8      | 13.0      | 13.4      |
| 550/630     | 66.8      | 65.1      | 66.2      | 66.9      | 66.3      | 66.2      |
| 812         | 3.5       | 3.8       | 3.7       | 3.5       | 3.4       | 3.4       |
| 1050        | 3.6       | 3.7       | 3.4       | 3.1       | 3.0       | 3.1       |
| 1600        | 1.0       | 0.8       | 0.8       | 0.9       | 1.0       | 1.0       |
| 輸出粉         | 5.0       | 5.5       | 5.2       | 4.5       | 4.4       | 4.0       |
| 全粒粉・挽割粉     | 2.0       | 2.2       | 2.2       | 2.1       | 2.3       | 2.0       |
| パン用挽割粉      | 0.1       | 0.1       | 0.1       | 0.1       | 0.1       | —         |
| セモリナ・ファリナ   | 0.7       | 0.7       | 0.7       | 0.7       | 0.7       | 0.7       |
| その他(澱粉用粉など) | 6.2       | 6.7       | 6.7       | 6.4       | 5.8       | 6.2       |
| 計 (t)       | 6,132,734 | 6,231,773 | 6,201,609 | 6,132,136 | 6,090,488 | 5,964,616 |

(Die Struktur der Mühlenwirtschaft 2020/2)

[表12] ドイツのデュラム小麦製粉製品のタイプ別生産割合

(%)

| 製品タイプ     | 15/16   | 16/17   | 17/18   | 18/19   | 19/20   | 20/21   |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| デュラム粉1600 | 2.5     | 2.4     | 2.7     | 2.8     | 3.7     | 3.2     |
| セモリナ      | 66.1    | 67.8    | 61.1    | 58.7    | 61.2    | 66.4    |
| 粗粉        | 31.5    | 29.8    | 36.2    | 38.4    | 35.1    | 30.4    |
| 計 (t)     | 290,673 | 295,003 | 296,068 | 302,472 | 338,424 | 344,552 |

(Die Struktur der Mühlenwirtschaft 2020/21)

[表13] ドイツのライ麦製粉製品のタイプ別生産割合

(%)

| ライ麦粉タイプ    | 15/16   | 16/17   | 17/18   | 18/19   | 19/20   | 20/21   |
|------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 815        | 2.1     | 2.3     | 2.7     | 3.1     | 3.0     | 3.0     |
| 997        | 14.4    | 15.6    | 16.6    | 15.9    | 14.9    | 14.5    |
| 1150       | 47.7    | 46.6    | 45.1    | 45.9    | 46.0    | 46.9    |
| 1370       | 5.5     | 5.4     | 4.8     | 4.8     | 5.6     | 5.3     |
| 1740       | 1.0     | 0.8     | 1.0     | 1.3     | 1.2     | 0.9     |
| 全粒粉・挽割粉    | 21.7    | 22.6    | 23.1    | 23.3    | 23.7    | 24.3    |
| パン用挽割粉1800 | 7.6     | 6.9     | 6.8     | 5.7     | 5.7     | 5.2     |
| 計 (t)      | 705,983 | 688,063 | 678,435 | 639,608 | 611,266 | 588,019 |

(Die Struktur der Mühlenwirtschaft 2020/21)



(単位：トン、金額：千円)

(2月分)

| 年月            | 区分     | レート | うどんおよびそうめん |         |       | その他のめん類 |           |       | 食パン、乾パン類 |            |       | ビスケット   |            |       | ふすま       |    |       |
|---------------|--------|-----|------------|---------|-------|---------|-----------|-------|----------|------------|-------|---------|------------|-------|-----------|----|-------|
|               |        |     | 数量         | 金額      | 前年増減率 | 数量      | 金額        | 前年増減率 | 数量       | 金額         | 前年増減率 | 数量      | 金額         | 前年増減率 | 数量        | 金額 | 前年増減率 |
| 2013          |        | 105 | 253        | 89,774  | -5.3  | 9,633   | 3,082,802 | -18.2 | 17,987   | 8,561,982  | -18.2 | 113,573 | 8,561,982  | 28.8  | 3,177,431 |    |       |
| 2014          |        | 121 | 379        | 141,348 | -3.7  | 7,987   | 2,613,321 | -7.4  | 16,655   | 8,747,826  | -7.4  | 100,799 | 8,747,826  | -11.2 | 2,657,890 |    |       |
| 2015          |        | 109 | 499        | 207,350 | -2.4  | 7,240   | 2,593,509 | -16.5 | 13,899   | 7,862,084  | -16.5 | 72,887  | 7,862,084  | -27.7 | 1,987,766 |    |       |
| 2016          |        | 112 | 266        | 101,288 | -4.3  | 6,119   | 1,998,614 | -9.4  | 18,739   | 8,363,430  | -9.4  | 66,468  | 8,363,430  | -8.8  | 1,481,114 |    |       |
| 2017          |        | 111 | 272        | 110,939 | 7.9   | 5,323   | 2,207,768 | -15.5 | 24,296   | 10,631,548 | -15.5 | 66,017  | 10,631,548 | -0.7  | 1,550,343 |    |       |
| 2018          |        | 109 | 97         | 41,101  | 2.7   | 5,451   | 2,028,010 | -13.0 | 24,853   | 10,682,848 | -13.0 | 67,863  | 10,682,848 | 2.8   | 1,651,729 |    |       |
| 2019          |        | 109 | 87         | 34,792  | 2.2   | 8,040   | 2,635,097 | 47.5  | 25,075   | 10,558,445 | 47.5  | 77,415  | 10,558,445 | 14.1  | 1,989,882 |    |       |
| 2020          |        | 107 | 21         | 8,521   | 12.3  | 7,316   | 4,424,816 | -9.0  | 27,828   | 11,013,909 | -9.0  | 94,350  | 11,013,909 | 21.9  | 2,359,812 |    |       |
| 2021          |        | 109 | 31         | 12,833  | 3.3   | 8,078   | 3,183,426 | -10.4 | 29,844   | 13,508,062 | -10.4 | 85,998  | 13,508,062 | -8.9  | 2,815,010 |    |       |
| 2022年1月       |        | 115 | 0          | 306     | 35.9  | 608     | 266,363   | 48.2  | 2,518    | 1,305,955  | 48.2  | 11,605  | 1,305,955  | 0.0   | 448,491   |    |       |
| 2             |        | 115 | 0          | 0       | -11.0 | 513     | 240,696   | 14.5  | 2,445    | 1,256,160  | 14.5  | 3,174   | 1,256,160  | -71.2 | 115,211   |    |       |
| 3             |        |     |            |         |       |         |           |       |          |            |       |         |            |       |           |    |       |
| 4             |        |     |            |         |       |         |           |       |          |            |       |         |            |       |           |    |       |
| 5             |        |     |            |         |       |         |           |       |          |            |       |         |            |       |           |    |       |
| 6             |        |     |            |         |       |         |           |       |          |            |       |         |            |       |           |    |       |
| 7             |        |     |            |         |       |         |           |       |          |            |       |         |            |       |           |    |       |
| 8             |        |     |            |         |       |         |           |       |          |            |       |         |            |       |           |    |       |
| 9             |        |     |            |         |       |         |           |       |          |            |       |         |            |       |           |    |       |
| 10            |        |     |            |         |       |         |           |       |          |            |       |         |            |       |           |    |       |
| 11            |        |     |            |         |       |         |           |       |          |            |       |         |            |       |           |    |       |
| 12            |        |     |            |         |       |         |           |       |          |            |       |         |            |       |           |    |       |
| 2022年1月～12月累計 |        |     | 0          | 306     | 10.7  | 1,121   | 5,070,559 | 30.6  | 4,963    | 25,561,663 | 30.6  | 14,779  | 25,561,663 | 34.0  | 563,702   |    |       |
| 米             | 国      |     |            |         | 5.4   | 187     | 83,921    | 15.3  | 209      | 351,769    | 15.3  |         | 351,769    |       |           |    |       |
| 英             | 国      |     |            |         | 25    | 9,031   | 51,188    | 61.8  | 143      | 143,843    | 61.8  |         | 143,843    |       |           |    |       |
| 中             | 国      |     | 0          | 0       | 6.3   | 1,45    | 970,786   | 24.4  | 1,069    | 418,573    | 24.4  |         | 418,573    |       |           |    |       |
| 仏             | 国      |     |            |         | 342   | 156,324 |           |       | 97       | 142,564    |       |         | 142,564    |       |           |    |       |
| 香             | 港      |     |            |         | 6     | 1,959   |           |       | 3        | 8,207      |       |         | 8,207      |       |           |    |       |
| イ             | ン      |     |            |         |       |         |           |       | 1,325    | 484,868    |       |         | 484,868    |       |           |    |       |
| ト             | ン      |     |            |         |       |         |           |       | 91       | 27,867     |       |         | 27,867     |       |           |    |       |
| ス             | ラ      |     |            |         | 2     | 703     |           |       | 16       | 234.0      |       |         | 234.0      |       |           |    |       |
| タ             | ン      |     |            |         | 592   | 240,741 |           |       | 113      | 4,653      |       |         | 4,653      |       |           |    |       |
| 韓             | 国      |     |            |         | 169   | 93,578  |           |       | 145      | 42,045     |       |         | 42,045     |       |           |    |       |
| 独             | 国      |     |            |         | 4     | 1,933   |           |       | 47       | 25,541     |       |         | 25,541     |       |           |    |       |
| カ             | ナ      |     |            |         | 4     | 1,933   |           |       | 72       | 35,873     |       |         | 35,873     |       |           |    |       |
| デ             | ン      |     |            |         | 9     | 3,951   |           |       | 49       | 41,293     |       |         | 41,293     |       |           |    |       |
| ラ             | マ      |     |            |         | 3     | 1,138   |           |       | 25       | 1,533.0    |       |         | 1,533.0    |       |           |    |       |
| ス             | ラ      |     |            |         |       |         |           |       | 7        | 23.406     |       |         | 23.406     |       |           |    |       |
| オ             | ス      |     |            |         |       |         |           |       | 56       | 98.5       |       |         | 98.5       |       |           |    |       |
| シ             | ン      |     |            |         |       |         |           |       | 161      | 26.5       |       |         | 26.5       |       |           |    |       |
| ン             | ガ      |     |            |         |       |         |           |       | 4        | 3.727      |       |         | 3.727      |       |           |    |       |
| ン             | ガ      |     |            |         |       |         |           |       | 27       | 5.461      |       |         | 5.461      |       |           |    |       |
| オ             | ス      |     |            |         |       |         |           |       | 4        | -70.3      |       |         | -70.3      |       |           |    |       |
| 台             | 湾      |     | 0          | 306     | -4.9  | 30,509  | 104,143   | -53.0 | 1,579    | 35,220     | -53.0 | 17      | 35,220     |       |           |    |       |
| ベ             | トナム    |     |            |         | 53.6  | 104,143 |           | 4.9   | 22,314   | 107,366    | 4.9   | 292     | 107,366    |       |           |    |       |
| メ             | キシコ    |     |            |         | 71    | 306     |           | 24    | 8,100    | 112,562    |       | 0       | 112,562    |       |           |    |       |
| ニュ            | ージーランド |     |            |         | 315   | 1,666   |           | 28    | 1,666    | 2,075      |       | 3       | 2,075      |       |           |    |       |
| マ             | レーシア   |     |            |         | 7     | 12,492  |           | 24    | 8,100    | 79,851     |       | 131     | 79,851     |       |           |    |       |
| フ             | ィリピン   |     |            |         | 41    | 52.0    |           | 14    | 91.3     | 19,785     |       | 72      | 19,785     |       |           |    |       |
| ペ             | ールギ    |     |            |         |       |         |           | 18    | 93.0     | 168.6      |       | 333     | 168.6      |       |           |    |       |
| ア             | ルゼンチ   |     |            |         | 66    | 24,648  |           | 14    | 6,307    | 19,785     |       | 72      | 19,785     |       |           |    |       |
| ス             | イス     |     |            |         | 235   | 68,461  |           | 18    | 93.0     | 118,685    |       | 333     | 118,685    |       |           |    |       |
| 伊             | 国      |     |            |         |       |         |           | 169   | 133.7    | 85,565     |       | 202     | 85,565     |       |           |    |       |
| 伊             | の      |     |            |         | 2     | 1,344   |           | 169   | 133.7    | 85,565     |       | 202     | 85,565     |       |           |    |       |

(注) 財務省貿易統計(全国)品別国別表>輸入>月次)による。(2020年3月より年月表記を財務省貿易統計データに順じて西暦記載)



(単位：トン、金額：千円)

(3月分)

| 区分<br>年月      | レート | うどんおよびそうめん |         |        | その他のめん類 |           |        | 食パン、乾パン類 |           |         | ビスケット  |            |         | ふすま        |        |           |  |
|---------------|-----|------------|---------|--------|---------|-----------|--------|----------|-----------|---------|--------|------------|---------|------------|--------|-----------|--|
|               |     | 数量         | 金額      | 前年増減率  | 数量      | 金額        | 前年増減率  | 数量       | 金額        | 前年増減率   | 数量     | 金額         | 前年増減率   | 数量         | 金額     | 前年増減率     |  |
| 2013          | 105 | 253        | 89,774  | 15.1   | 22,901  | 6,906,566 | -5.3   | 9,633    | 3,082,802 | -1.9    | 17,987 | 8,561,982  | 113,573 | 8,561,982  | 28.8   | 3,177,431 |  |
| 2014          | 121 | 379        | 141,348 | 49.9   | 22,055  | 7,283,791 | -3.7   | 7,987    | 2,613,321 | -17.1   | 16,655 | 8,747,826  | 100,799 | 8,747,826  | -11.2  | 2,657,890 |  |
| 2015          | 109 | 499        | 207,350 | 31.8   | 21,525  | 7,754,875 | -2.4   | 7,240    | 2,593,509 | -9.4    | 13,899 | 7,862,084  | 72,887  | 7,862,084  | -27.7  | 1,987,766 |  |
| 2016          | 112 | 266        | 101,288 | -46.8  | 20,606  | 6,593,003 | -4.3   | 6,119    | 1,998,614 | -15.5   | 18,739 | 8,363,430  | 66,468  | 8,363,430  | -8.8   | 1,481,114 |  |
| 2017          | 111 | 272        | 110,939 | 2.4    | 22,243  | 7,207,768 | 7.9    | 5,323    | 1,904,311 | -1.30   | 24,296 | 10,631,548 | 66,017  | 10,631,548 | -0.7   | 1,550,343 |  |
| 2018          | 109 | 97         | 41,101  | -64.4  | 22,843  | 7,580,983 | 2.7    | 5,451    | 2,028,010 | 2.4     | 24,853 | 10,682,848 | 67,863  | 10,682,848 | 2.8    | 1,651,729 |  |
| 2019          | 109 | 87         | 34,792  | -10.3  | 23,350  | 7,526,310 | 2.2    | 8,040    | 2,635,097 | 47.5    | 25,075 | 10,558,445 | 77,415  | 10,558,445 | 14.1   | 1,989,882 |  |
| 2020          | 107 | 21         | 8,521   | -75.4  | 26,232  | 8,424,816 | 12.3   | 7,316    | 2,498,852 | -9.0    | 27,828 | 11,013,909 | 94,350  | 11,013,909 | 21.9   | 2,359,812 |  |
| 2021          | 109 | 31         | 12,833  | 43.9   | 27,085  | 9,110,758 | 3.3    | 8,078    | 3,183,426 | -0.4    | 29,844 | 13,508,062 | 85,998  | 13,508,062 | -8.9   | 2,815,010 |  |
| 2022年1月       | 115 | 0          | 306     | 0.0    | 2,297   | 885,779   | 35.9   | 608      | 266,363   | 48.2    | 2,518  | 1,305,955  | 11,605  | 1,305,955  | 0.0    | 448,491   |  |
| 2             | 115 | 0          | 0       | -100.0 | 1,823   | 676,146   | -11.0  | 513      | 240,696   | 14.5    | 2,445  | 1,256,160  | 3,174   | 1,256,160  | 8.1    | 115,211   |  |
| 3             | 116 | 1          | 323     | 0.0    | 2,237   | 829,392   | 1.0    | 800      | 351,730   | 45.3    | 2,697  | 1,537,211  | 6,546   | 1,537,211  | -21.9  | 242,198   |  |
| 4             |     |            |         |        |         |           |        |          |           |         |        |            |         |            |        |           |  |
| 5             |     |            |         |        |         |           |        |          |           |         |        |            |         |            |        |           |  |
| 6             |     |            |         |        |         |           |        |          |           |         |        |            |         |            |        |           |  |
| 7             |     |            |         |        |         |           |        |          |           |         |        |            |         |            |        |           |  |
| 8             |     |            |         |        |         |           |        |          |           |         |        |            |         |            |        |           |  |
| 9             |     |            |         |        |         |           |        |          |           |         |        |            |         |            |        |           |  |
| 10            |     |            |         |        |         |           |        |          |           |         |        |            |         |            |        |           |  |
| 11            |     |            |         |        |         |           |        |          |           |         |        |            |         |            |        |           |  |
| 12            |     |            |         |        |         |           |        |          |           |         |        |            |         |            |        |           |  |
| 2022年1月～12月累計 |     | 1          | 629     | -90.0  | 6,457   | 2,391,317 | 7.1    | 1,921    | 858,789   | 36.4    | 7,660  | 4,099,326  | 21,325  | 4,099,326  | 12.8   | 805,900   |  |
| 米             | 国   |            |         |        | 24      | 5,899     | -11.4  | 361      | 168,547   | 12.0    | 383    | 663,916    | 0       | 663,916    | 160.8  | 0         |  |
| 英             | 国   |            |         |        | 0       | 0         | -100.0 | 27       | 13,442    | 3,080.1 | 245    | 246,458    |         | 246,458    | 38.9   |           |  |
| 中             | 国   |            |         |        | 4,105   | 1,497,354 | 7.0    | 210      | 73,474    | 64.5    | 1,752  | 736,863    |         | 736,863    | 16.2   |           |  |
| 仏             | 国   |            |         |        |         |           |        | 685      | 290,628   | 60.7    | 124    | 177,086    |         | 177,086    | 7.7    |           |  |
| 香             | 港   |            |         |        | 6       | 1,959     | -56.0  |          |           |         | 2,003  | 8,207      |         | 8,207      | 85.6   |           |  |
| イ             | ン   |            |         |        |         |           |        |          |           |         | 3      | 745,838    |         | 745,838    | 14.5   |           |  |
| ト             | ン   |            |         |        |         |           |        |          |           |         | 91     | 2,825      |         | 2,825      | 72.4   |           |  |
| ス             | ラ   |            |         |        | 6       | 2,775     | 90.7   | 1        |           |         | 17     | 4,922      |         | 4,922      | 17     |           |  |
| タ             | イ   |            |         |        | 1,054   | 422,500   | -1.3   | 26       | 14,109    | 0.0     | 217    | 123,108    |         | 123,108    | 30.5   |           |  |
| 独             | 国   |            |         |        | 230     | 126,818   | 41.6   | 21       | 24,364    | -66.0   | 205    | 59,898     |         | 59,898     | -2.2   |           |  |
| カ             | ナ   |            |         |        | 4       | 1,933     | 20.0   | 93       | 36,925    | -25.2   | 82     | 44,664     |         | 44,664     | 201.4  |           |  |
| テ             | ン   |            |         |        |         |           |        | 10       | 3,782     | -28.9   | 88     | 44,313     |         | 44,313     | -24.8  |           |  |
| ス             | ラ   |            |         |        | 3       | 1,138     | -50.9  | 9        | 3,951     | 23.5    | 62     | 52,919     |         | 52,919     | -0.9   |           |  |
| オ             | ス   |            |         |        |         |           |        | 1        | 893       | -22.5   | 25     | 6,316      |         | 6,316      | 1533.0 |           |  |
| シ             | ン   |            |         |        | 8       | 2,224     |        |          |           |         | 7      | 23,834     |         | 23,834     | 19.1   |           |  |
| ン             | ガ   |            |         |        |         |           |        |          |           |         | 70     | 39,584     |         | 39,584     | 103.9  |           |  |
| ン             | ガ   |            |         |        |         |           |        |          |           |         | 227    | 216,000    |         | 216,000    | 24.3   |           |  |
| ス             | ト   |            |         |        |         |           |        |          |           |         | 6      | 6,497      |         | 6,497      | -58.2  |           |  |
| 台             | 湾   |            |         |        | 306     | 306       | -18.6  | 55       | 12,024    | 101.7   | 6      | 68,288     |         | 68,288     | 21.3   |           |  |
| ベ             | トナム |            |         |        |         |           |        |          |           |         | 39     | 157,917    |         | 157,917    | 5.4    |           |  |
| ネ             | ー   |            |         |        |         |           |        |          |           |         | 471    | 168,641    |         | 168,641    | -5.4   |           |  |
| ユ             | ー   |            |         |        |         |           |        |          |           |         | 5      | 4,861      |         | 4,861      | 248.2  |           |  |
| マ             | レー  |            |         |        | 50      | 8,211     | 40.2   | 36       | 11,844    | -27.2   | 488    | 193,345    |         | 193,345    | -23.4  |           |  |
| ア             | リ   |            |         |        |         |           |        |          |           |         | 19     | 10,393     |         | 10,393     | -15.1  |           |  |
| ベ             | ル   |            |         |        | 41      | 12,492    | -24.5  |          |           |         | 197    | 117,060    |         | 117,060    | -32.4  |           |  |
| ス             | テン  |            |         |        |         |           |        |          |           |         |        |            |         |            |        |           |  |
| ス             | ベ   |            |         |        | 95      | 35,326    | -32.7  | 18       | 7,721     | 72.6    | 154    | 39,427     |         | 39,427     | 45.4   |           |  |
| 伊             | 国   |            |         |        | 281     | 78,612    | -32.7  | 18       | 10,252    | 52.2    | 409    | 155,332    |         | 155,332    | 74.0   |           |  |
| 伊             | 他   |            |         |        | 2       | 1,670     | -64.5  | 276      | 155,232   | 153.0   | 269    | 113,689    |         | 113,689    | -10.8  |           |  |

(注) 財務省貿易統計(全国分)品別国別表(輸入)月次による。(2020年3月より年月表記を財務省貿易統計データに順じて西暦記載)

製粉工場における玄麦および小麦粉の月別需給動向（令和3年度）

（単位：千トン、前年比%）

| 年 月    | 玄     |       |       |       | 麦     |       |       |       | 小     |       |      |       | 粉     |       |       |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 買入数量  | 対前年比  | 加工量   | 対前年比  | 月末在庫  | 対前年比  | 生産量   | 対前年比  | 販売量   | 対前年比  | 月末在庫 | 対前年比  | 生産量   | 対前年比  | 販売量   | 対前年比  |
| 平成26年度 | 6,210 | 113.9 | 5,928 | 99.8  | 1,362 | 126.4 | 4,683 | 99.8  | 4,675 | 99.5  | 310  | 102.4 | 4,683 | 99.8  | 4,675 | 99.5  |
| 平成27年度 | 5,838 | 94.0  | 5,959 | 100.5 | 1,242 | 91.2  | 4,702 | 100.4 | 4,698 | 100.5 | 314  | 101.4 | 4,702 | 100.4 | 4,698 | 100.5 |
| 平成28年度 | 5,947 | 101.9 | 5,943 | 99.7  | 1,246 | 100.3 | 4,683 | 99.6  | 4,682 | 99.7  | 315  | 100.3 | 4,683 | 99.6  | 4,682 | 99.7  |
| 平成29年度 | 6,157 | 103.5 | 5,950 | 100.1 | 1,452 | 116.5 | 4,703 | 100.4 | 4,711 | 100.6 | 307  | 97.4  | 4,703 | 100.4 | 4,711 | 100.6 |
| 平成30年度 | 5,773 | 93.8  | 5,864 | 98.5  | 1,361 | 93.7  | 4,672 | 99.3  | 4,672 | 99.2  | 307  | 100.1 | 4,672 | 99.3  | 4,672 | 99.2  |
| 令和元年度  | 5,732 | 99.3  | 5,840 | 99.6  | 1,253 | 92.1  | 4,623 | 99.0  | 4,626 | 99.0  | 304  | 99.1  | 4,623 | 99.0  | 4,626 | 99.0  |
| 令和2年度  | 5,745 | 100.2 | 5,681 | 97.3  | 1,317 | 105.1 | 4,482 | 96.6  | 4,491 | 97.1  | 294  | 96.9  | 4,482 | 96.6  | 4,491 | 97.1  |
| 2.4    | 416   | 123.8 | 519   | 102.4 | 1,151 | 96.7  | 410   | 101.2 | 403   | 96.7  | 312  | 105.4 | 410   | 101.2 | 403   | 96.7  |
| 5      | 457   | 132.7 | 446   | 93.8  | 1,162 | 109.7 | 354   | 94.1  | 354   | 95.1  | 312  | 103.9 | 354   | 94.1  | 354   | 95.1  |
| 6      | 534   | 89.7  | 464   | 98.8  | 1,232 | 104.0 | 365   | 98.6  | 383   | 105.4 | 294  | 95.7  | 365   | 98.6  | 383   | 105.4 |
| 7      | 322   | 86.2  | 480   | 101.3 | 1,074 | 99.0  | 376   | 100.9 | 378   | 95.9  | 293  | 102.2 | 376   | 100.9 | 378   | 95.9  |
| 8      | 610   | 104.4 | 453   | 96.2  | 1,231 | 102.7 | 354   | 95.3  | 349   | 94.0  | 297  | 103.8 | 354   | 95.3  | 349   | 94.0  |
| 9      | 601   | 115.2 | 477   | 97.8  | 1,355 | 110.0 | 373   | 97.3  | 375   | 98.6  | 295  | 102.1 | 373   | 97.3  | 375   | 98.6  |
| 10     | 457   | 116.0 | 488   | 96.7  | 1,324 | 118.1 | 383   | 95.9  | 386   | 97.6  | 292  | 99.6  | 383   | 95.9  | 386   | 97.6  |
| 11     | 436   | 74.9  | 483   | 93.4  | 1,276 | 107.6 | 380   | 93.6  | 375   | 93.8  | 298  | 99.2  | 380   | 93.6  | 375   | 93.8  |
| 12     | 412   | 87.4  | 522   | 100.5 | 1,167 | 102.5 | 412   | 99.5  | 407   | 99.2  | 303  | 99.7  | 412   | 99.5  | 407   | 99.2  |
| 3.1    | 425   | 101.9 | 430   | 96.6  | 1,162 | 104.7 | 343   | 97.5  | 341   | 96.1  | 305  | 101.5 | 343   | 97.5  | 341   | 96.1  |
| 2      | 419   | 98.7  | 428   | 93.5  | 1,152 | 107.1 | 337   | 93.0  | 342   | 94.4  | 300  | 99.7  | 337   | 93.0  | 342   | 94.4  |
| 3      | 655   | 95.2  | 491   | 96.0  | 1,317 | 105.1 | 394   | 96.1  | 399   | 98.2  | 294  | 96.9  | 394   | 96.1  | 399   | 98.2  |
| 3.4    | 475   | 114.1 | 510   | 98.3  | 1,283 | 111.5 | 406   | 98.9  | 402   | 99.9  | 298  | 95.6  | 406   | 98.9  | 402   | 99.9  |
| 5      | 352   | 77.0  | 449   | 100.6 | 1,186 | 102.1 | 353   | 99.7  | 348   | 98.4  | 303  | 97.1  | 353   | 99.7  | 348   | 98.4  |
| 6      | 472   | 88.5  | 462   | 99.6  | 1,196 | 97.1  | 362   | 99.0  | 380   | 99.3  | 284  | 96.6  | 362   | 99.0  | 380   | 99.3  |
| 7      | 362   | 112.2 | 463   | 96.5  | 1,095 | 101.9 | 364   | 96.7  | 367   | 97.1  | 281  | 96.1  | 364   | 96.7  | 367   | 97.1  |
| 8      | 497   | 81.5  | 446   | 98.3  | 1,146 | 93.1  | 350   | 99.0  | 345   | 99.0  | 286  | 96.2  | 350   | 99.0  | 345   | 99.0  |
| 9      | 840   | 139.8 | 463   | 97.1  | 1,523 | 112.4 | 365   | 97.9  | 366   | 97.8  | 285  | 96.3  | 365   | 97.9  | 366   | 97.8  |
| 10     | 497   | 108.8 | 486   | 99.7  | 1,534 | 115.9 | 381   | 99.6  | 379   | 98.3  | 286  | 98.0  | 381   | 99.6  | 379   | 98.3  |
| 11     | 372   | 85.4  | 505   | 104.5 | 1,402 | 109.8 | 398   | 104.6 | 397   | 105.9 | 287  | 96.5  | 398   | 104.6 | 397   | 105.9 |
| 12     | 360   | 87.3  | 533   | 102.0 | 1,229 | 105.3 | 419   | 101.8 | 428   | 105.2 | 278  | 92.0  | 419   | 101.8 | 428   | 105.2 |
| 4.1    | 254   | 59.8  | 428   | 99.4  | 1,056 | 90.9  | 337   | 98.3  | 325   | 95.3  | 290  | 95.3  | 337   | 98.3  | 325   | 95.3  |
| 2      | 487   | 116.3 | 416   | 97.3  | 1,127 | 97.7  | 331   | 98.2  | 333   | 97.3  | 288  | 96.3  | 331   | 98.2  | 333   | 97.3  |
| 3      | 791   | 120.7 | 496   | 101.0 | 1,422 | 107.9 | 396   | 100.4 | 401   | 100.4 | 283  | 96.2  | 396   | 100.4 | 401   | 100.4 |
| 年度計    | 5,760 | 100.3 | 5,656 | 99.6  | 1,422 | 107.9 | 4,461 | 99.5  | 4,473 | 99.6  | 283  | 96.2  | 4,461 | 99.5  | 4,473 | 99.6  |

(注) 1. 玄麦の買入・加工数量にはSBSでの買入分(19年度から)、大臣証明制度による輸出見返り分、納付金輸入分、民間流通麦及びその他国内産麦を含み、小麦粉の生産・販売量は、輸出分を除いた数量である。  
 2. 「製粉・精麦工場需給実績報告」(農産局農産政策部貿易業務課)による。  
 3. 四捨五入の関係で内訳と計が一致しないことがある。

小麦加工食品の輸出の推移 (2022年2・3月分)

(単位：トン、金額：千円)

| 区<br>分<br>年<br>月 | 小麦粉・小麦 (ひき割、ミール、ベレット) |       |            | 小麦粉調製品 (ケーキ・ミックスを含む) |       |           | マカロニおよびスパゲッティ |       |         | うどんおよびそうめん |       |           |
|------------------|-----------------------|-------|------------|----------------------|-------|-----------|---------------|-------|---------|------------|-------|-----------|
|                  | 数量                    | 前年増減率 | 金額         | 数量                   | 前年増減率 | 金額        | 数量            | 前年増減率 | 金額      | 数量         | 前年増減率 | 金額        |
| 2014             | 166,311               | -1.1  | 7,446,467  | 2,273                | 7.4   | 1,059,270 | 571           | -0.4  | 129,060 | 10,992     | 5.5   | 3,172,667 |
| 2015             | 157,938               | -5.0  | 7,855,434  | 2,374                | 4.4   | 1,063,480 | 553           | -3.2  | 140,319 | 12,791     | 16.4  | 3,806,919 |
| 2016             | 158,861               | 0.6   | 6,860,588  | 2,551                | 7.5   | 1,073,376 | 549           | -0.6  | 131,138 | 13,504     | 5.6   | 4,077,925 |
| 2017             | 167,600               | 5.5   | 7,233,288  | 2,562                | 0.4   | 1,198,531 | 532           | -3.2  | 131,089 | 13,759     | 1.9   | 4,218,943 |
| 2018             | 163,640               | -2.4  | 7,427,758  | 2,582                | 1.2   | 1,291,073 | 535           | 0.6   | 136,263 | 14,064     | 2.2   | 4,266,026 |
| 2019             | 168,326               | 2.9   | 8,270,910  | 2,884                | 11.3  | 1,323,207 | 533           | -0.4  | 154,401 | 13,731     | -2.4  | 4,363,678 |
| 2020             | 167,373               | -0.6  | 8,337,883  | 2,555                | -11.4 | 1,142,142 | 574           | 7.8   | 164,995 | 12,830     | -6.6  | 4,452,036 |
| 2021             | 174,690               | 4.4   | 10,047,728 | 3,506                | 37.2  | 1,459,281 | 692           | 20.5  | 180,325 | 12,270     | -4.4  | 4,109,451 |
| 2022年1月          | 11,214                | -19.8 | 680,655    | 272                  | 0.5   | 110,480   | 42            | 39.0  | 9,651   | 663        | -19.3 | 202,979   |
| 2                | 14,484                | -2.8  | 974,292    | 230                  | -15.7 | 1,112,355 | 101           | 111.5 | 23,202  | 781        | -17.0 | 271,720   |
| 3                | 15,191                | -2.5  | 969,225    | 303                  | 8.4   | 1,119,199 | 70            | 71.3  | 18,573  | 1,206      | 15.3  | 384,718   |
| 4                |                       |       |            |                      |       |           |               |       |         |            |       |           |
| 5                |                       |       |            |                      |       |           |               |       |         |            |       |           |
| 6                |                       |       |            |                      |       |           |               |       |         |            |       |           |
| 7                |                       |       |            |                      |       |           |               |       |         |            |       |           |
| 8                |                       |       |            |                      |       |           |               |       |         |            |       |           |
| 9                |                       |       |            |                      |       |           |               |       |         |            |       |           |
| 10               |                       |       |            |                      |       |           |               |       |         |            |       |           |
| 11               |                       |       |            |                      |       |           |               |       |         |            |       |           |
| 12               |                       |       |            |                      |       |           |               |       |         |            |       |           |
| 2022年1~12月計      | 40,889                | -8.0  | 2,624,172  | 804                  | -2.2  | 340,914   | 213           | 79.2  | 51,426  | 2,650      | -5.6  | 859,417   |

| 区<br>分<br>年<br>月 | ビスケット (スイート) |       |           | その他のベーカリー製品等 |       |            | インスタントラーメン |       |           |
|------------------|--------------|-------|-----------|--------------|-------|------------|------------|-------|-----------|
|                  | 数量           | 前年増減率 | 金額        | 数量           | 前年増減率 | 金額         | 数量         | 前年増減率 | 金額        |
| 2014             | 861          | 12.0  | 1,072,471 | 21,221       | 22.1  | 21,627,809 | 7,075      | -6.6  | 3,537,267 |
| 2015             | 1,249        | 45.0  | 1,701,696 | 25,482       | 20.0  | 28,390,941 | 7,892      | 11.5  | 4,276,613 |
| 2016             | 1,293        | 3.5   | 1,603,932 | 26,529       | 4.2   | 30,448,086 | 8,701      | 10.3  | 5,144,905 |
| 2017             | 778          | -39.8 | 1,079,211 | 25,557       | -3.7  | 29,838,397 | 9,235      | 6.1   | 5,837,269 |
| 2018             | 894          | 14.8  | 1,267,973 | 26,413       | 3.4   | 31,079,009 | 9,884      | 7.0   | 6,258,420 |
| 2019             | 876          | -1.9  | 1,049,931 | 25,805       | -2.3  | 30,576,732 | 9,078      | -8.1  | 6,002,485 |
| 2020             | 881          | 0.5   | 1,068,887 | 26,096       | 1.1   | 30,774,145 | 12,106     | 33.4  | 8,556,592 |
| 2021             | 1,051        | 19.3  | 1,568,196 | 31,896       | 39.9  | 39,935,339 | 12,041     | -0.5  | 9,262,722 |
| 2022年1月          | 55           | -7.8  | 161,476   | 1,734        | -14.2 | 2,270,214  | 662        | -5.4  | 506,700   |
| 2                | 66           | 14.4  | 96,768    | 2,467        | 14.6  | 3,046,085  | 898        | -4.3  | 654,169   |
| 3                | 62           | -0.2  | 107,619   | 2,908        | 9.5   | 3,491,875  | 1,451      | 34.9  | 1,058,969 |
| 4                |              |       |           |              |       |            |            |       |           |
| 5                |              |       |           |              |       |            |            |       |           |
| 6                |              |       |           |              |       |            |            |       |           |
| 7                |              |       |           |              |       |            |            |       |           |
| 8                |              |       |           |              |       |            |            |       |           |
| 9                |              |       |           |              |       |            |            |       |           |
| 10               |              |       |           |              |       |            |            |       |           |
| 11               |              |       |           |              |       |            |            |       |           |
| 12               |              |       |           |              |       |            |            |       |           |
| 2022年1~12月計      | 184          | 1.9   | 365,863   | 7,110        | 4.1   | 8,808,174  | 3,010      | 11.0  | 2,219,838 |

(注) ①財務省貿易統計 (全国分>品別国別表>輸出>月次)による (2020年3月号より年月表記を財務省貿易統計データに順じて西暦記載)。  
 ②その他のベーカリー製品等は、スイートビスケットおよび米菓を除く焼菓子類並びにライスバー等をいう。



国際価格の推移 (2022年4月・5月分)

(単位：トン当たりドル、( )内はブッシェル当たりドル)

| 品名                           | 年    | 1月     | 2月     | 3月     | 4月     | 5月     | 6月     | 7月     | 8月     | 9月     | 10月    | 11月    | 12月    |
|------------------------------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 小麦                           | 2014 | (5.68) | (5.99) | (6.90) | (7.02) | (6.78) | (5.86) | (5.38) | (5.51) | (5.01) | (5.06) | (5.61) | (6.19) |
|                              | 2015 | (5.33) | (5.33) | (5.09) | (4.91) | (5.02) | (4.89) | (5.84) | (5.01) | (4.86) | (5.03) | (4.96) | (4.94) |
| (シカゴ・SRW小麦No.2, 期近もの)        | 2016 | (4.69) | (4.64) | (4.77) | (4.60) | (4.75) | (4.78) | (4.22) | (4.22) | (3.77) | (4.21) | (3.99) | (4.09) |
|                              | 2017 | (4.26) | (4.55) | (4.12) | (4.30) | (4.23) | (4.54) | (4.95) | (4.30) | (4.21) | (4.40) | (4.28) | (4.18) |
|                              | 2018 | (4.17) | (4.62) | (4.79) | (4.73) | (4.94) | (5.00) | (4.82) | (5.32) | (4.80) | (5.25) | (5.08) | (5.28) |
|                              | 2019 | (5.11) | (5.04) | (4.48) | (4.60) | (4.49) | (5.39) | (5.08) | (4.69) | (4.89) | (5.07) | (5.17) | (5.39) |
|                              | 2020 | (5.73) | (5.43) | (5.12) | (5.40) | (5.02) | (5.05) | (5.51) | (5.00) | (5.38) | (6.18) | (5.98) | (6.00) |
|                              | 2021 | (6.75) | (6.58) | (6.45) | (6.54) | (6.84) | (6.61) | (6.72) | (7.61) | (7.13) | (7.34) | (8.27) | (7.56) |
|                              | 2022 | (7.42) | (7.80) | (11.5) | (11.0) | (12.5) |        |        |        |        |        |        |        |
|                              | 2014 | (4.26) | (4.45) | (4.72) | (5.04) | (4.84) | (4.47) | (3.74) | (3.66) | (3.43) | (3.48) | (3.82) | (4.09) |
| (シカゴ・イエロー・<br>コーンNo.2, 期近もの) | 2015 | (3.80) | (3.87) | (3.74) | (3.76) | (3.61) | (3.48) | (4.24) | (3.63) | (3.79) | (3.76) | (3.58) | (3.77) |
|                              | 2016 | (3.58) | (3.63) | (3.69) | (3.79) | (3.94) | (4.29) | (3.62) | (3.27) | (3.22) | (3.54) | (3.42) | (3.57) |
|                              | 2017 | (3.59) | (3.79) | (3.54) | (3.71) | (3.68) | (3.80) | (3.65) | (3.55) | (3.39) | (3.53) | (3.38) | (3.48) |
|                              | 2018 | (3.48) | (3.68) | (3.87) | (3.86) | (4.02) | (3.61) | (3.61) | (3.62) | (3.37) | (3.78) | (3.67) | (3.77) |
|                              | 2019 | (3.71) | (3.75) | (3.62) | (3.63) | (3.70) | (4.43) | (3.40) | (3.61) | (3.74) | (3.93) | (3.78) | (3.66) |
|                              | 2020 | (3.88) | (3.78) | (3.70) | (3.19) | (3.17) | (3.29) | (3.26) | (3.24) | (3.66) | (4.03) | (4.16) | (4.24) |
|                              | 2021 | (5.31) | (5.52) | (5.49) | (5.90) | (7.27) | (6.67) | (5.64) | (5.64) | (5.33) | (5.25) | (5.76) | (5.85) |
|                              | 2022 | (5.96) | (6.37) | (7.57) | (7.90) | (8.09) |        |        |        |        |        |        |        |

(注) シカゴ相場による月央の終値である (2022年4月分は4月14日、2022年5月分は5月16日)。



輸入食糧小麦の入札結果（港湾諸経費を除く）の概要

（単位：トン、円/トン）

| 入札月および積月 |     | 令和3年9月第2・3回入札分<br>(11月積み/12月到着) |                       |                                 | 令和3年10月入札分<br>(12・1月積み/1・2月到着) |                       |                                 | 令和3年11月入札分<br>(1・2月積み/2・3月到着) |                       |                                 | 令和3年12月入札分<br>(2・3・4月積み/3・4・5月到着) |                       |                                 |
|----------|-----|---------------------------------|-----------------------|---------------------------------|--------------------------------|-----------------------|---------------------------------|-------------------------------|-----------------------|---------------------------------|-----------------------------------|-----------------------|---------------------------------|
| 産 地 国    | 銘 柄 | 数 量                             | 落札価格<br>(加重平均)<br>※税別 | [参考値]<br>※左の税<br>込み価格<br>(税率8%) | 数 量                            | 落札価格<br>(加重平均)<br>※税別 | [参考値]<br>※左の税<br>込み価格<br>(税率8%) | 数 量                           | 落札価格<br>(加重平均)<br>※税別 | [参考値]<br>※左の税<br>込み価格<br>(税率8%) | 数 量                               | 落札価格<br>(加重平均)<br>※税別 | [参考値]<br>※左の税<br>込み価格<br>(税率8%) |
| アメリカ     | WW  | 45,637                          | 58,448                | 63,124                          | 38,405                         | 57,370                | 61,960                          | 64,404                        | 60,400                | 65,232                          | 76,309                            | 55,748                | 60,208                          |
|          | SH  | 24,845                          | 47,604                | 51,412                          | 67,260                         | 50,381                | 54,411                          | 82,125                        | 53,075                | 57,321                          | 98,180                            | 52,504                | 56,704                          |
|          | DNS | 44,020                          | 53,431                | 57,705                          | 42,057                         | 56,943                | 61,498                          | 62,058                        | 57,826                | 62,452                          | 115,514                           | 57,692                | 62,307                          |
|          | 小 計 | 114,502                         | 54,166                | 58,499                          | 147,722                        | 54,066                | 58,391                          | 208,587                       | 56,750                | 61,290                          | 290,003                           | 55,424                | 59,858                          |
| カナダ      | 1CW | 87,196                          | 48,957                | 52,874                          | 109,325                        | 52,794                | 57,018                          | 149,728                       | 54,884                | 59,275                          | 199,092                           | 54,878                | 59,268                          |
|          | 小 計 | 87,196                          | 48,957                | 52,874                          | 109,325                        | 52,794                | 57,018                          | 149,728                       | 54,884                | 59,275                          | 199,092                           | 54,878                | 59,268                          |
|          | ASW | 30,140                          | 47,850                | 51,678                          | 74,746                         | 47,104                | 50,872                          | 64,873                        | 44,854                | 48,442                          | 89,833                            | 46,841                | 50,588                          |
| オーストラリア  | 小 計 | 30,140                          | 47,850                | 51,678                          | 74,746                         | 47,104                | 50,872                          | 64,873                        | 44,854                | 48,442                          | 89,833                            | 46,841                | 50,588                          |
|          | 計   | 231,838                         | 51,386                | 55,497                          | 331,793                        | 52,079                | 56,245                          | 423,188                       | 54,266                | 58,607                          | 578,928                           | 53,904                | 58,216                          |

| 入札月および積月 |     | 令和4年1月入札分<br>(3・5月積み/4・6月到着) |                       |                                 | 令和4年2月、3月第1回入札分<br>(4・5・6月積み/5・6・7月到着) |                       |                                 | 令和4年3月第2・3回入札分<br>(5・7月積み/6・8月到着) |                       |                                 | 令和4年4月入札分<br>(6・8月積み/7・9月到着) |                       |                                 |
|----------|-----|------------------------------|-----------------------|---------------------------------|--|-----------------------|---------------------------------|-----------------------------------|-----------------------|---------------------------------|------------------------------|-----------------------|---------------------------------|
| 産 地 国    | 銘 柄 | 数 量                          | 落札価格<br>(加重平均)<br>※税別 | [参考値]<br>※左の税<br>込み価格<br>(税率8%) | 数 量                                    | 落札価格<br>(加重平均)<br>※税別 | [参考値]<br>※左の税<br>込み価格<br>(税率8%) | 数 量                               | 落札価格<br>(加重平均)<br>※税別 | [参考値]<br>※左の税<br>込み価格<br>(税率8%) | 数 量                          | 落札価格<br>(加重平均)<br>※税別 | [参考値]<br>※左の税<br>込み価格<br>(税率8%) |
| アメリカ     | WW  | 21,585                       | 57,639                | 62,250                          | 32,665                                 | 57,267                | 61,848                          | 38,812                            | 61,253                | 66,153                          | 25,965                       | 61,427                | 66,341                          |
|          | SH  | 49,215                       | 54,041                | 58,364                          | 54,385                                 | 55,955                | 60,431                          | 45,400                            | 67,225                | 72,603                          | 65,180                       | 71,803                | 77,547                          |
|          | DNS | 36,042                       | 55,905                | 60,377                          | 46,400                                 | 58,651                | 63,343                          | 24,778                            | 62,228                | 67,206                          | 30,474                       | 68,515                | 73,996                          |
|          | 小 計 | 106,842                      | 55,397                | 59,829                          | 133,450                                | 57,214                | 61,791                          | 108,990                           | 63,962                | 69,079                          | 121,619                      | 68,764                | 74,265                          |
| カナダ      | 1CW | 73,064                       | 53,982                | 58,301                          | 59,333                                 | 52,822                | 57,048                          | 108,539                           | 60,039                | 64,842                          | 71,747                       | 65,251                | 70,471                          |
|          | 小 計 | 73,064                       | 53,982                | 58,301                          | 59,333                                 | 52,822                | 57,048                          | 108,539                           | 60,039                | 64,842                          | 71,747                       | 65,251                | 70,471                          |
|          | ASW | 47,841                       | 44,496                | 48,056                          | 55,853                                 | 46,788                | 50,531                          | 50,230                            | 58,579                | 63,265                          | 86,115                       | 60,445                | 65,281                          |
| オーストラリア  | 小 計 | 47,841                       | 44,496                | 48,056                          | 55,853                                 | 46,788                | 50,531                          | 50,230                            | 58,579                | 63,265                          | 86,115                       | 60,445                | 65,281                          |
|          | 計   | 227,747                      | 52,653                | 56,865                          | 248,636                                | 53,824                | 58,130                          | 267,759                           | 61,362                | 66,271                          | 279,481                      | 65,299                | 70,523                          |

(注)上表の詳細は、農林水産省ホームページ「農産局」>米(稲)・麦・大豆>入札・定例販売情報「輸入米取引入札運賃資料」>麦・一般麦を検索して輸入小表に該当する箇所をご覧ください。  
(資料：農林水産省農産局農産政策部貿易業務課)

## 振興会からのたより

### ■「食品と栄養のミニ移動教室」((一社)栄養改善普及会主催)に出席しました。



弊会では、(一社)栄養改善普及会が学生や主婦等を対象として開催する「ミニ移動教室」に協賛しており、今回、埼玉県越谷市で開催された移動教室に参加してきました。

移動教室は、コロナ禍で開催が延期されていましたが、4月下旬に15名の出席により開催されました。開催責任者から、弊会の「元気のみなもと小麦粉パワー」など配付資料の紹介をしていただき小麦粉の保存など事例をまじえての説明がありました。また管理栄養士(95歳の方)からは、当日作る「どんどん焼き」(溶いた小麦粉と具を混ぜて薄く焼き、箸にくるくる巻き付ける料理)について、少しの小麦粉と桜えび、ねぎ、チーズ、紅しょうが、青のり、かつお節などの簡単な材料でできることや子供の頃によく食べたことなどが紹介されました。この後、参加者は「どんどん焼き」と他に1品を料理し、最後に弊会職員も参加者の皆様とともに試食させていただきました。また弊会より小麦粉の保存方法等について詳しく説明し、「小麦粉を使う一番の悩みは残ってしまうこと」のご意見には、最近販売されている少量タイプのもので、ステックタイプ小麦粉、ボトルに入れてそのまま振って使用できる小麦粉など見本を提示して紹介しました。

コロナ禍の下、出席人数や開催時間が制限され、衛生管理の徹底等にはこれまで以上に工夫が求められる中での開催でしたが、参加者の皆様の熱心な様子に元気をいただいて参りました。



## —「ソフト＆ハード」(読者の欄)への投稿のお願い—

読者の皆様、弊振興会の広報誌「製粉振興」の内容を、より親しみのもてるものにするために、次のような内容の投稿をお待ちしていますので、記事をお寄せ下さい。

また、この広報誌の内容の充実を図っていきたくて考えていますので、ご意見等がございましたらお寄せ下さい。

- ・テーマは、小麦や小麦粉製品についての随想、紹介等と考えていますが、小麦と関係のない趣味などの話でも結構です
- ・投稿者名は実名でも筆名でも結構です
- ・長さは1,200字程度(1頁)とします ・掲載分には薄謝を呈呈します



「コナちゃん」

(マスコットの小麦粉の精)

### ★ 編集後記

●本号業界ニュースのとおり、この度吉原良一様が藍綬褒章を受賞されました。吉原様は現在弊社理事を務められ、弊社事業について日頃よりご指導いただいております。栄えあるご受賞を心よりお祝い申し上げます。

●本年4月期の政府売渡価格の大幅引上げや、ロシアのウクライナ侵攻等の影響で国際穀物相場の高騰が引き続く中で、原料小麦の引上げによる小麦粉製品の小売価格への影響試算(本号21～22ページ)が、マスコミ等でもしばしば取り上げられます。本試算は、純粋に製品中の小麦粉原料の値上げ分のみを反映させたものですが、現実には、加工業者は他の資材・エネルギー価格、人件費等の増加分も適正に価格に反映させなければ、安定的・持続的に製品を供給していくことはできません。政府の試算の扱いには十分な理解と注意が必要ではないかと感じる次第です。

●本号では、弊社監事を長くお務めいただいた小泉日東製粉(株)顧問に、長年食料貿易に関わられたご経験も踏まえた気候変動による業界への影響やその対応に向けた提言等を寄稿いただきました。ウクライナで目下も進行中の「人災」、そして気候変動を背景とする「天災」の発生頻度などを見るにつけ、同じ地球上に住む私たちが日々ほどほどのコストで豊かな食生活を享受できている状況が、実際奇跡的なバランスの上に成り立っているものではないかと感じざるをえません。そして絶えざる状況変化に対応できるよう、頭と心を柔らかく保ちたいものだと思います。

本ページ上部に記載のとおり、弊社では読者の皆さまからのご寄稿を常時募集しておりますので、どうぞ皆さまの声をお寄せください。 編集人

●第58回製粉教室の開催については、予定通り5月30日(月)～6月7日(火)の7日間、製粉会館等で実施する準備を進めています。ケーキ・製パン、製めんの実習は6月1日～6月3日に予定されており、会場をお借りするのは日本パン技術研究所(西葛西)です。

新型コロナ対策については、昨年引き続き十分注意しながら実施していきますので、ご協力の程よろしく申し上げます。現在テキストの作成の準備を行っています。参加される企業様、受講生様にはご提出書類等を忘れずにご持参し、開催に当たっては改めてご理解、ご協力の程をよろしく申し上げます。

●本誌の今月号から「業界ニュース」コーナーの充実を図っていきますので、皆様からの積極的な投稿をお待ちいたしております。 稲谷

●業務日誌でもご紹介しました「小麦粉の魅力」が14年ぶりに再改訂されました。この書籍は小麦・小麦粉を科学の目からみたものや国内産&外国産小麦の品種の紹介、小麦粉の栄養源、小麦がどのように加工され小麦粉になり消費者の元に届くのか、小麦粉の種類によって使われ方の違い、安全に食べるための残留農薬の話などが詳しく書かれています。前回版からデータ類は全てアップデートされ、カラー構成にして見やすくし、またユニバーサルデザインフォントを使用し読みやすくする工夫をしました。新たなデータなども加え、さらにバージョンアップ!各方面の方々のご協力により完成しました「小麦粉の魅力-再改訂版」を是非ご活用いただければと思います。書籍のお申込みは弊社ホームページの申込みフォーム、お電話、FAXと受け付けております。お問い合わせをお待ちしております。 編集者S

製粉振興 5月号 (No.618)

発行／令和4年5月20日

編集発行人／佐藤 秀夫

発行所／一般財団法人 製粉振興会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町15番6号  
製粉会館2階

Tel.(03) 3666-2712 (代表)

Fax.(03) 3667-1883

<http://www.seifun.or.jp>

E-mail:info@seifun.or.jp

禁無断転載

本誌において、個人名による掲載文のうちの意見にわたる部分は、  
筆者の個人見解である。